

第 46 回沖縄県学校体育研究発表大会 八重山大会

研 究 紀 要

【研究主題】

「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」

～発見した課題を合理的な解決に導く授業の創造と展開～



- 【期日】 令和 7 年 11 月 21 日（金） 9：30～16：45
- 【主催】 沖縄県学校体育研究連合会 沖縄県教育委員会
- 【共催】 石垣市教育委員会

目 次

沖縄県学校体育研究連合会 会長あいさつ

沖縄県教育庁保健体育課 課長あいさつ

大会実施要項

実行委員会組織表

特別講演

公開授業

○小学校

○中学校

○高等学校

研究発表

○小学校

○中学校

○高等学校

学校体育研究連合会設立の趣旨及び経緯

学校体育研究発表大会開催状況及び役員等一覧

沖縄県学校体育研究連合会表彰規定

全国学校体育功労者及び県内功労者受賞者一覧

挨拶



沖縄県学校体育研究連合
会 長 宇地原 光
(沖縄県立石川高等学校校長)

自然豊かで貴重な野生生物の宝庫である石垣市において、県内各地から学校体育に深い理解と情熱をもった皆様をお迎えし、「第４６回沖縄県学校体育研究大会（八重山大会）」を開催できますことを心より嬉しく思います。

本研究会は、昭和５０年に体育教師有志によって「全県的な研究組織のもと、全国や九州の組織と連携し研究を進め、本県の学校体育の発展に尽力したい」との熱い思いで立ち上げた組織であり、本会は今年度で５０年目を迎えます。これまで、多くの先輩方が本会に携わり、設立当時の情熱を継承してきました。そして今、会場の皆様とともに、沖縄県学校体育研究大会（八重山大会）を迎えられることに深い感謝と大きな喜びを感じております。

また、県内各地から参加された学校体育関係者の皆様には、たゆまない学校体育への充実と発展に尽力を賜り、心からの感謝を申し上げます。

さて、新学習指導要領では、「心と体を一体として捉え、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの実現を重視」「体験的な活動を重視して、（する・みる・支える・知る）のスポーツとの多様な関わり方や保健の技能について内容を改善」「体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方が共有できるよう配慮」が改訂のポイントになっています。

そこで、令和５年度から新たな研究主題を「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」と設定し、小学校では「する・みる・支える・知る、自ら進んで課題に取り組み共に学び合う体育学習」中学校では「より良いゴールを目指して、共に学び合う保健体育学習」高等学校では「豊かなスポーツライフを実現できる資質・能力を育む保健体育学習」を副題として各校種とも研究を進めて頂きました。分科会では、小・中・高等学校の授業が公開され研究発表や研究協議会を通して、今後の体育・保健体育学習の充実に繋がる有意義な会となることを願っています。

さらに、桐蔭横浜大学スポーツ科学部スポーツ教育学科教授の佐藤豊先生を迎え「１２年間の系統性を踏まえた体育科・保健体育科の授業」という演題でのご講演を予定しています。

保健体育科改定の基本的な考え方では、体育及び保健において、小中高の系統性のある指導ができるように示す必要がある」とされ、皆様の意を射貫く、講演になると確信します。

本日は当会において、永年にわたり本県学校体育の充実・発展に寄与された、全国学校体育研究優良校の中城小学校、全国学校体育研究功労者３名の先生方、県功労者１０名、県奨励者３名の先生方が受賞されます。学校体育の振興、発展に顕著な業績をあげた学校ならびに体育指導者に改めて心より敬意と感謝を申し上げます。

結びに、本大会を開催するあたり、ご支援・ご協力を賜りました沖縄県教育委員会、開催地としてご協力頂きました石垣市教育委員会、分科会会場を快く引き受けて下さいました石垣市立平真小学校、石垣第二中学校、県立八重山高等学校、並びに授業者を引き受けて頂いた平真小学校、八島小学校、石垣中学校、石垣第二中学校、八重山高等学校、関係各位の皆様には、心より感謝を申し上げますとともに、本大会の成功を祈念し会長のあいさつといたします。



挨拶

沖縄県教育庁保健体育課
課長 遠 越 学

第46回沖縄県学校体育研究発表大会が「青く透き通った海に抱かれた魅力的な島」八重山において開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

日頃より、子どもたちの心身の健康の保持増進並びに学校体育の充実・発展に御尽力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年の夏も、県民の多くの応援や支援があり、高校野球の甲子園での優勝や、全国中学生空手道選手権3連覇など多くの活躍がありました。未来を担う子どもたちの活躍は大きな希望と勇気を与えるものであります。

さて、社会環境が急激に変化するということが当たり前のようになっている近年、子どもたちを取り巻く環境の変化も著しくなっております。このような時代にあって、体を動かし、身体能力を身に付けるとともに、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力の育成といった、学校体育・保健に関する内容は極めて重要なものであります。

県教育委員会としましても、「健やかな心と体を育む教育の充実」を学校教育における指導の努力事項に掲げ、子供たちが心身ともに健やかな成長を遂げることができるよう学びの保障に向け、諸事業に鋭意取り組んでいるところであります。

本大会が、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育学習」を研究主題に掲げ、各校種、各地区における実践研究の集大成として開催されますことは、誠に時宜を得たものであります。

そのような中、本日は、桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部教授佐藤豊氏に「12年間の系統性を踏まえた体育科・保健体育科の授業」と題し、御講演をお願いしております。ご参加の皆様には学習指導要領に沿った体育・保健体育科の学習においてどのように授業づくりを行っていくのか、多くのことをご教授いただけるものと確信しております。

なお、この度、永年にわたり学校体育の発展に御尽力された功績が認められ、表彰される皆様方には心から敬意を表しお祝いを申し上げます。

結びに、本大会を開催するにあたり、お力添えをいただきました関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、ご参加いただきました皆様のご健勝と益々のご活躍ならびに、沖縄県学校体育研究連合会の更なるご発展を祈念申し上げます、挨拶といたします。

令和7年度 第46回 沖縄県学校体育研究発表大会（八重山大会）開催要項

1 趣旨

児童生徒が生涯を通じて主体的に運動に取り組み、自ら学ぶ意欲を持つとともに、明るく豊かで活力に満ちた生活を営む能力や態度を養うことは、学校体育の重要な役割である。

そこで、本大会は下記の主題を設定し、研究発表及び研究協議を深め、今後の学校体育の充実発展に寄与する。

2 研究主題（令和5年～令和7年）

「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するとともに、
継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」
～発見した課題を合理的な解決に導く授業の創造と展開～

3 主 催 沖縄県学校体育研究連合会 沖縄県教育委員会

4 共 催 石垣市教育委員会

5 日 時 令和7年11月21日（金）9:30～16:45（9:00受付）

6 会 場

開会式・表彰式：石垣市民会館（石垣市浜崎町1丁目1-2番地）

特 別 講 演：石垣市民会館

分 科 会：小学校 石垣市立平真小学校（石垣市平得174番地）

：中学校 石垣市立石垣第二中学校（石垣市登野城1078番地）

：高等学校 沖縄県立八重山高等学校（石垣市登野城275番地）

7 副題

小 学 校 「する・みる・支える・知る、自ら進んで課題に取り組み共に学び合う体育学習」

中 学 校 「より良いゴールを目指して、共に学び合う保健体育学習」

高 等 学 校 「豊かなスポーツライフを実現できる資質・能力を育む保健体育学習」

8 日程

9:00 9:30 10:20 12:00 12:30 ※各校種によって公開授業の時間が異なります。

受付	開会式 表彰式	特別講演	アトラクション	昼食 会場移動	公開授業	会場準備	研究発表 並びに 研究協議	校種別 閉会式
----	------------	------	---------	------------	------	------	---------------------	------------

※各校種によって終了時間が異なります

校種	公開授業	研究発表並びに研究協議
小	14:00～14:45	15:15～16:45
中	13:40～14:30	14:50～16:45
高	13:50～14:40	15:00～16:45

9 特別講演（10:20～12:00）80分

演題 「12年間の系統性を踏まえた体育科・保健体育科の授業」

講師 佐藤 豊 氏（桐蔭横浜大学 スポーツ科学部 スポーツ教育学科 教授 スポーツ科学部長）

10 公開授業

校種別	会場校(学校長)	学年	授業者	領域名・単元名
小学校	石垣市立 平真小学校 (大浜 譲)	6 年	宜保勇人	運動領域 ボール運動 「フットホッケー」
		4 年	(八島小学校) 下地千佳子 伊舎堂優子	保健領域 「体の成長とわたし」
中学校	石垣市立 石垣第二中学校 (宮良 篤)	2 年	宮良当志郎	運動領域「ダンス」 現代的なリズムのダンス
		3 年	(石垣中学校) 大和田享弘	保健領域 3 学年 「健康な生活と病気の予防」
高等学校	沖縄県立 八重山高等学校 (大城まち子)	3 年 (1 年)	吉永安二	スポーツⅡ ターゲット型 「モルック」

11 研究発表

校種別	学校名	発表者	テーマ
小学校	国頭村立 辺士名小学校	口頭発表 屋良昇洋	対話と協同で育むソフトバレーボール授業 ー子どもの安心・挑戦・成長を支える授業展開ー
	那覇市立 天妃小学校	誌上発表 宮平一希	仲間と共に学び合い、主体的に活動する児童の育成 ーマット運動における関わり合う場の設定の 工夫を通して(第5学年)ー
	多良間村立 多良間小学校	誌上発表 名嘉真静香	健康課題の解決に向けて主体的に取り組む多良間っ子の育成 ー実生活に生かすための指導の工夫を通してー
中学校	那覇市立 小祿中学校	口頭発表 銘苺瑛子	自立した学習者の育成
高等 学校	県立八重山 商工高等学校	口頭発表 友利志朋子	「思考力・判断力・表現力」を育むための指導の工夫 ーICT の活用を通してー

12 分科会別指導助言者

校種別	助言者	所属及び役職
小学校	宮良 善起(運動領域及び研究発表)	石垣市教育委員会 指導主事
	半嶺 当陽(保健領域)	八重山教育事務所 社会教育主事
中学校	手登根 広幸(運動領域及び研究発表)	与那国町立久部良中学校 校長
	神谷 千恵子(保健領域)	竹富町立竹富小中学校 教頭
高等学校	伊佐 義史	沖縄県立総合教育センター 研究主事

13 参加対象者

- (1) 県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭・校長等
- (2) 保健体育行政関係者及び社会体育等の指導者及び大学の研究者
- (3) 一般参加者

14 参加申し込み方法

- (1) 大会参加費 2,000円
- (2) 参加申し込み
パソコン、携帯電話等より右記の URL 入力
または QR コードを読み取りいただき、
令和7年10月31日(金)までにお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/5pVUneRsnt>



(3) 大会参加費のお支払い

所属の校種の振込先口座へお振り込みをお願いします。(払込手数料はご負担願います)

支払期限:令和7年10月31日(金)

※大会運営上、入金後の参加者都合による不参加の場合、返金はいたしかねます、ご了承ください。

小学校 沖縄海邦銀行 店番号(002) 口座番号(普) 939731
銀行コード 0596 新垣 源太(沖縄県小学校体育研究会会計)

中学校 琉球銀行 古波蔵支店 店番号(319) 口座番号(普) 381893
沖縄県中学校体育研究会

高等学校(行政・研究者・一般等はこちらへお振り込みください)

沖縄銀行 田原支店 店番号(137) 口座番号(普) 1558086

沖縄県高等学校保健体育研究会 会長 宇地原 光

(4) 問い合わせ

小学校 理事長 具志堅太一 メールアドレス:gushihitca@open.ed.jp

中学校 理事長 具志寛春 メールアドレス:gushihr@open.ed.jp

高等学校 理事長 前城優子 メールアドレス:noharayu@open.ed.jp

(5) 航空券・宿泊・昼食等について

参加者各自で対応をお願いします。

15 沖縄県学校体育研究発表大会 年度別開催地

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
地区名	中頭	国頭	八重山	那覇	島尻
九州大会	大分県	沖縄県	熊本県	福岡県	鹿児島県

第46回沖縄県学校体育研究発表大会（八重山大会）実行委員会

NO	役職名	所属・職名	氏 名
1	実行委員長	沖縄県学校体育研究連合会会長（石川高等学校 校長）	宇 地 原 光
2	副委員長	沖縄県学校体育研究連合会副会長（若狭小学校 校長）	照 屋 謙 二
3		沖縄県学校体育研究連合会副会長（首里中学校 校長）	島 袋 勝 範
4		沖縄県学校体育研究連合会副会長（八重山高等学校 校長）	大 城 ま ち 子
5	委 員	沖縄県学校体育研究連合会理事長（沖縄水産高等学校 教諭）	前 城 優 子
6		沖縄県学校体育研究連合会事務局長（南風原高等学校 教諭）	新 垣 智 也
7		沖縄県学校体育研究連合会 会 計（那覇国際高等学校 教諭）	石 嶺 ス ー ザ ン
8		沖縄県学校体育研究連合会理事（陽明高等学校 教頭）	前 村 幸 芳
9		沖縄県学校体育研究連合会理事（前原高等学校 教頭）	城 田 亮
10		沖縄県学校体育研究連合会理事（長嶺中学校 校長）	新 崎 峰 子
11		沖縄県学校体育研究連合会理事（浦添中学校 教頭）	根 間 光 代
12		沖縄県学校体育研究連合会理事（竹富中学校 教頭）	神 谷 千 恵 子
13		沖縄県学校体育研究連合会理事（泊高等学校 教頭）	岸 本 こ ず え
14		沖縄県学校体育研究連合会理事（浦添小学校 教諭）	具 志 堅 太 一
15		沖縄県学校体育研究連合会理事（松城中学校 教諭）	具 志 寛 春
16		沖縄県学校体育研究連合会理事（佐敷中学校 教諭）	中 村 義 智
17		沖縄県学校体育研究連合会理事（宜野湾高等学校 教諭）	金 城 真 由 美
18		沖縄県学校体育研究連合会理事（県教育庁保健体育課）	和 仁 屋 恒 輝

第46回 沖縄県学校体育研究発表大会（八重山大会） 実行委員会 組織図

大会実行委員会

沖縄県学校体育
研究連合会事務局

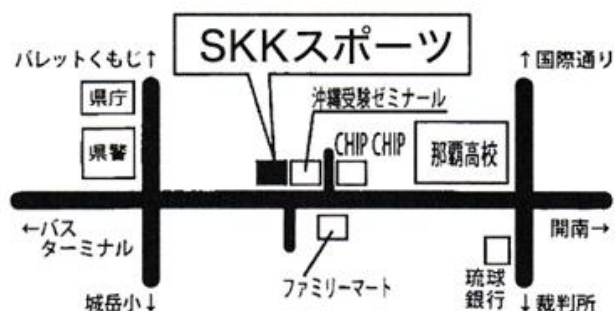
役員及び各部会	小学校	中学校	高等学校	全体会
<企画調整> 総合企画に関すること 連絡調整に関すること 宿泊輸送に関すること	照屋謙二 若 狭 屋宜健 嘉 芸 根保輝 北 玉 高島友幸 船 越 平良吉嗣 池 間 磯部大輔 真 喜 具志堅太一 浦 添	島袋勝範 首 里 高原直樹 伊 原 荷川取健 黒 島 前底さゆり 石 垣 具志寛春 松 城 中村義智 佐 敷 田港朝也 高 嶺 白石珠美 伊 波 嘉陽尚也 糸 満 與那嶺加帆 神 森 中島 均 コザ 平数可那子 南 風 國吉勇多 知 念	宇地原光 石 川 大城まち子 八 重 前村幸芳 陽 明 城田亮 前 原 岸本こずえ 泊 前城優子 沖 縄 新垣智也 南 風 石嶺スーザン 那 覇 金城真由美 宜 野	宇地原光 石 川 大城まち子 八 重 島袋勝範 首 里 岸本こずえ 泊 神谷千恵子 竹 富 前城優子 沖 縄 新垣智也 南 風 石嶺スーザン 那 国 具志堅太一 浦 添 具志寛春 松 城 中村義智 佐 敷 前底さゆり 石 垣
<庶務・会計> 文書発送に関すること 予算決定に関すること	〔2名〕 上原相之 神 原 新垣源太 若 狭	〔2名〕 浅井みさ乃 石 垣 城間美奈子 古 蔵	〔2名〕 石嶺スーザン 那 国 新垣智也 南 風	【庶務・会計】 石嶺スーザン 那 国 新垣智也 南 風
<受付・接待> 役員起章に関すること 受付・案内・接待に関すること	【受付】 〔3名〕 金城梢 平 真 久高麻子 八 重 【接待】 〔2名〕 砂川香菜子 石 垣 岡崎桃子 真 喜	【受付】 〔3名〕 竹内梢 与 那 眞境名千尋 大 浜 南慎太郎 川 平 【接待】 〔2名〕 上原まどか 石 垣 山里恵美 石 垣	【受付】 【接待】 〔3名〕 石垣 慎希子 八 重 米盛 博次 八 重 金城真由美 宜 野	【受付・接待】 小中高各2名 ＜小学校＞ 金城梢 平 真 田島心気朗 波 照 ＜中学校＞ 竹内梢 与 那 上原まどか 石 垣 ＜高等学校＞ 石垣 慎希子 八 重 米盛 博次 八 重
<発表・公開授業> 研究発表及び公開授業に関すること 司会に関すること 助言者及び記録に関すること	【司会】 〔2名〕 大城良太 真 喜 金城幸忠 八 島 【記録・写真】 〔2名〕 下地政史 平 真 森亮介 新 川	【司会】 〔2名〕 池城博史 大 浜 新崎健 石 垣 【記録・写真】 〔2名〕 長嶺啓太 名 蔵 清山肇 石 垣	【司会】 〔1名〕 宮良 博寿 八 重 【記録・写真】 〔2名〕 島袋 拓磨 八 重	【表彰・リボン付け】 〔2名〕 辻川 ゆかり 八 重 新垣 詠子 八 重 【記録・写真】 〔2名〕 宮良 博寿 八 重 島袋 拓磨 八 重
<会場係> 会場の設定及び準備・装飾・掲示に関すること 駐車場案内の設置及び表示に関すること	〔6名〕 金城一機 大 平 石垣誓輝 真 垣 平地竜樹 石 垣 鈴木祥一郎 小 浜 新城海斗 八 島 野底吉忠 宮 良 川島海斗 与 那 伊佐琢磨 石 垣	〔5名〕 仲本英基 船 浦 山城慧 大 浜 波平邦秀 白 保 新崎尚武 大 浜 入嵩西晴仁 石 垣	〔2名〕 照屋 拓己 八 重 真玉橋 治 八 重	【全体会場】 〔6名〕 照屋 拓己 八 重 真玉橋 治 八 重 高2名
<進行係> 司会進行に関すること 放送音楽に関すること	〔3名〕 入波平信吾 白 保 小松芳 白 保 桑江朝暉 大 浜 田島心気朗 波 照	〔3名〕 荷川取保 石 垣 宜保勝之 石 垣 波照間永仁 小 浜	〔3名〕 辻川 ゆかり 八 重 新垣 詠子 八 重 福島 伸朗 首 里	【司会】 〔1名〕 小川 清乃 八 重 【進行】 〔2名〕 福島 伸朗 首 里 【音響】 〔2名〕 石垣市民会館

祝第 46 回沖縄県学校体育研究発表大会 (八重山大会)



合同会社 SKKスポーツ

沖縄県那覇市松尾1-20-15
TEL (098) 863-8382
FAX (098) 863-8398
平日 AM9:30 ~ PM6:00



東京書籍の 学習者用デジタル教科書で Google 翻訳が 使えるようになりました

外国につながるのがある生徒の学びをサポート

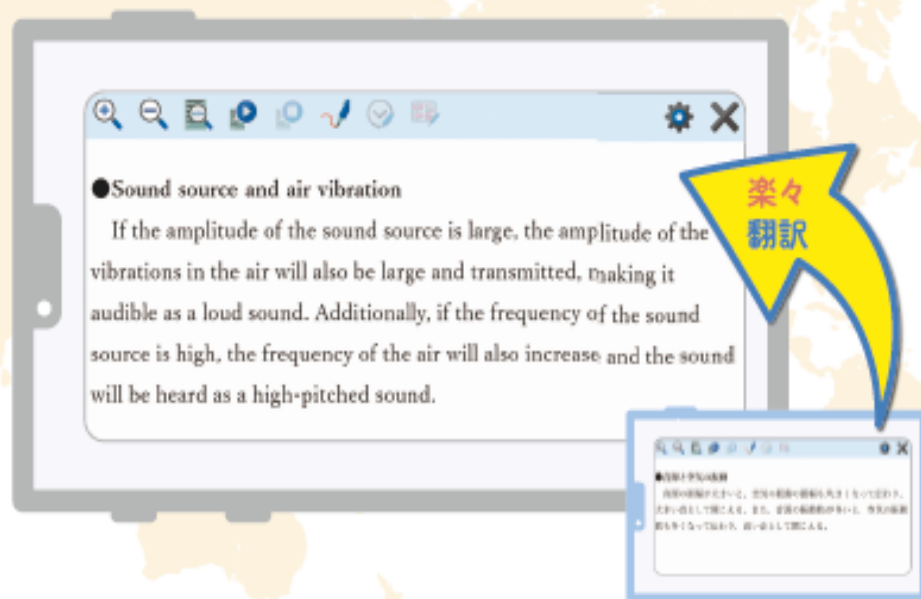
対応言語

全 **133** 言語

Google 翻訳対応言語

ポルトガル語 中国語(簡体字)
中国語(繁体字) タガログ語
スペイン語 ベトナム語 英語
韓国語 アラビア語 イタリア
語 インドネシア語 ウクライ
ナ語 ウルドゥー語 タイ語
ドイツ語 トルコ語 ネパール
語 フランス語 ミャンマー語
モンゴル語 ロシア語 など

学習者用デジタル教科書のポップアップ画面で
Google 翻訳を利用しやすくなりました!



ブラウザに Google 社提供の拡張機能「Google 翻訳」を追加し、学習者用デジタル教科書を開いた状態で Google 翻訳を選択することで、ご利用いただけます。

【ご利用にあたっての注意事項】

- ポップアップ画面のコンテンツおよびメニュー表示部分のテキストが翻訳の対象となります。画像化されたテキストは翻訳されません。
- 翻訳された結果は Google 翻訳によるものであり、東京書籍ならびに Lentrance がその正確性を保証するものではありません。
- Safari ブラウザでは、Google Chrome 拡張機能「Google 翻訳」をご利用いただけません。

※ Google Chrome, Google は、Google LLC の商標です。Safari は、Apple Inc. の商標です。Lentrance は、日本国、米国、およびその他の国における株式会社 Lentrance の登録商標、または商標です。

学習者用デジタル教科書 価格 ユーザーライセンス(年度末ライセンス)

小学校「 新編 新しいほけん 3・4 」	220円(本体200円)	ライセンス期間(最長)2年間
小学校「 新編 新しい保健 5・6 」	220円(本体200円)	ライセンス期間(最長)2年間
中学校「 新編 新しい保健体育 」	330円(本体300円)	ライセンス期間(最長)3年間



沖縄出版所
〒900-0025 那覇市豊川1-2-1
Tel: 098-834-8084
Fax: 098-834-8095

第46回 沖縄県学校体育 研究発表大会



八重山大会

沖縄県中学校体育研究会 編集

中学校 体育実技ノート

沖縄
県版

中学校 保健学習ノート



沖縄県小学校体育研究会 編
沖縄県版

小学校 保健ノート 3~6年

※写真やイラストをオールカラーで掲載し、児童に
親しみやすいノートです！

※県版資料を多数掲載！

※テストつき（3，4年1枚 5，6年2枚）



合資会社 沖縄時事出版



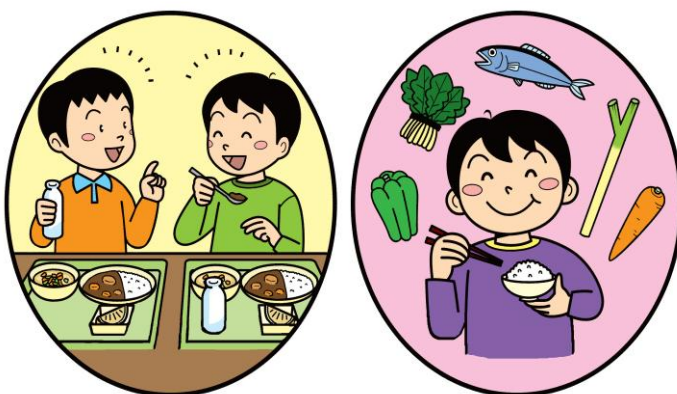
株式会社 沖縄学販

〒900-0025 那覇市壺川1-3-10

098-854-1622（沖縄時事出版）

098-854-1620（沖縄学販）

<http://www.oki-jiji.com>



学校給食は、

みんなと一緒においしく食べながら学ぶ生きた教材です。

これからも未来ある子どもたちのために、

「良質で安全・安心」な食材をお届けしてまいります。

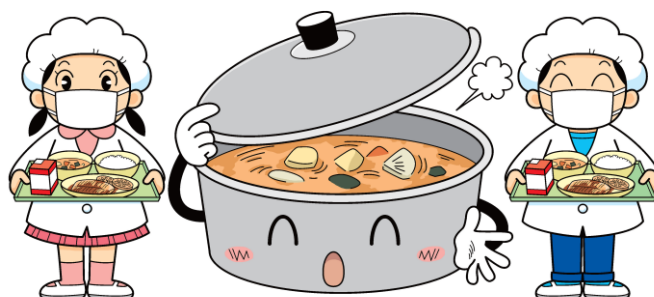


公益財団法人

沖縄県学校給食会

〒900-0029 那覇市旭町115番15

TEL (098)867-1493 FAX (098)867-7912



中学体育実技 学研

沖縄県版

沖縄県 中学生の体育資料内容

(沖縄県中学校体育研究会・編)

1. 沖縄県中学校生徒の体位と体力
2. 沖縄県中学校体育関係機関団体
3. 沖縄県中学校競技記録
4. 沖縄県の伝統武道 ー空 手 道ー
5. 沖縄県の伝統武道 ー沖 縄 角 力ー
6. 沖縄県の舞踊 ーかぎやで風節ー

<他体育関連メーカー>

・asics ・鶴沢ネット ・AKABANE ・EVER NEW ・Xanax
・KANEYA ・DESANT ・トーエイライト ・MIKASA ・Molten
・YONEX ・ワタナベマット ・他

(株) 学 秀 館

〒903-0103 沖縄県西原町小那覇 1499

Tel (098) 946-7944 fax (098) 946-5023

監修 長嶺文士郎

那覇市立安謝小学校教諭
那覇地区小体研所属
(松林流空手三代目)

沖縄
体育
新定番

音楽と指導号令にのせた
基本動作や普及形

ラジオ空手

はじめました

運動会や体育祭等
にいかがですか

カラテマスク

オジーマスク



赤瓦集落
かたあきの里

赤瓦と木の香りが誘う
心やすらぐ静寂のひととき



〒906-0011
沖縄県宮古島市平良東仲宗根港1186-1
Tel.0980-73-5338

かたあきの里 宮古島の赤瓦宿

<https://www.kataaki.com/>

ご来場の予約はホームページまたはお電話から



宮古島市 平良東仲宗根港

レンタカー・タクシーで18分

宮古空港

11km

宮古島市役所

宮古島市 平良東仲宗根港

レンタカー・タクシーで44分

宮古島市役所

14km

宮古島市役所

【特 別 講 演】

講 師

佐藤 豊（さとう ゆたか）

桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 教授

【演 題】

「12年間の系統性を踏まえた体育科・

保健体育科の授業」



演 題

「12年間の系統性を踏まえた体育科・保健体育科の授業」

講 師：佐藤 豊（さとう ゆたか）

桐蔭横浜大学 スポーツ科学部 スポーツ教育学科教授

スポーツ科学部長

体育科教育学、スポーツ教育学を専門とし、長年にわたり学校教育における体育指導の在り方について研究と実践を重ねています。

特に、**文部科学省の学習指導要領改訂**（平成20年～21年、平成29年～30年）に担当者として深く関わり、国の教育課程の基準作成に携わってきました。国立教育政策研究所での調査研究協力者として、評価基準や指導資料の作成にも従事するなど、**体育・保健体育科教育の第一線で日本の教育改革を牽引**してきた実績を持ちます。

また、全国各地で現職教員との協働ワークショップ「体育・保健体育研究会ネットワーク研究会」を主宰しており、11月22日に八重山にて開催される「シーサーラウンド」では、**ICTを活用した体育授業や新たな教員研修プログラムについてご教授いただきます**。多岐にわたる研究活動は、**東アジアスポーツ教育学会で韓国、台湾での基調講演を行う**など、高く評価されています。現在は、体育科教育の未来を見据え、教育現場と連携した実践的な指導法の開発に情熱を注いでいます。

主な活動・実績

- 2024年
 - スポーツ科学部長に就任
- 2023年～
 - 神奈川県内の公立中学校における部活動の地域移行に係る検討会 座長
- 2021年
 - スポーツ庁より「児童生徒の1人1台のICTを活用した保健体育授業の事例集作成」を受託
- 2020年
 - 文部科学省より「新型コロナウイルス感染症に対応した保健体育科の授業動画」作成を受託
- 2019年～
 - 横浜市、ソフトバンク、桐蔭横浜大学の産学官協働によるICTを活用した部活動支援システムを開発
- 2016年～2019年
 - 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究協力者
- 2012年～2019年
 - 日本学術振興会 科学研究費助成事業にて、教師養成・現職教員研修プログラムの開発研究を実施

沖縄そば 金太郎



南城市玉城字船越 1197

098-988-3430

営業時間 11:00～16:30 ラストオーダー

定休日：水曜日

ステップアップ 中学体育

改訂版!

楽しく学んで、
運動やスポーツの
知識と技能を
身につけよう!

- ① デザイン一新!
学習に役立つ写真・イラスト・
解説を効果的に配置。
- ② 主体性を高める
内容構成!
見通しをもって学習を進め
られるよう、めざす姿を明示。
- ③ デジタル教材が
充実!
二次元コードから
デジタル教材にアクセス可能。

●B5判・352頁 オールカラー
定価845円(税込)

大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

<https://www.taishukan.co.jp/>

★動きのポイントが
わかる動画



Otsuka 大塚製薬

第46回 沖縄県学校体育研究発表大会

子供達の未来に役立つ良い教材を
情熱をもってお届けしています！

学 校 教 材 全 般

友学友館

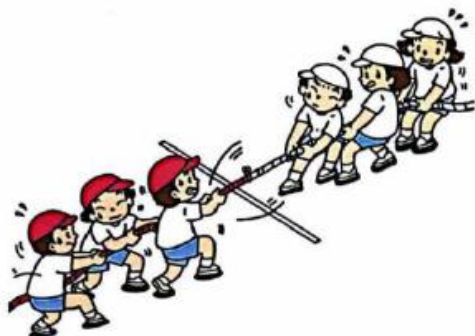


代表取締役社長 玉城 聡

宜野湾市野嵩 1-2 1-7 TEL 892-8353 FAX 892-1928

MIKASA
Sports every day!

ミカサボール取扱店



☆営業種目☆

理化学機器・試薬品ガラス器具等・視聴覚機器 体育器具等・教育環境施設備品等
一般教材教具全般 保健室用備品及び消耗品・医療機器 (AED)・幼稚園保育用品

(株)沖縄教育機材

本社 〒904-2155 沖縄市美原 4 丁目 10 番 10 号 TEL 937-7683・938-3229 FAX 938-4431

うるま支店 〒904-2302 うるま市与那城西原 589-3

TEL 923-5652

FAX 923-5653

小学校《公開授業》

所属	授業者	学年	領域名・単元名
石垣市立 平真小学校	宜保勇人	6 年	運動領域 ボール運動 「フットホッケー」
石垣市立 八島小学校	下地千佳子 伊舎堂優子	4 年	保健領域 「体の成長とわたし」

第6学年 体育科学習指導案

令和7年 11月21日(金) 5校時
 石垣市立平真小学校 6年3組 33名
 授業者 宜保 勇人
 共同研究 八重山地区小学校体研究会

I 八重山地区小学校体育研究会 研究テーマ

「資質・能力を豊かにする主体的な学び」を深める児童の育成
 ～主体的な学びの視点を取り入れた学習過程と見取り方の工夫を通して～

II 研究の目的

現代社会は、高齢化や人口減少、AI技術の急速な発達等により、予測困難な時代を迎えている。中央教育審議会答申（令和3年1月26日）において、「社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要がある、そのためには、新学習指導要領の着実な実施が重要である」と提言された。それを踏まえ、これからの学校教育を「令和の日本型学校教育」と位置づけ、全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による資質・能力の育成を図る教育が進められている。

本研究会においては、これまで「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力に重点を置き、「アウトプット（表現）」ができるよう、知識・技能をいかに「インプット」させるか研究を行ってきた。

「思考力、判断力、表現力等」を育むための工夫として、きりりタイムの設定や振り返りシートでの見取り、ICTの活用等により、表現力の向上に一定の成果が見られた。令和6年度には、「豊かなスポーツライフを育成する自己調整力の育成」をテーマに、児童が自ら学習の場や学習方法を選択し、主体的に粘り強く学習に取り組む姿を目指した。その成果として、自ら目標を立て課題に取り組み、その過程で他者と協働したり、ICTを活用したりする等、主体的に学習に取り組む様子が見られた。

しかし、その一方で振り返りシートを活用した見取りにおいて、適切な支援や助言が不十分であったことや、運動領域においては、運動能力の差により積極的に授業に参加することができない児童が見られた。また、保健領域においても、授業での学びを実生活と関連付けて考えることが苦手等の課題が挙げられた。

その要因として、「主体的な学び」と関連する3つの「学びの保障」が十分でないことが推測された。

- ①児童の実態に合わせた学びの保障：児童自身が学びたいと思える目標・内容になっているか。
- ②主体的な学びの保障：児童の思いや考えが反映されているか。
- ③全員参加の保障：能力の高い児童中心となっていないか。

そのため、本研究会では、「主体的な学びの視点（鈴木2018）」を参考に、運動したくなる学び（土台）→問いが生まれる学び（調整）→問い続ける学び（将来）の連続性の枠組みを基に研究を進める。また、学習過程（単元デザイン）の工夫、児童自身が課題に対して取り組む姿や、振り返りシートの見取り方の工夫を通して、上記の課題である3つの学びを保障し、資質・能力を豊かにする主体的な学びを深める児童の育成を目指す。

まず、学びの土台として、児童が学ぶ意義を感じ、興味・関心を持つ等、学びを自分事として捉えることが大切である。そこで、「①児童の実態に合わせた学びの保障」については、教材への出会いを大事にし、児童が学びたいと思える内容・目標を意識した手立てを講じながら、学ぶ意欲と関心を高め「自分事」として学びに向かえるよう学習展開を図る。

次に「②主体的な学びを保障」するために、学習過程（単元デザイン）の工夫を通して、児童の実態や学習状況に応じて、教師が示したり教えたりする場面や、子供が自己選択・自己決定して学びとる場面を適切に設定し、児童が選択・決定した活動に対して、適切な支援や助言を行っていく。

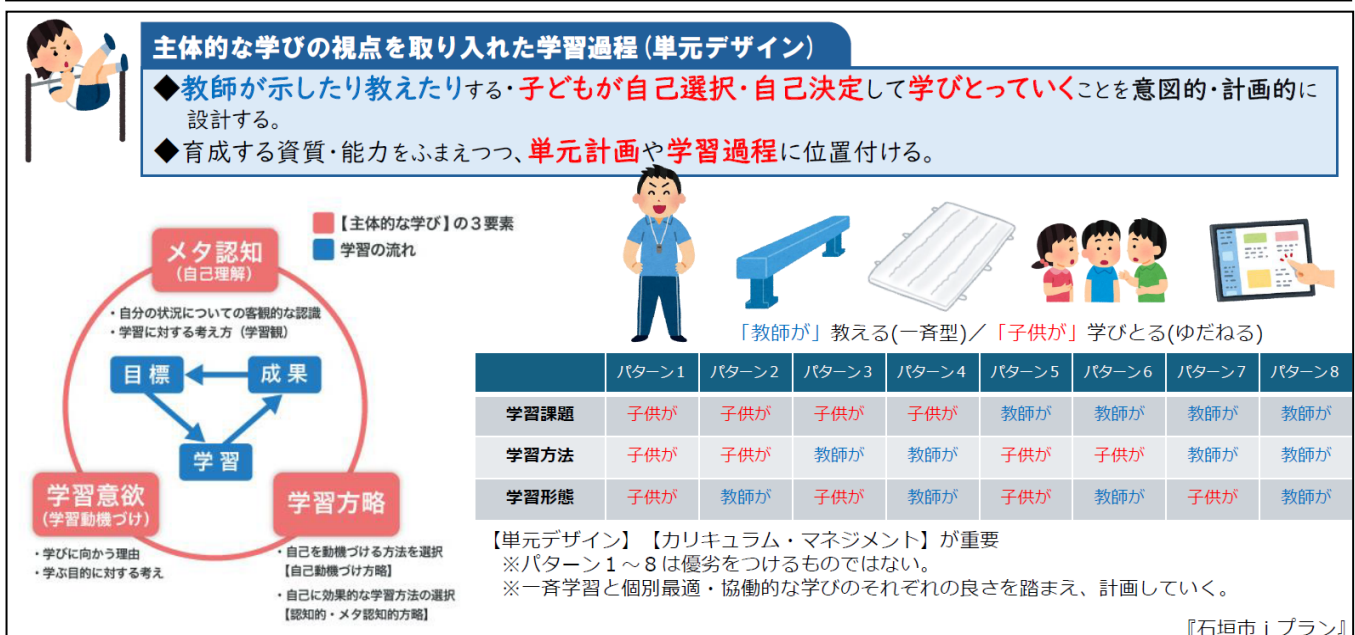
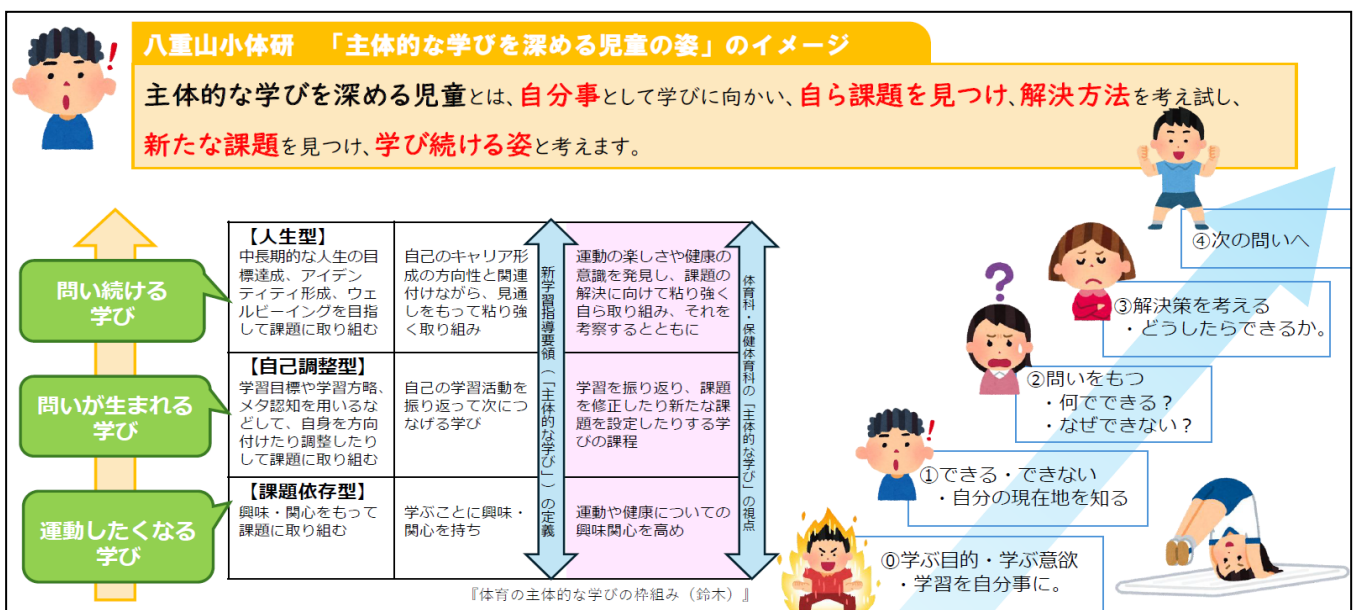
さらに、「③全員が学習に参加」できるように、振り返りシート等を活用することで、児童が自身の現在地を知り、その中で、多様な他者と協働し、粘り強く課題に取り組むことで、運動の楽しさや健康への意識の高まりを実感し、児童一人ひとりが主体的に取り組む姿を目指す。「主体的な学びの視点(鈴木 2018)」を基に、学びを保障することで「学びに向かう力、人間性等」が高まり、それが「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を豊かにすると考え、本テーマを設定した。

Ⅲ 研究内容

- 1 主体的な学びの視点を取り入れた学習過程（単元デザイン）
- 2 振り返りシート（数値化・ルーブリック評価）を活用した児童の見取り、指導の改善
- 3 ICT機器の効果的な活用

Ⅳ 目指す児童の姿

主体的な学びを深める児童とは、「自分事として学びに向かい、自ら課題を見つけ、解決方法を考え試し、新たな課題を見つけ、学び続ける姿」とする。



V 単元名 ゴール型 「フットホッケー」

VI 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>ゴール型（フットホッケー）の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解することができるようにする。</p> <p>ボール操作とボールをもたないときの動きによって簡易化されたゲームをすることができるようにする。</p>	<p>ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり、考えたりすることができるようにする。</p> <p>自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p>	<p>運動に積極的に取り組み、ルールを守り、助け合って運動することができるようにする。</p> <p>場や用具の安全に気を配り、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたりできるようにする。</p>

VII 「する・みる・支える・知る」を関連付けた学習活動について

「する・みる・支える・知る」を関連付けた学習活動において、「する」の観点では、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり、練習に取り組んだりする場面で、「みる」の観点では、運動の特性や行い方をみつけたり、自己やチームの特徴や良さ、課題をみつけたりする場面において ICT 端末を効果的に活用しながら活動していく。

	する	みる	支える	知る
視点を取り入れる良さ	自ら体を動かし、知識及び技能を学び、作戦を考えたり、チャレンジしたりすることで運動の楽しさを味わうことができる。	仲間やチームのゲームを観察し、個人やチームの動きの分析などをして、自らの動きに生かしていく楽しさを味わうことができる。	その運動がスムーズに行えるように、協力や貢献などのサポートする楽しさを味わうことができる。	その運動の歴史やルール、文化、できた理由などを知ることで、より深く運動を味わう楽しさを味わうことができる。
具体的な例 (ボール運動)	○パス・シュート(ドリブル)の動き ○守り方 ○ボールをもたないときの動き	○観察・分析(なぜシュートできたのか?なぜパスがよくつながるのか?)	○審判 ○得点係 ○準備、片付け ○応援など	○種目の起源や歴史 ○ルール ○作戦 ○健康とのつながり(生涯スポーツ)
【見取り】 知識・技能	運動の特性や行い方を理解し、技能を身に付けることができる。	運動の特性や行い方をみつけることができる。	運動の特性や行い方を共有することができる。	運動の特性や行い方を知ることができる。
【見取り】 思考・判断・表現	自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり、練習に取り組んだりできる。	自己やチームの特徴や良さ、課題をみつけることができる。	自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	自己やチームの特徴や良さ、課題を知ることができる。

VIII 運動の特性について

1 一般的特性

- (1) 二次元的なディスクの動きであるため、ゴール型運動の中でも活動しやすい運動である。
- (2) ディスク操作がボールに比べ容易であり、基本的な操作技能の向上が図りやすい運動である。
- (3) ディスクをもっていない児童の動きについて考えさせることで、ゴール型運動の特性にふれやすい運動である。

2 児童から見た特性

- (1) ディスクがやわらかいため恐怖心が軽減され、安心感をもつことができる運動である。
- (2) 技能の向上やチームで協力することで、楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- (3) 仲間と作戦を立てることで、戦略の工夫や集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

IX 単元について

1 教材観

「小学校学習指導要領解説 体育編（以下『解説体育編』）」において、「ゴール型では、その行い方を理解するとともに、投げる、受ける、蹴る、止める、運ぶ、手渡すといったボール操作とボール保持者からボールを受けることができる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによって、攻撃側にとって易しい状況の中でチームの作戦に基づいた位置取りをするなどの攻守入り混じった簡易化されたゲームや陣地を取り合う簡易化されたゲームをすること」と示されている。ボール運動は、ボール操作とボールを持たないときの動きがあり、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって、仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。特にゴール型は、攻撃と守備が入り交じり、ボールを取られたりすることによる攻守の切り替えが多く、展開の早さにより、運動の楽しさを味わうことができる。しかし、その反面、攻守の切り替えの多さにより、運動が苦手な子にとっては、味方やディフェンスの位置を把握できず、攻めているのか守っているのかが分からず混乱してしまう等の課題も見られる。また、ゴール型のサッカーでは、ボール操作の技能の向上に時間を要するとともに、部活動やクラブチームでサッカー部に所属している児童と、所属していない児童との技能に大きな差がみられる。また、蹴ったボールが当たることを恐れ、前向きに授業に参加できない児童が見受けられる。

そこで本研究では、一般的なボールより操作が容易なディスクを使用することで、受ける、蹴る、止める、運ぶといった基本的な技能を効率的に高めるとともに、ボールを持たないときの動きや作戦を工夫するなど、チームの良さや課題に応じた作戦を立てる活動に重点をおいて活動することができる。また自己や仲間の考えたことを他者に伝える活動においても、効果的に思考力・判断力・表現力の向上を図ることができる教材であると考ええる。

2 児童の実態について

6年3組の児童は、体育の授業に対してどの運動領域においても、前向きに取り組むことができる児童が多い。4月には「E ボール運動 A ベースボール型 T ボール」の授業を行った。T ボールでは投げる、受ける、止める、打つといったボール操作の技能を高めるとともに、打者に応じて守る場所を変えるなど、チームの良さや課題に応じた戦力を立てる様子もみられた。しかし、勝敗にこだわりすぎて、相手チームに暴言を吐いたり、自己中心的な行動からチームの雰囲気悪くして、協働的な学びに至らなかったりする様子もみられた。このことから、チームの良さや課題に応じた作戦を考えたり、集団対集団の攻防によって、仲間と力を合わせて競争したりする楽しさや喜びを味わわせたい。また単元全体を通して、仲間への肯定的な声かけやきりタイムの発表などを通して、個々の自己肯定感を育むとともに、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたりすることができるように支援していきたい。

ボール運動に関する実態把握のために事前アンケートを実施した。項目③「自分の課題（めあてや目標）を自分で決めていますか？」に対しては、24.3%の児童が「決めていない」、「どちらかといえば決めていない」と回答している。また、項目④「自分ができた理由やできない理由を考えていますか？」の質問においては、18.2%の児童が「考えていない」、「どちらかと言えば考えていない」と回答している。さらに項目⑥「どうしたら課題を解決できるか、自分で考え調べたり、友達や先生に聞いたりしていますか？」に対しては、30.4%の児童が「していない」、「どちらかと言えばしていない」と回答している。このことから、本研究のサブテーマである主体的な学びの視点を取り入れた学習過程と見取り方の工夫を通して、児童の主体性をより高めていきたいと考える。

項目⑤「体育の授業で、友達にほめられたり、友達をほめたりしたことがありますか？」に対しては、24.3%の児童が「あまりない」と回答し、項目⑦「どんな作戦や練習をするのか、自分やチームで考えていますか？」に対しては、33.3%の児童が「考えていない」、「どちら

かといえば考えていない」と回答している。このことから、チームスポーツの魅力や協働的な学びの良さを実感できるよう授業を構成していくとともに、きりりタイムや児童間の肯定的な声かけ、積極的な関わり合いを価値づけ、指導していきたいと考える。

項目⑧「サッカーは好きですか？」に対しては、51.5%の児童が「きらい」、「どちらかといえばきらい」と回答している。「ボールが当たると痛い」、「ボールのコントロールがむずかしい」等の不安感をフットホッケーの特性で解消し、児童が楽しみながら授業に取り組めるよう支援していく。

【6年3組 回答33名 (9月1日実施)】

アンケート項目	回答 (%)
①体育の授業は好きですか？	・好き(15名) ・どちらかといえば好き(10名) →75.7% ・どちらかといえばきらい(5名) ・きらい(3名) →24.3%
②それはなぜですか？ ※多数意見	・できなかったことができるようになるから好き。 ・記録に挑戦したり、記録が上がったりするから楽しい。 ・友達と協力できるから好き。 ・そもそも運動がきらい。
③自分の課題(めあてや目標)を自分で決めていますか？	・よく決めている(9名) ・どちらかといえば決めている(16名) →75.7% ・どちらかといえば決めていない(6名) ・決めていない(2名) →24.3%
④自分が「できた理由やできない理由」を考えていますか？	・よく考えている(12名) ・どちらかといえば考えている(15名) →81.8% ・どちらかといえば考えていない(3名) ・考えていない(3名) →18.2%
⑤体育の授業で、友達にほめられたり、友達をほめたりしたことがありますか？	・よくある(8名) ・たまにある(17名) →75.7% ・あまりない(8名) ・まったくない(0名) →24.3%
⑥どうしたら課題を解決できるか、自分で考え調べたり、友達や先生に聞いたりしていますか？	・よくしている(7名) ・たまにしている(16名) →69.6% ・あまりしていない(5名) ・まったくしていない(5名) →30.4%
⑦どんな作戦や練習をするのか、自分やチームで考えていますか？	・よく考えている(12名) ・どちらかといえば考えている(10名) →66.7% ・どちらかといえば考えていない(5名) ・考えていない6名) →33.3%
⑧サッカーは好きですか？	・好き(5名) ・どちらかといえば好き(11名) →48.5% ・どちらかといえばきらい(5名) ・きらい(12名) →51.5%
⑨それはなぜですか？ ※多数意見	・シュートが決まると気持ちいいから、好き。 ・ボールが当たると痛いから、きらい。 ・ボールのコントロールがむずかしいから、きらい。
⑩フットホッケーを知っていますか？	・知っている(5名) →15.2% ・知らない(28名) →84.8%

3 指導観 ※本単元における指導の工夫及び手立て等

(1) 主体的な学びの視点を取り入れた学習過程(単元デザイン)

①学習過程(単元デザイン)の工夫

ゴール型運動の特性をとらえさせるとともに、児童らにとってなじみのないフットホッケーの楽しさを味わわせるために単元構成を工夫する。オリエンテーションでは、児童アンケートで出た意見としてボールへの恐怖心やコントロールの難しさに着目し、児童の困り感からフットホッケーとの出会いを設定する。また単元を通した目指す児童像の確認とそれまでの道のりのイメージ(見通し)をもつことができるよう、視覚的に単元構成を示していく。単元全体の見通しをもつことで児童が安心して授業に臨めるようにしていきたい。

②主運動につながる基礎感覚運動の充実

児童の実態把握や運動技能(操作技能含む)の向上、ボール運動の楽しさを味わわせるため

の感覚づくりのため、毎時間の導入部で主運動につながる基礎感覚運動を取り入れる。ゲーム感覚で楽しみながら技能を高めるとともに、自己やチームの目指す姿に近づくために必要な技能や挑戦したい作戦等を意識させ、運動に取り組めるよう支援する。また単元の後半では、自己やチームの良さ、課題に応じて基礎感覚運動の内容を選択できるよう自己選択させていく。

③場の設定の工夫（ボール運動が苦手な児童への配慮）

パスを受けてシュートすることが苦手な児童には、目印となる番号を表示して支援する。番号があることで、「●番に動いて、○番からシュートして」等、視覚的に支援することができる。またボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童に対しても同様に、「●番に動いて、○番で守って」等、具体的な場所を意識して守備ができるよう支援していく。

④自己選択・自己決定の場面設定

自己やチームの良さ、課題に応じた作戦や練習方法を考えたり、選択したりする学習活動の中で、自己選択・自己決定の場面を設定する。ICT 端末に記録されたこれまでの活動の様子や振り返り、参考映像等をもとにして、自己やチームの良さ、課題について考えさせ、良さや課題に応じて複数の作戦や練習方法から自分たちに合った作戦や練習方法を自己選択・自己決定できるよう支援する。

(2) 振り返りシート（数値化・ループリック評価）を活用した児童の見取りと指導の改善

①ループリックを活用した「目指す姿」の共有と見取り

ループリックを提示し、単元を通して目指す姿や毎時間の目指す姿を確認する。ループリックは毎時間の導入部で確認し、めあての設定へとつなげる。またループリックは児童個々の ICT 端末でも常時確認することができるようにすることで、より目標を明確に意識づけさせる。指導者はループリックの観点をもとに、毎時間児童を見取ることで単元全体を通して計画的に評価するとともに、到達度の低い児童に対して、個に応じた指導や助言を行う等、指導と評価の一体化を図っていく。

	分かる・できる	考える・決める・表現する	自分から・粘り強さ
S	・フットホッケーのやり方を詳しく理解し、攻め方や守り方を工夫したりすることができた。	・自分でルールを考えた。 ・自分やチームの特ちょうに応じて、作戦を選んだり考えたりできた。 ・仲間に自分の考えを詳しく伝えた。	・自分やチームの課題を解決するために、自ら調べたり、多様な人に聞いたりすることができた。
A	・フットホッケーのやり方を理解し、ホッケーをけったり、守備をしたりすることができた。	・ルールを選ぶことができた。 ・自分やチームの特ちょうに応じて、作戦を選んだり考えたりできた。 ・仲間に自分の考えを伝えた。	・自分やチームの課題を解決するために、いつもきまっている人に相談した。
B	・フットホッケーに取り組まなかった。	・ルールを工夫しなかった。 ・作戦を選んだり考えたりしない。 ・自分の考えを伝えない。	・途中であきらめた。 ・自ら動かず、そのままにした。

②きらりタイム

きらりタイムでは良いところや気付いたところを共有し、動きや作戦のポイントを一般化する。児童の活動を取り上げる際には、「する・みる・支える・知る」を関連付けた学習活動の視点から、「する」の視点に偏らないよう配慮し、「みる」、「支える」、「知る」の視点からも、きらりタイムで取り上げ、価値づけていきたいと考える。特に本単元では、運動を苦手としている児童を中心に観察し、児童の良さやチームの良さを価値付けることで、運動有能感や自己肯定感を育んでいきたいと考える。また、きらりタイムで取り上げる際には、事前に児童へ声をかけ承諾をとったり、チーム内の活動の中で称賛したりする等、児童個々の実態に応じて、自己肯定感が高まるよう支援をしていく。

③運動場面に応じた言葉かけとボール運動の特性につながるキーワードの活用

ディスクを操作する場面で、必要に応じて言葉かけや発問を工夫する。キーワードを活用することで、ボール運動の特性につながるような知識・技能の習得や自己・チームの特徴、良さ、課題をみつける手がかりとなるよう支援する。また自己や仲間の考えたことを他者に伝える場面においても、児童がキーワードを活用できるようし、効果的に伝えられるように支援する。さらに自己やチームの困り感、気づきの中で、キーワードを増やしたり、キーワードについて議論したりすることで、思考力・判断力・表現力の育成にもつなげていきたいと考える。

攻守	動き・活動	言葉かけ・キーワード
攻	パス	近くにいるフリーの味方に、正確なパスを出そう。
攻	シュート	得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートしよう。
攻	ディスクをもったときの動き	ディスクをもった時には、最初にゴールを見よう。（ゴールの位置を確認する）
攻	ディスクをもたないときの動き	ディスクをもっている人と自分の間に、守る人（ディフェンダー）がいないところに移動しよう。
守	守るときの動き	ディスクをもっている人とゴールの間に、体を入れて守ろう。（仲間にゴールの位置を教える）

(3) ICT機器の効果的な活用

①電子黒板の活用

単元構成やループブック、授業の流れが分かるよう電子黒板に表示する。また振り返りシートや児童の活動の様子を撮影した動画、児童が気づいたことや考えたことを記入した付箋をFigJam上に蓄積する。電子黒板で表示することで、学年全体で技能の高まりや児童の成長の様子を視覚的に共有し、効果的な学習活動を支援していく。

[illegible]

② ICT端末の活用

自己やチームの良さ、課題に応じた作戦や練習方法を自己選択・自己決定する場面で、ICT 端末を活用することで、個別最適な学びを支援する。ICT 端末内の振り返りや児童の活動の様子を撮影した動画、児童が気づいたことや考えたことを記入した付箋等、前時までの記録を参照することで、随時、自己やチームの良さ、課題をみつけたり、確認したりすることができる。またヒントカードを活用することでチームの良さや課題に応じた作戦や練習方法を選択する活動を支援していく。

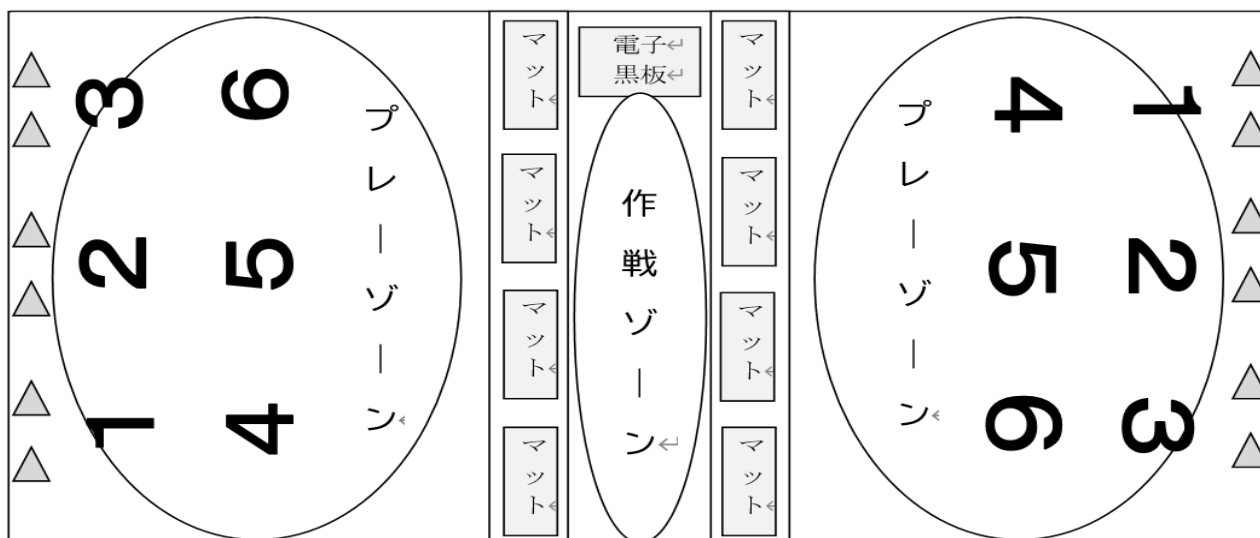
③ ICT端末を活用した指導者の評価

指導者はルーブリックの観点をもとに、ICT 端末を使って児童の評価を行う。A 評価と C 評価の児童を中心に毎時間評価することで、負担感なく評価することができるとともに、児童へのフィードバックや個に応じた指導にも役立てることができる。

X 単元の評価基準 【 】内の文言は「十分満足できる姿」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①フットホッケーの行い方を【詳しく】言ったり、書いたりしている。 ②パスを出したり、シュートをしたことが【安定して】できる。 ③【相手に応じて】ディスクを保持している時や保持していない時に、ゴールにつながる動きができる。	①みんなが楽しめるように、規則（ルール）を【よりよくしようと】工夫している。 ②チームの良さや課題に応じた作戦を【根拠を明確にして】選んだり、考えたりしている。 ③選んだことや考えたことを仲間に、【根拠を明確にして】動作や言葉で伝えている。	①フットホッケーの練習や試合に進んで【積極的に】取り組もうとしている。 ②規律（ルール）を守り、誰とでも【積極的に】仲良く運動しようとしている。 ③場の準備や片付けを【率先して】行ったり、場の安全【仲間の安全】に気を付けたりしている。

XI 場の設定



Ⅻ 単元指導計画

6 年		ボール運動 ゴール型 「フットホッケー」 単元指導計画（全8時間）							体育館	
単 元 目 標	知識及び技能	「フットホッケー」の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解することができるようにする。 ディスク操作とディスクをもたないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。								
	思考力、判断力、表現力等	ルールを工夫し、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり、考えたりすることができるようにする。 自分や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。								
	学びに向かう力、人間性等	運動に積極的に取り組み、ルールを守り、助け合って運動することができる。 場や用具の安全に気を配り、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたりできる。								
	時間	1	2	3	4	5	6	7（本時）	8	
学 習 の 流 れ	0	教師主導		個別&協働						
		1. 整列・あいさつ 2. 準備運動 3. めあての確認 基礎感覚運動・・・ボールタッチパス・シュートゲーム・的当てキック・鳥かご・パス&ラン ※単元後半からはチームで選択させる。								
	5	【ねらい】 フットホッケーの 目標や学習の進め方 を知る。	【ねらい】 ディスクのけり 方、止め方を知り、 パスを回す。	【ねらい】 みんなが楽しめる「フットホッケー」を目指してルールを工夫する。 ・ディスクを操作する技能を高める。 ・ディスクをもたないときの動きを考える。		【ねらい】 自分やチームに合った作戦を選んだり、考え たりする。 選んだり考えたりしたことを友達に伝える。		【ねらい】 学んだことを生かして、フ ットホッケー大会を楽しむ。		
	10	4. オリエンテーショ ン ①学習の進め方 ②1時間の流れ ③場づくり ④ルール ⑤グループ	4. 活動① 【的あてゲーム】 ディスクのけり 方や止め方を知り、 基本的なディスク 操作を楽しく身に つけることができ るようにする。	4. 活動① 楽しみながらルールを覚えることを目的にしているので、得点や 勝敗を決めずに行う。 【基本的なルール】 ①攻守交替型 ②1チーム4～5人、計8チーム ③2分攻守 交替 ④攻め3人、守り2人（アウトナンバー） ⑤ゴールは3か所 ⑥相手に触らない ⑦ドリブル禁止		4. 活動① 作戦例から選んで実行したり、自分たちで工 夫して作戦を立てたりしながら、話し合うこと ができるようにする。 【試合の主な流れ】 ①整列、あいさつ ②作戦タイム（2分） ③ゲーム①（前半）（2分）④作戦タイム（2分） ⑤ゲーム②（後半）（2分）		4. 活動① 学んだことを生かして、楽 しみながら、フットホッケー 大会ができるようにする。 【試合の主な流れ】 ①作戦タイム ②ゲーム①（前半） ③作戦タイム ④ゲーム②（後半）		
	30	5. 基礎感覚運動 ①ボールタッチ ②パスゲーム ③シュートゲーム	きりりタイム・・・友だちやチームの動き等から、うまくできるコツや友だちの良い点等を全体で確認する。（活動①②内で適時取り入れる。）							
	40	6. 運動の特性の確認 仲間と協力してフ ットホッケーをつな ぎ、ゴールを目指すこ とが面白い運動	5. 活動② 【パスゲーム】 ゲームを通して、 パスの技能を身に つけ、良さを感じる ことができるよう にする。	5. 活動② ディフェンダーのいない場所や隙をみてパスをもらい、シュート をねらうことができるようにする。 ※ルール革命について説明する。（ルールの修正や追加については 常時可能）		5. 活動② 作戦がうまくいっているチームを取り上げる などして、友達の良い動きに注目しながらゲー ムを進めることができるようにする。 ※別のチームと試合を行う。		※ルール革命を行う。（負け ているチームが選択するこ とができる。） ※追いついたら、革命解除。 ※どのチームも2試合は行 えるようにする。		
		ふり回り・・・できるようになったこと、難しかったこと、どんな動きが楽しかったか、友達の良いところ、頑張りたい事等を共有する。 ※必要に応じて実技や映像も活用								
	評 価 規 準	知・技	①	②			③			
		思判表				①		②	③	
		主体的	③		②					①

Ⅷ 本時の学習展開

(1) 目標 (7/8時間目)

チームの良さや課題に応じた作戦をもとに、選んだことや考えたことを仲間に動作や言葉で伝えことができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の展開

	主な学習活動	指導上の留意点 (○) □指導に生かす評価 ☆記録に残す評価
導入 (7分)	1 準備運動 (2分)	○音楽に合わせた準備運動で、心も体もリラックスしてスタートできるようにする。
	2 めあてや学習の流れを確認 (2分) →児童の言葉で設定する。	○電子黒板の単元計画とルーブリックをもとに、目指す姿や今日の学習活動の流れを確認する。
	めあて:チームの良さや課題に応じた作戦をもとに、選んだことや考えたことを仲間に伝えよう。	
	3 基礎感覚運動 (3分)	○チームで運動内容を選択させる。
展開 (30分)	4 活動① パワーアップタイム (15分) (1)ゲーム① (前半) or 作戦タイム (2分) →既習事項を電子黒板や ICT 端末を活用して確認する。チームで選択・決定した作戦を実践する。 ※ABCD チームがゲーム中、EFGH チームは作戦タイムを行う。	○8つのグループをつくり、ビブスで色分けを行う。 ☆チームの良さや課題に応じた作戦をもとに、選んだことや考えたことを仲間に伝えようとしているか。 【思考・判断・表現】 ○児童観察を行い、チームの良さや課題に応じて選択・決定した作戦となるよう支援する。
	(2)作戦タイム or ゲーム① (前半) (2分) →チームの良さや課題の確認とそれに応じた作戦を選択・決定する。 ※EFGH チームがゲーム中、ABCD チームは作戦タイムを行う。	□☆選択・決定した作戦がチームにとって効果的かどうか、観察する。(可能な範囲で動画を撮影する)
	(3)ゲーム② (後半) or 作戦タイム (2分) →ゲーム①の活動をいかし、チームで選択・決定した作戦を実践する。	○試合ないチームは、ペアチームの動画を撮影し、アドバイスをを行う。
	(4)作戦タイム or ゲーム② (後半) (2分) →ゲーム②の活動をいかし、作戦を選択・決定する。	□作戦やゲーム中の声かけに注意をはらい、効果的な動きや声かけは、フィードバック時に共有できるようにする。(可能な範囲で動画を撮影する)
	5 きらりタイム (3分) ※水分補給 →効果的だった作戦や練習方法について、全体で共有する。	☆チームの良さや課題に応じた作戦をもとに、選んだことや考えたことを仲間に伝えようとしているか。 【思考・判断・表現】
	6 活動② チャレンジタイム (12分) (1)ゲーム③の実施 →新たな課題が出た場合は、振り返り時に記録する。	□ゲーム①②と比較して、向上した点を重点的に見取り、フィードバック時に共有する。
終末 (8分)	7 振り返り (8分) →ICT 端末のスプレッドシートを使って、本時の学習を振り返る。電子黒板で、本時の成長を確認する。	○電子黒板で本時の振り返りを行う。 ☆チームの良さや課題に応じた作戦をもとに、選んだことや考えたことを仲間に伝えようとしているか。 【思考・判断・表現】

第4学年 体育科(保健)学習指導案

令和7年11月21日(金)5校時
 石垣市立八島小学校4年2組25名
 授業者 下地 千佳子(T1)
 伊舎堂 優子(T2)
 共同研究 八重山小学校体育研究会

I 八重山地区小学校体育研究会 研究テーマ

「資質・能力を豊かにする主体的な学び」を深める児童の育成
 —主体的な学びの視点を取り入れた学習過程と見取り方の工夫を通して—

II 研究の目的

現代社会は、高齢化や人口減少、AI技術の急速な発達等により、予測困難な時代を迎えている。中央教育審議会答申（令和3年1月26日）において、「社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要がある、そのためには、新学習指導要領の着実な実施が重要である」と提言された。それを踏まえ、これからの学校教育を「令和の日本型学校教育」と位置づけ、全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による資質・能力の育成を図る教育が進められている。

本研究会においては、これまで「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力に重点を置き、「アウトプット（表現）」ができるよう、知識・技能をいかに「インプット」させるか研究を行ってきた。「思考力、判断力、表現力等」を育むための工夫として、きらりタイムの設定や振り返りシートでの見取り、ICTの活用等により、表現力の向上に一定の成果が見られた。令和6年度には、「豊かなスポーツライフを育成する自己調整力の育成」をテーマに、児童が自ら学習の場や学習方法を選択し、主体的に粘り強く学習に取り組む姿を目指した。その成果として、自ら目標を立て課題に取り組み、その過程で他者と協働したり、ICTを活用したりする等、主体的に学習に取り組む様子が見られた。

しかし、その一方で振り返りシートを活用した見取りにおいて、適切な支援や助言が不十分であったことや、運動領域においては、運動能力の差により積極的に授業に参加することができない児童が見られた。また、保健領域においても、授業での学びを実生活と関連付けて考えることが苦手等の課題が挙げられた。

その要因として「主体的な学び」と関連する3つの「学びの保障」が十分でないことが推測された。

- ①児童の実態に合わせた学びの保障：児童自身が学びたいと思える目標・内容になっているか。
- ②主体的な学びの保障：児童の思いや考えが反映されているか。
- ③全員参加の保障：能力の高い児童中心となっていないか。

そのため、本研究会では、「主体的な学びの視点（鈴木 2018）」を参考に、運動したくなる学び（土台）→問いが生まれる学び（調整）→問い続ける学び（将来）の連続性の枠組みを基に研究を進める。また、学習過程（単元デザイン）の工夫、児童自身が課題に対して取り組む姿や、振り返りシートの見取り方の工夫を通して、上記の課題である3つの学びを保障し、資質・能力を豊かにする主体的な学びを深める児童の育成を目指す。

まず、学びの土台として、児童が学ぶ意義を感じ、興味・関心を持つ等、学びを自分事として捉えることが大切である。そこで、「①児童の実態に合わせた学びの保障」については、教材への出会いを大事にし、児童が学びたいと思える内容・目標を意識した手立てを講じながら、学ぶ意欲と関心

を高め「自分事」として学びに向かえるよう学習展開を図る。

次に「②主体的な学びを保障」するために、学習過程（単元デザイン）の工夫を通して、児童の実態や学習状況に応じて、教師が示したり教えたりする場面や、子供が自己選択・自己決定して学びとる場面を適切に設定し、児童が選択・決定した活動に対して、適切な支援や助言を行っていく。

さらに、「③全員が学習に参加」できるように、振り返りシート等を活用することで、児童が自身の現在地を知り、その中で、多様な他者と協働し、粘り強く課題に取り組むことで、運動の楽しさや健康への意識の高まりを実感し、児童一人ひとりが主体的に取り組む姿を目指す。

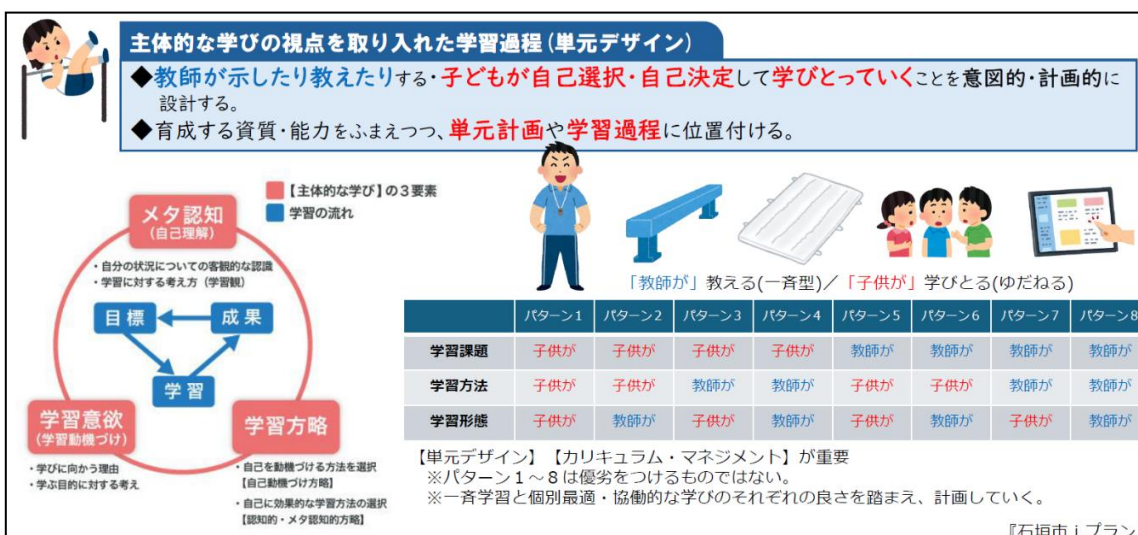
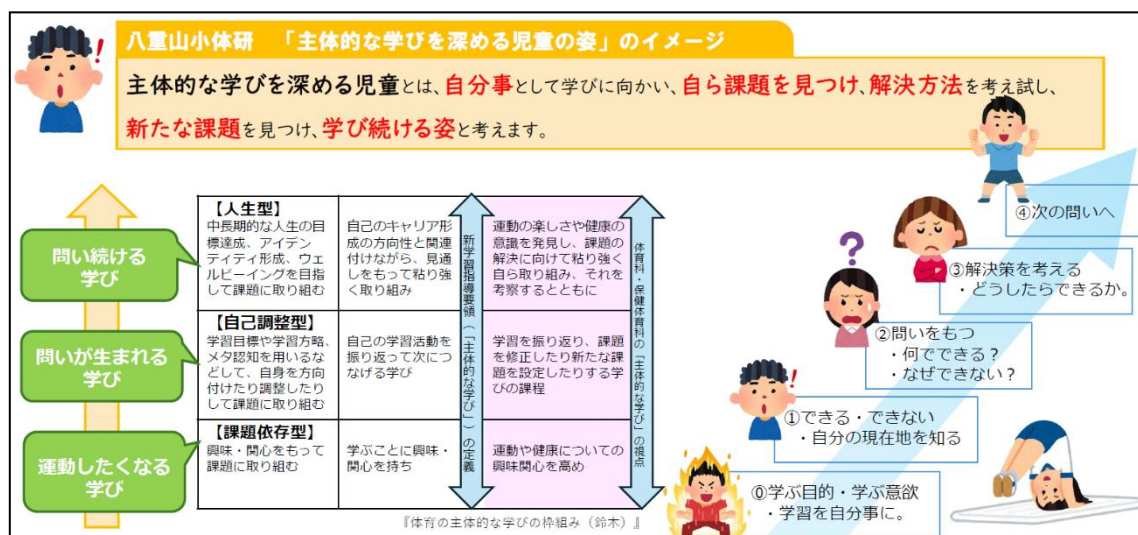
「主体的な学びの視点(鈴木 2018)」を基に、学びを保障することで「学びに向かう力、人間性等」が高まり、それが「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を豊かにすると考え、本テーマを設定した。

Ⅲ 研究内容

- 1 主体的な学びの視点を取り入れた学習過程（単元デザイン）
- 2 振り返りシート（数値化・ループリック評価）を活用した児童の見取り、指導の改善
- 3 ICT機器の効果的な活用

Ⅳ 目指す児童の姿

主体的な学びを深める児童とは、「自分事として学びに向かい、自ら課題を見つけ、解決方法を考え試し、新たな課題を見つけ、学び続ける姿」



V 単元名 体の成長とわたし「よりよく成長するための生活」

VI 単元目標

体の発育・発達に関する課題を見つけ、よりよい解決に向けて考える活動を通して、体が年齢に伴って変化すること、体の発育・発達には個人差があること、思春期になると体に変化が起こり、異性への関心も芽生えること、体の発育・発達には適切な運動、食事、休養および睡眠が必要であることを理解できるようにする。

VII 単元について

1 単元観

小学4年生は、心身の発達が進み、自分自身の体の変化に気づき始める時期である。身長や体重の増加、運動能力の向上などを通して「成長」への関心が高まり、自分の生活習慣と結びつけて考える力も育ちつつある。一方、現代の子どもたちを取り巻く社会的背景として、睡眠不足、偏食、運動不足などの生活習慣の乱れが指摘されており、ICT機器の普及による生活リズムの変化も見られる。これらは、子どもたちの健康や成長に影響を与える要因となっている。

本単元では、児童が自分の体の成長に関心をもち、生活習慣が成長に関係していることを理解することをねらいとし、自分の生活をふり返り、よりよく成長するために何ができるかを考えることで、健康的な生活を自ら選択・決定する力を育てる。このねらいは、学習指導要領（保健領域）に示された「健康な生活のしかたについて理解し、健康の保持増進を図るために必要な習慣を身に付ける」という目標と合致しており、児童が自らの生活を見直し、健康の保持増進に向けた実践力を育むことを重視する。

また、個人差のある成長を認め合いながら、友だちと生活の工夫を共有する活動を通して、協働的な学びや自己肯定感の育成にもつなげていく。児童が「自分の体と生活はつながっている」という実感をもち、将来にわたって健康を意識した生活を送る基盤を築くことを目指す。

2 児童の実態について

本学級の児童は、アンケートの結果より、体育や保健の授業を通して、自分の体の成長や健康への関心を高めており、生活と学びのつながりを実感しながら取り組んでいる様子が見えてくる。アンケート結果では、「保健の授業で学んだことを生活に生かしたい」と回答した児童が約85%、「体育や保健の学びが生活に役立つ」と感じている児童が約90%にのぼり、学習内容が児童の実態に即したものとされていることがわかる。児童は身長や体重の変化、体力の向上などを自分の言葉で捉え、早寝早起きや三度の食事、適度な運動など、健康的な生活習慣の大切さを理解しようとしている。

また、「体育や保健の授業で楽しかったこと、もっとやってみたいこと」では、マット運動、水泳、キックベース、鉄棒運動、フットホッケーなど多様な活動が挙げられ、児童の思いや希望が学習内容に反映されている。自分の体の変化や生活習慣を振り返る記述も多く、主体的に学びに向かう姿勢が育ちつつある。一方で、「保健の授業に粘り強く取り組みそうか」や「生活をよくしたいと思うか」では「少し思う」「あまり思わない」と回答した児童も一定数おり、継続的な関心や意欲に差があることが課題として見えてくる。

さらに、「得意な人だけでなく、みんなが活動に参加できていると思うか」では「いつもそう思う」が約70%と高く、協働的な雰囲気が育っていることがわかる。「課題があるときに先生や友達に聞けるか」では「すぐ聞ける」「少しなら聞ける」が多く、友達との関わりを通じて学びを深めようとする姿も見られる。ただし、「あまり聞けない」と回答した児童もおり、安心して質問できる環境づくりや、苦手意識を持つ児童への支援が求められる。

以上のことから、本学級の児童は、生活とつながる学びに関心を持ち、主体的に取り組もうとする力を育てている。今後は、児童一人ひとりの実態に寄り添いながら、全員が安心して参加できる学びの場をつくり、健康な生活を自ら築いていく力を育てていくことが重要である。

実態調査アンケート

【4年2組 回答24名 (9月5日実施)】

	項目	肯定的	否定的
1	目標に向かって自分で計画を立ててがんばることはとくいですか？	66%	34%
2	友だちと協力して活動するのは好きですか？	91%	9%
3	サーフェスを使って学ぶことは好きですか？	83%	17%
4	体育や保健の授業は、自分から進んでやってみたいと思う学習になっていますか？	91%	9%
5	体育や保健の授業でわからないことがあったとき、先生や友達に聞いて、課題を解決していますか？	79%	21%
6	体育や保健の授業では、得意な人だけでなく、みんなが活動に参加できていると思いますか？	95%	5%
7	体育や保健の授業で学ぶことは、あなたの生活にどんなふうに役立つと思いますか？	運動不足にならない、体力がつく、体調管理、将来のため、健康になる、いつまでも元気にいれる など	
8	あなたの体は、年齢（生まれてから～4年生）とともにどのように変わってきてるとおもいますか？	体力がついた、足が速くなった、身長が伸びた、体重が増えた、生理がきた、胸が大きくなった、体のいろんなところが変わった など	
9	元気に育つために、どんなことが大切だと思いますか？	早寝早起き、運動、ぐっすり寝る、野菜を食べる、夜更かししない、3度のご飯を食べる など	
10	保健の授業で学んだことを生かして、自分の生活をよくしたいと思いますか？	95%	5%
11	保健の授業の活動に最後まで粘り強く取り組みそうですか？	79%	21%
12	体育や保健の授業で、たのしかったことや、もっとやってみたいことがあれば教えてください。	マット、水泳、キックベース、鉄棒	

3 指導観(本単元における指導の工夫および手立て等)

本単元では、児童が自分の体の成長に関心をもち、生活習慣とのつながりに気づくことを通して、健康的な生活をするために、自らの生活を振り返り、生活の仕方について考える力の基礎を育てることを目指す。

また、指導にあたっては、児童の発達段階や個人差を踏まえ、身近な生活場面を題材にすることで、実感を伴った理解を促す。また、主体的な学びの視点と学びの保障を意識して、以下の指導の工夫や手立てを行う。

(1) 学ぶ意義と興味・関心を持たせ、自分事にする工夫

単元や毎時間の導入において、「自分自身の成長」について捉えられるようにする。その手立てとして、小さいころの自分と現在の自分の成長を視覚化(成長曲線)したり、比較対象となるモデルを出して自分や友達と比較したり、食習慣や運動習慣、睡眠について常に自分のことを自覚する活動を行う。そして、単元全体を通して、よりよい成長や生活習慣、将来の健康、運動・食習慣につながることを意識させ、学習する意義を持たせる。

(2) 学習過程（単元デザイン）の工夫

自分自身の成長を「過去 → 現在 → 将来」と結びつけられるように、単元を通して、自分の成長が中心となるように学習を展開していく。そのために、振り返りは自分の成長について考えることができる視点を持たせ、次時の学習につながりを持たせていく。授業を連続してつなげることで、より自分の成長や生活について考えられるようにする。

さらに学びを自分事としてとらえることができるように、教師は自己選択や自己決定の場面を意識した単元計画、授業設計を行い、考える時間を十分に確保する。授業では、端末やワークシート、資料などを準備し、自分に合った学び方を選択したり、考えたりしながら自己の成長について考えていく。また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実において、友達と一緒に自分の成長について考えたり、話したりする場面を意図的に設定していく。

本時においては、学習を自分事にするための手立てとして、生活リズム表を活用しながら、自分の生活をよりよくするための改善策を考えていく。

(3) 全員参加の保障

全員が学習に参加できるように、自分で考える時間や、友達と考えを共有（交流）する時間を意図的に設定する。それぞれの児童の考えや発言を生かし、全員で共有したり、児童同士をつなげたりしていく。

本時では、「生活リズム表」を用いて、個々が自身について考える時間の確保と、その気づきを共有する時間を十分に設ける。また、児童一人ひとりの考えを尊重し、互いに学び合う雰囲気育てる。教師は、活動中の小さな努力や工夫に目を向けて声かけを行い、児童が「自分も参加できている」と実感できるよう支援する。

(4) ティーム・ティーチング

養護教諭を活用し、体の成長や食生活、食事、睡眠などの効果について指導事項を少し掘り下げて、指導する。養護教諭の専門的な知識を学習内容に取り入れることで、自分の生活と結びつけて考えられるようにし、児童の興味・関心・悩みに寄り添ったきめ細かな支援を行う。

(5) 振り返りシート（ループリック評価）を活用した「目指す姿」の共有と見取りと指導の改善

ループリックを指導と評価に活かす。自分の学習の成果についてループリックを提示し、単元を通して目指す姿や毎時間の目指す姿を確認する。ループリックは毎時間の授業の始めに確認し、めあての設定へとつなげていく。また振り返りシート（ループリック評価）は ICT 端末を活用し、教師も常時確認することができるようにすることで、机間指導の効率化や個別の指導を効果的に行えるようにする。

(6) 電子黒板や ICT 端末の活用

単元構成やループリック、授業の流れが分かるように電子黒板や ICT 端末を活用して提示する。また振り返りに ICT 端末を活用することで、教師・児童がこれまでの学習を振り返ったり、他者参照したりする。

指導者は ICT 端末を使って児童の評価を行うことで指導と評価の充実を図る。児童の学習を毎時間評価することで、負担感なく評価することができるとともに、児童へのフィードバックにも役立てることができる。

Ⅶ 単元の観点別評価規準と各時の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
単元の観点別評価規準	①体が年齢に伴って変化すること、体の発育・発達には個人差があること。 ②思春期になると体に変化が起こり、異性への関心も芽生えること。 ③体の発育・発達には適切な運動、食事、休よう・すいみんが必要であることを理解している。	体の発育・発達に関わることから課題を見つけ、体のよりよい発育・発達を目指す視点から適切な方法を考え、それを伝えている。	学習活動に粘り強く取り組む中で、体が発育・発達することやその大切さに気づき、年齢による発育・発達の仕方や、発育・発達に良い生活の仕方について学習活動に進んで取り組もうとしている。
各時の観点別評価規準	第1時	年齢に伴う体の変化から、体の発育・発達について課題を見つけ、その課題に向けて考え、それを発言したり伝えあったりしている。	[全時共通] ①学習内容に関心を持ち、よりよく学ぼうとする意欲をもって、学習に粘り強く取り組もうとしている。 ②他者の考えも受け入れながら進め方を工夫改善するなど、自らの学習を調整しようとしている。
	第2時	②体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わり、初経、精通などが起こることを言ったり書いたりしている。	
	第3時	②初経、精通などが起こる時期には個人差があること、また、思春期には異性などほかの人への関心が芽生えることを、言ったり書いたりしている。	
	第4・5時	③体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることを、言ったり書いたりしている。	③児童が自分の生活をふり返り、健康的な生活習慣を考え、他者と関わりながら改善策を見出すことができている。

IX 単元の指導と評価の計画（5時間）

目標	時数 手立て	学習活動	評価の観点		
(1)育ちゆくわたしたちの体（教科書 p.27～32） 他教科との関連:算数、理科、道徳			知	思	態
・体は、年齢に伴って変化すること、また、体の発育・発達には、個人差があることを理解できるようにする。	手立て	一人一人に入学～4年生までの 成長曲線を示し、自分の成長に興味・関心が持てるように意欲喚起する。			
	1	ステップ1 赤ちゃんの手形や靴の写真と、今の自分の手や靴の大きさを比べ、体の発育・発達に気づく。			
		ステップ2-1 入学してから4年生までの自分の身長の伸びを確認める。			
		ステップ2-2 教科書の6人の身長の伸び方を比較し、共通点や個人差について考える。		○	◎
		ステップ3 学習したことを基に、改めて自分の成長を振り返り、自分にかかる言葉を考える。			
		ステップ4 学習をまとめて、毎日の生活や、これからの学習に生かせることを考える。			
(2)思春期にあらわれる変化（教科書 p.33～38） 他教科との関連:理科、道徳			知	思	態
・体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること、また、異性への関心が芽生えることを理解できるようにする。	手立て	これまでの自分の成長と体の変化について捉え、 現在の自分の体がどんな成長を続けているかを考えさせる。			
	1	ステップ1 問いについて考える活動を通して、思春期の体の変化に気づく。			
		ステップ2-1 教科書の写真などから、1年生、6年生、大人の男女の体つきを比較し、違いを考える。また、教科書の資料などから、思春期に体に現れるそのほかの変化について調べる。	◎	○	
		ステップ2-2 教科書の資料から、思春期に起こる体の働きの変化について調べる。			
		ステップ2-3 教科書のグラフから初経や精通が起こる時期を調べる。			
	1	ステップ2-4 教科書のイラストを参考に、思春期に起こる心の変化について考える。			
		ステップ3 学習したことを基に、悩んでいる友達へのアドバイスを考える。		◎	○
		ステップ4 学習をまとめて、毎日の生活や、これからの学習に生かせることを考える。			
	(3)よりよく成長するための生活（教科書 p.39～42） 他教科との関連:理科、家庭、道徳			知	思
・体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養および睡眠が必要であることを理解できるようにする。	手立て	資料や比較モデルを使って自分と比べることで、自分への気づきを促す。成長するために必要なことを「成長のタネ」として、自分の成長について考えさせる。			
	1	ステップ1 問いについて考える活動を通して、生活の仕方と体の成長との関わりに気づき、課題を見つける。 ステップ2 教科書の資料などから、体がよりよく成長するための運動、食事、休養・睡眠について知る。	◎		○
	1 (本時)	ステップ3 学習したことを基に、よりよく成長するための取り組みについて考える。			
		ステップ4 学習をまとめて、毎日の生活や、これからの学習に生かせることを考える。		○	◎

X 本時の学習（5／5時間目）

1 本時のねらい

児童が自分の生活をふり返し、健康的な生活習慣を考え、他者と関わりながらよりよく成長するタネを見出すことができる。【学びに向かう力・人間性等】

2 展開

	学習活動 ※学習形態	指導上の留意点（○指導 ◆評価）
導入 3分	1 前時をふりかえる。 よりよい成長に必要な要素を確認 ・適切な運動 ・バランスの取れた食事 ・睡眠・休養	○時間をかけず簡潔に進める。 ○前時と本時をつなげられるように復習する。 T1：前時の復習を簡単に行う T2：保健的視点で補足 → 保健室での事例紹介。 「例：朝食抜き体調不良になった児童」
展開 15分	2 本時のめあてを確認する。 <div>「自分の生活をふりかえり、今よりもよりよくする方法を考えよう」</div>	
	3 「10歳のちかこさん」が、よりよく成長するための「成長のタネ」を見つける視点を理解する。（一斉）	○「成長のタネ」を見つける視点を、T1、T2でデモンストレーションを行い、理解させる。 ○Googleスライドや紙資料で「10歳のちかこさんの一日の生活」を視覚的に提示。 ※共感→気づき→自分事への転換を意識しやすいよう、生活リズム表は児童が共感しやすい内容にする。
	4 自分の生活を振り返る。（個別） T1：Aさんや10歳のちかこさんと自分の生活を比べて、同じところや違うところ、良いところを見つけよう。	○自分の生活をふり返し、良さや改善点などについて考えているか机間指導を行い、支援する。 T1、T2の役割を分担し効率的に行う。
展開 20分	5 自分の成長のタネについて考える。（個別）	○成長のタネをスムーズに考えられるように、Googleスライドや掲示物など資料を準備する。 T1：進行、机間指導、個別支援 T2：個別支援、保健的視点で補足
	6 考えた成長のタネについて、グループで伝え合い、考えを広げよう。（協働）	◆児童が自分の生活をふり返し、健康的な生活習慣を考え、他者と関わりながらよりよく成長するタネを見出すことができているか。（観察・ワークシート）【主体的に学習に取り組む態度】
	7 代表児童の成長のタネを共有する（全体）	○児童が自分の言葉で話せるよう促す。 ○発表後には、互いに感想やアドバイスを伝え合えるように促す。 ○取り組む課題が重ならないように指名する。
終末 7分	8 本時のまとめを行う。（個別） <div>「私が今よりもよりよく成長するために○○○をする。」</div>	○学習のまとめを行い授業の振り返りを行う。
	9 振り返りを行う。	○ルーブリックを活用してふり返らせる。

ほけん学習カード

____ 年 ____ 組 名前 _____

1 学習のめあて

成長する自分の体に関心を持ち、よりよい生活について考えよう。

	S	A	B
【知】 分かる できる	◇年齢による体の変化、個人差、思春期の特徴、生活習慣について <u>理由と大切さ</u> がわかった。	◇年齢による体の変化や思春期の特徴、生活習慣についてわかった。	◇体の成長や生活習慣について、まだよくわからなかった。
【考】 考える 決める 表現する	◇年齢による体の変化や思春期の特徴、生活習慣について、自分の生活と <u>つなげて考える</u> ことができた。 ◇自分の考えを友達と伝え合い、アドバイスできた。	◇年齢による体の変化や思春期の特徴、生活習慣について、自分の生活と比べることができた。 ◇自分の考えを友達と伝え合うことができた。	◇体の変化や生活習慣について、まだよくわからなかった。 ◇自分の考えがあまり持てなかった。
【態】 支える	◇友だちと一緒に考えたり、わからないことを聞いたりして、 <u>助け合いながら学習</u> することができた。	◇友だちと一緒に考えたり、わからないことを聞いたりして学習することができた。	◇ほとんど一人で学習を進めた。

2 今日の学びをふりかえろう。

自己評価			本時のふり返し	先生より
			<ul style="list-style-type: none"> ・どのように学習した？ ・どんなことがわかった？ どんなことに気づいた？ ・これから、どのようにしていく？ ・友達との関わりはどうだったかな？ 	
1	知		自分のこれまでの成長をどのように感じたかな？	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの？ <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばっているね <input type="checkbox"/> 伸びているよ。 <input type="checkbox"/> 良い学び方ができているね <input type="checkbox"/> よい自己評価です <input type="checkbox"/> すばらしい！みんなに紹介します。
	考え			
	態度			

2	知		自分の体は現在(げんざい)どのように成長している？	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの？ <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばっているね <input type="checkbox"/> 伸びているよ。 <input type="checkbox"/> 良い学び方ができているね <input type="checkbox"/> よい自己評価です <input type="checkbox"/> すばらしい！みんなに紹介します。
	考え			
	態度			
3	知		体の成長と共に心も変化しているね。 あなたはどんなことを考えるようになったのかな？	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの？ <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばっているね <input type="checkbox"/> 伸びているよ。 <input type="checkbox"/> 良い学び方ができているね <input type="checkbox"/> よい自己評価です <input type="checkbox"/> すばらしい！みんなに紹介します。
	考え			
	態度			
4	知		成長に必要なことは、何か分かったけど、自分の生活と比べてどうだろう？	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの？ <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばっているね <input type="checkbox"/> 伸びているよ。 <input type="checkbox"/> 良い学び方ができているね <input type="checkbox"/> よい自己評価です <input type="checkbox"/> すばらしい！みんなに紹介します。
	考え			
	態度			
5	知		よりよく成長するためには、あなたにはどんなことが必要なんだろう？	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの？ <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばっているね <input type="checkbox"/> 伸びているよ。 <input type="checkbox"/> 良い学び方ができているね <input type="checkbox"/> よい自己評価です <input type="checkbox"/> すばらしい！みんなに紹介します。
	考え			
	態度			

◎振り返りは、スプレッドシートもしくはワークシートを選んで行う。

不動産営業 スタッフ 大募集!!



勤務地：沖縄県浦添市
雇用形態：正社員又はフルコミッション
(完全歩合)
資格：宅地建物取引資格の有無は問いません。
保持者は特別給あり。
資格が無い方も募集してます！

**不動産の経験がない方もOK!!
ご興味のある方はご連絡下さい！**

 **098-879-7571**
有限会社 信拓産業
SHINTAKU SANGYO LTD.



LOCKER
FOR CAGERS

HP: WWW.LOCKER-OKINWA.COM
TEL: 098-867-3800
MAIL: LOCKER.OKINAWA@GMAIL.COM

〒900-0013

3-12-1. MAKISHI. NAHA CITY. OKINAWA. JAPAN

OPEN 11:00-20:00

←DANKI

KOKUSAI STREET

SAION SQUARE →

TAKARA
RECORD 

MAKISHI
KOBAN 

 **LOCKER**



料理や旬

住所 〒901-1111
南風原町字兼城609番地51

TEL/090-6862-1777

☆ 昼そば営業/・月～金 AM11:00～PM15:00
(ラストオーダー/PM14:30(土日休み・祝日営業))

♪★夜居酒屋営業/・月～木 PM18:00～AM2:00
(ラストオーダー/AM 1:00)



・金、土 PM18:00～AM3:00
(ラストオーダー/AM 2:00)

・日 PM15:00～AM12:00
(ラストオーダー/AM 11:00)

※1階はテーブル席、カウンター席、2階は畳間になっております。2階は大人数の宴会可能です。
ご来店お待ちしております**

Instagramやってます！



オリジナルウェア・ユニフォームの制作



Instagram ▶ @43sports_official
LINE ID ▶ @kqr9179i

サッカー / バスケット / ハンドボール / バレーボール
野球 / バドミントン / 卓球 / テニス / ダンス
Tシャツ / ポロシャツ / ビーチシャツ / ウインドブレーカー
チームユニフォーム / 職員ユニフォーム / クラスTシャツ
部活Tシャツ / 家族Tシャツ etc

お客様の要望は、何でもOK！
お気軽にご相談ください。



お問い合わせは LINE まで

**なかなか手が回らない仕事
ステップが承ります!**

個人・企業・施設・農家さんからのお仕事
依頼承っております。皆さんの「困った」を
ステップがお手伝いいたします!

個人
「やる時間、体力がない。」
「その場所に行けない。」
草刈り・木の伐採
倉庫の整理・清掃
家の整理・清掃
大型家具の移動・運搬
引っ越しのお手伝い

企業・施設・農家
「本業以外に、手が回らない。」
「業務をこなすスタッフが足りない。」
バックヤード・倉庫の整理
簡易補助作業(農機・工場作業)
施設清掃
PC文字打ち
縦詰めやラベル貼り

上記以外の内容も、まずはご相談下さい。出来る
だけ、お力になります!!!

月曜～金曜(am8:00-17:00)
0980-72-7558

見学、お問合せなど、お気軽にどうぞ!

○センター
○モスバーガー
○しまむら
○シーサー
○ドラッグストア
○宮古島
○TSUTAYA
○住宅情報センター
○心愛
○Family Mart
ステップ

こんなお悩みありませんか?

自分達が歳をとった時、
その後、この子だけで
しっかり生活して
いけるかしら?

変わらないと
いけないと思ってい
けど、何をしたら
いいのかわからない。

一般就労するに
必要な体力や、
職業能力に自信がない。

ワタシのペースで出来る事から。
ワタシらしい働き方への
ワンステップ!

One for All All for One
1人はみんなのために みんなは1人のために

あなたの出来る事が、必ず誰かのため
になる!!

思いついた日、思い立った日がスタートです。「やらない
より、まずはやってみよう」の前向きな気持ちで、必ず
あなた自身をステップアップさせます!でも、なかなか
1人では一歩踏み出せない...そのサポートをぜひ、私たち
にさせてください。私たちと一緒に、笑顔で充実した明日
へステップアップしていきましょう!

We are Team STEP!! /

お仕事以外の時間も充実!!仲間達と一緒に、季節や行事に合
わせたレクリエーションやボランティア活動を楽しみ、コミュ
ニケーションを測ったり、就労の疲れをリフレッシュ。

合同会社ステップ
STEP Limited Liability Company

就労継続支援A型事業所 沖縄県許可指定番号4712300625
〒906-0012 沖縄県宮古島市平良字西里1085-3 コスモスST103号室
TEL&FAX: 0980-72-7558 営業時間/月曜～金曜 am8:00-17:00

fukinafu
でいがふう

Team

ペンション おふね
〒906-0421 沖縄県宮古島市平良字池間103-2

ペンション LilyVilla
〒906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里1093-12
TEL.090-3795-9311 代表 平良若代

中学校 《公開授業》

所属	授業者	学年	領域名・単元名
石垣市立 石垣第二中学校	宮良当志郎	2 年	運動領域 「ダンス」 現代的なリズムダンス
石垣市立 石垣中学校	大和田享弘	3 年	保健領域 健康な生活と病気の予防

第2学年 保健体育科学習指導案

日 時：令和7年11月21日（金）5校時

場 所：石垣第二中学校 体育館

対 象：2年1組 39名

授業者：宮良 当志郎

I 研究の構造

1 研究テーマ

より良いゴールを目指して、共に学び合う保健体育学習

～体育授業における課題提示の仕方と課題解決の方法の工夫を通して～

2 研究の目的

社会のデジタル化やグローバル化が進み、学校教育においてはGIGAスクール構想が推進され、これからの社会において主体的に学び続ける力が求められている。これまでの授業を振り返ると、技能の習得や運動量の確保に重点を置いた指導を行ってきたため運動の意義や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜びを味わい、生徒が自ら考えたり工夫したりする力の育成が十分ではなかった。また、運動が苦手な生徒でも安心して授業に取り組むようにするためには、すべての生徒が互いを尊重しながら「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりが必要であると考え。

3 研究の仮説

（1）ICT機器とGoogleクラウドを活用し、課題提示の仕方と課題解決の方法を工夫することで、生徒自ら課題意識を持ち、主体的に学習に取り組むことができるであろう。

（2）Googleクラスルームやスプレッドシートなどの「探求のサイクル」の活用から、自他の能力に適した課題を見つけ、ひと流れの動きを捉えた踊りや、動きの順序や動きそのものを工夫するとともに、考え事を仲間と伝え合い、表現することができるであろう。

4 研究の内容

（1）ICT機器とクラウドを活用した課題提示の仕方について

見通しを持たせるために、Googleクラスルームに単元計画を提示する。また、NITSが推奨している学びのピストグラムを明示し、生徒が自ら学習の目標（課題）を立てることができるようにする。さらにGoogleスプレッドシートに自分のめあて（課題）、振り返り、次へのボタン（新しく出た課題）を記載することで、学習履歴（スタディ・ログ）を確認できるようになり、学習内容を理解し自力で課題解決できる生徒が増えると考え。

（2）課題解決の方法の工夫・実践について

自らの課題解決に向け「探求のサイクル」を活用する。本研究では情報収集の際にGoogleクラスルームに必要な資料を載せておくことで生徒が自らの課題に応じて情報選択し活用できると考える。整理・分析の際にはホワイトボードを活用し話し合いの内容が視覚化できるように工夫し、Google共有ドライブに動画を提出させ、他者参照・途中参照でき、技能の評価資料にもつなげられ生徒が協働的な学びの中でインプットとアウトプットがスムーズになり主体的に学習を行いやすくなると考える。

Ⅱ 研究の実践

1 単元名 ダンス 現代的なリズムのダンス

2 単元の目標

- (1) 感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をする。【知識及び技能】
- (2) 表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】
- (3) ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元について

(1) 教材観

本研究テーマに近づけるためには、運動が本来持っている魅力を感じさせる必要がある。レディネス調査によりそれぞれが持っている「ダンスにおける理想の姿」を押さえながら、現代的なリズムのダンスの特性を生かす学習過程をどのように構想するかが重要となる。また、現代的なリズムのダンスはゴールフリー的な「探究型」の学習になっているのが特徴である。そのため、現代的なリズムのダンスの単元学習は、毎時間「踊る・創る・見る（交流する）」の楽しさを含みながら特性に触れ深めていくように、「いろいろなリズムにのって全身で自由に即興的に踊る」から「まとまりをつけて踊る（簡単な作品）」へ、2つの楽しみ方を柱として構成されている。ダンスバトルを楽しむために「どうすれば作品をより効果的に見せることができるか」を探究させることで、ダンスの単元で育てたい資質・能力の定着が図られると考える。また、お互いの考え方や意見を伝える力のヒントとしてスプレッドシートでの「次へのボタン」を作成し、言葉の掛け合い方の工夫を行う。教師の支援としては、「困った時のみサポートする」に徹したい。生徒自身ができることを精一杯行い、それでも難しい状況や場面に遭遇した際に「頼る」という関係性を構築したい。今回 ICT 機器の活用としては、学習の最後に本日の成果の動画を撮影することと、学習のスタート時に前時の動画を確認させること、良い「技」の動画を見本にし、軌跡を確認するなどの活用を図る。

(2) 生徒観

本学級の生徒はダンスに関して「恥ずかしさがある」「難しそう」などの苦手意識を感じる意見が半数以上を占めた。その理由として「リズムが難しい」や「できる技や振り付けがない」などの意見が多かった。一方で「ブレイクダンス」のイメージは、「オリンピックで見て興味がある」や「できたらカッコいい」などの肯定的な意見も多く、「ダンス」というスポーツに興味を持つ生徒も多にいる。

(3) 指導観

授業のウォーミングアップからリズムトレーニングを取り入れるなど、リズムにのって体を動かすことを楽しいと思える空間づくりを意識する。また ICT 機器と Google クラウドを活用することで、生徒が自らの課題に応じて情報選択し解決につなげる工夫を行うとともに、主体的に学習に取り組める授業スタイルを確立することで、考えたことを仲間同士で伝えたり表現したりする力を身に付けさせたい。

(1) 学びのピクトグラム
課題提示の仕方について見通しを持たせるために、「今日のめあて」に加えて NITS が推奨している「学びのピクトグラム」を明示し、生徒が自ら学習の目標(課題)を立てることができるようにする。(枠 1)

今日のピクトグラム	学習目標と活動 確認したスキル	今日の授業の 関わり方	提出 ボックス
フリーズ	行うこと 見ること 知ること	提出 ボックス	提出 ボックス
トップロック フットワーク フリーズ	行うこと 支えること	提出 ボックス	提出 ボックス
トップロック	行うこと 知ること	提出 ボックス	提出 ボックス
フットワーク	行うこと 支えること	提出 ボックス	提出 ボックス
パワームーブ	行うこと 知ること	提出 ボックス	提出 ボックス
フリーズ	行うこと 見ること 知ること	提出 ボックス	提出 ボックス

(2) プルダウンシステム

授業の振り返りの際に、活動内容を選択できるようにし、生徒の取り組んだ内容を視覚化できるようにする。(枠 2)

(3) Google マイドライブ(参考資料&動画)
スプレッドシートにドライブのリンクを貼り付け、生徒が参考資料やお手本動画をいつでも活用できるようにする。



(4) Google 共有ドライブ(動画提出)
共有ドライブのリンクを貼り付け、生徒が授業で行った活動内容を動画や画像として提出できる。(枠 3)

2025年7月18日(金)		今日のめあて：基本の技+興味のある技を見つけ、挑戦しよう				★学びのピクトグラム※今日、特に意識すること ★★「競技に興味を持ち、意欲を高める！」(知・技) ★★★仲間と協力してめあてを達成すること(約束事)	
名 前		今日のめあて	今日の学びのピクトグラム	参考資料&動画 練習したスキル	今日の授業の 関わり方	提出 ボックス	先生の評価
		基本的な技+興味のある技を見つけ、挑戦しよう		フリーズ	行うこと 見ること 知ること	提出 ボックス	B
		基本的な技+興味のある技を見つけ、挑戦しよう		トップロック フットワーク パワームーブ フリーズ	行うこと 支えること	提出 ボックス	A
		基本的な技+興味のある技を見つけ、挑戦しよう		トップロック パワームーブ フリーズ	行うこと 知ること	提出 ボックス	B
		基本的な技+興味のある技を見つけ、挑戦しよう		トップロック フットワーク パワームーブ	行うこと 見ること 支えること 知ること	提出 ボックス	A
		基本的な技+興味のある技を見つけ、挑戦しよう		トップロック	行うこと 知ること	提出 ボックス	A+

2学年 ダンス 単元の指導計画・評価計画

5単元の指導計画・評価計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ねらい	・ダンスの特性、学習のねらい、評価を理解する	ねらい1 W-upでリズムに合わせた動きをマスターする	ねらい2 8カウントを意識しながら、8種類のステップをマスターし組み合わせることができる	ねらい3 多くの技にチャレンジし組み合わせる中で、自己や仲間の課題解決に向けて練習を工夫し、本番に向けダンスを楽しむ							
毎時間のめあて	授業の流れ、評価計画を知る	W-upで基本的な動きを身に付ける	8カウントのリズムに乗って動きをつなげる	スキルチェック 8種類のステップをマスターする	8種類のステップを組み合わせる	組み合わせた8種類のステップでダンスバトル	興味のあるブレイクダンスの技に挑戦する①	興味のあるブレイクダンスの技に挑戦する②	本番に向けてチャレンジ技+組み合わせを考える	本番に向けてチャレンジ技+組み合わせを決定する	ダンスバトル(8ビート×16)
5	号令・健康観察・出席確認・本時の確認・個人のめあての設定										
10	○リエンテーション	W-up (リズムトレーニング Lv.1～Lv.2)					W-up (リズムトレーニング Lv.3～Lv.4)				
15	○ディレクション	○リズムトレーニングで基本の動作の練習、カウントの取り方、行い方の確認	○リズムトレーニングで8カウントを意識して基本動作を「つなげる」確認	○スキルチェックの説明 ○グループ活動⇒身に付けた8種類のステップを全員一斉に踊る	○スキルチェック(前回提出した動画)の確認 ○活動の説明	○ダンスバトルの説明(審判や鑑賞の仕方など) ○前回提出した動画(8ステップの組み合わせ)確認と練習	○ブレイクダンスの説明 ○4つの要素(トップロック・フットワーク・パワームーブ・フリーズ)の解説と実践	○活動の説明 ○グループ活動⇒見本動画などを参考に興味のある技にチャレンジする(個人・ペア)	○活動の説明 ○グループ活動⇒見本動画などを参考に興味のある技にチャレンジする(個人・ペア)	○活動の説明 ○グループ活動⇒ダンスバトルで披露する技や組み合わせを確認し、練習する	○ダンスバトルの確認(審判や鑑賞の仕方など) ○グループ活動⇒本番に向けての最終確認
20	○ダンスの歴史			⇒立ち位置や手拍子などオリジナルリートを加える工夫を意識する	⇒組み合わせた順番等をオーダーボードにまとめる	ダンスバトル				⇒組み合わせた順番等をオーダーボードにまとめる	ダンスバトル
25	○ブレイクダンス鑑賞(東京オリンピック)	○カウントをコールしながら、基本の動作の確認	○補助器具(ライン)を使わずに、8カウントを意識して全員一斉に踊る	⇒動画撮影を繰り返し、ベストなものを提出	⇒動画撮影を繰り返し、ベストなものを提出					⇒動画撮影を繰り返し、ベストなものを提出	
30											
35											
40											
45	○評価の確認	○基本の動作をつなげてみる				○活動の振り返り	○見本動画の紹介	○ダンスバトルに向けての説明			○活動の振り返り
50	本時のまとめ、チームの反省・Googleスプレッドシート入力、次時の確認										
ICT活用計画	foam7ネットワーク	スプレッドシート パワーポイント (見本動画)	スプレッドシート パワーポイント (見本動画)	スプレッドシート Googleドライブ (動画提出)	スプレッドシート Googleドライブ (動画提出)	スプレッドシート ダンス動画(鑑賞)	スプレッドシート Googleドライブ (見本動画)	スプレッドシート Googleドライブ (見本動画)	スプレッドシート Googleドライブ (動画提出)	スプレッドシート Googleドライブ (動画提出)	スプレッドシート Googleドライブ (動画提出)
指導計画	知	①	①	②	③	③	②	②			
	技		①		③		②	②			
	思考		③	①	④		②	②			
	意	①		②	③	①③	④	①③	②	②	
評価計画	知		①		①	①③		②		②	②③
	技			③	③		②	②	②③	②③	
	思考	①		①②	③	③	④	①			③
評価方法	foam7ネットワーク	スプレッドシート	スプレッドシート	観察 スプレッドシート	スプレッドシート	観察 スプレッドシート	スプレッドシート	観察 スプレッドシート	スプレッドシート	スプレッドシート	観察 スプレッドシート
評価基準	知識			技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	①仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりする楽しさや喜びを言ったり書き出したり、打ち込んでいる。 ②軽快なリズムに乗って全身で弾みながら自由に踊るなどの身体を使った表現の仕方があることを言ったり書き出したり、打ち込んでいる。 ③ダンスはリズムカルな全身の動きに関連した体力が高まることを言ったり書き出したり、打ち込んでいる。			①自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しリズムで踊ることができる。 ②軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手と対応しながら踊ることができる。 ③短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って踊ることができる。			①提示された踊りのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来栄を仲間に伝えている。 ②提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題に応じた練習方法を選び仲間に伝えている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見つけ仲間に伝えている。 ④体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見つけ、仲間に伝えている。			①仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②簡単な作品制作などについての話し合いに参加しようとしている。 ③一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めよう(大切にしよう)としている。 ④健康・安全に留意している。	

6 本時の展開（9／11時間）

- (1) ねらい 興味のある技に挑戦し、8カウントを意識してダンスに組み合わせることができる。
- (2) 学習評価 軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手を叩く、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手と対応しながら踊ることができる。

(3) 学習過程

段階	学習活動	■評価方法(見取り方) ☆教師の支援
導入 10分	1 健康観察・ねらいの確認・めあての入力 2 本時のねらいの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">今日のめあて：興味のある技に挑戦し、8カウントを意識してダンスに組み合わせよう。</div> 3 W-up【リズムトレーニング】 ・リズムダンスで体を温める 4 グループ活動 ・各グループで今日活動するところを確認する	☆活動班ごとに用具をまとめさせる。 ☆W-upをサポートする(カウントどり)。 ☆安全面に留意しながら声かけする。 ■観察【思判表②】
展開 30分	5 活動1：Google クラウドを活用し、情報選択から様々な技に挑戦 ・各グループの指定された場所で行う 6 教師の話：説明 ・ダンスバトルに向けて、8カウントを意識しながら技を組み合わせることを伝える。 ・組み合わせはミニホワイトボードにまとめる。 7 活動2：動画撮影から「組み合わせる」活動 ・ダンスバトルで披露する技や組み合わせなどを考え、実践する。 ・仲間と助言を送り合いながら活動を行う。 ・動画撮影を繰り返し、よりベストなものを提出ボックス(Google ドライブ)に提出する。	■観察【技能②】【思判表③】 ☆活動をスムーズに行えるように声かけをする。動画撮影は生徒同士で行う。
週末 10分	8 グループ活動で集団の振り返り 9 振り返り：Google スプレッドシートで個人の振り返り	☆活動終末にグループの気づきをまとめさせる。 ☆まとめ後に次の活動内容を説明する。

【参考文献・資料】

- 文部科学省 2018 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』 東山書房
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020
 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 東洋館出版社
- 鈴木一行 2024 『体育科教育』 大修館書店
- NITS 独立行政法人教職員支援機構
<https://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/pictogram.html>

第3学年 保健体育科(保健分野)学習指導案

日 時：令和7年11月21日(金)5校時

場 所：石垣第二中学校 多目的室

対 象：3年2組32名

授業者：大和田 享弘

I 研究の構造

1. 研究テーマ

より良いゴールを目指して、共に学び合う保健体育学習
～保健授業における個別最適な学び・協働的な学びの工夫と探究型学習の充実を通して～

2. 研究の目的

中学校3年生を対象とした保健授業において、生徒一人ひとりの理解度や興味・関心に応じた個別最適な学びと、生徒同士が互いに支え合い、高め合う協働的な学びの在り方を工夫・改善することで、学習の主体性と深い学びを促進することができるであろうと考える。

また、現代的な課題や身近な健康問題を題材とした探究型学習を取り入れることにより、生徒が学びの意義を実感し、自ら課題を見つけ、考え、判断し、表現する力を育成することを目指したい。

このような学習の充実を通して、生徒が「より良い生き方」や「望ましい健康の実現」に向けた意識を高め、将来にわたって自らの健康を主体的に考え行動できる資質・能力の育成を図っていけるよう取り組みたい。

3. 研究の仮説

知識の構築だけでなく思考力や表現力を高めることに重点を置いた学習形態である「知識構成型ジグソー法」を活用することで、生徒が互いの学びを尊重し合いながら、協働的に理解を深めることができ、学び合いを通して、コミュニケーション能力や協調性、思考力・判断力・表現力といった資質・能力が育成されるだろうと考える。

4. 研究の内容

(1) 知識構成型ジグソー法を活用した「個別最適な学び、協働的な学び」の工夫・実践

知識構成型ジグソー法による協働的な学びは、個別最適な学びとの両立が可能であり、多様な生徒が自分に合った方法で学びを深められるだろうと考え、工夫・実践する事で生徒自身が「より良いゴール」を自ら見出し、より主体的・探究的な学びが展開できるだろうと考える。

(2) 自立した学習者育成プロジェクトに沿った授業づくり

知識構成型ジグソー法を活用し、沖縄県の自立した学習者育成プロジェクトに沿った保健授業づくりを進めることで生徒の「知る」から「考える・つながる・行動する」学びへと繋がるのではないかと考える。

Ⅱ 研究の実践

1 単元名 「健康な生活と病気の予防③」 (カ)健康を守る社会の取組

2 単元の目標

- (1) 健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること、また、医薬品は正しく使用することを理解させる。

【知識及び技能】

- (2) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを書いたり、伝え合ったりすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- (3) 健康な生活と疾病の予防について学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元について

(1) 教材観

小学校では、健康の大切さや健康によい生活、病気の起こり方や予防などについて学習している。本単元では、人間の健康は、主体と環境が関わり合って成り立っていること、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因に対する適切な対策があることについて理解できるようにする。(カ)健康を守る社会の取組では、健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取組とともに社会の取組が有効であることを理解できるようにする。社会の取組としては、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として各機関が持つ機能を有効に利用する必要があることを理解できるようにする。その際、住民の健康診断や健康相談などを適宜取り上げ、健康増進や疾病の予防についての地域の保健活動についても理解できるようにする。

また、心身の状態が不調である場合は、できるだけ早く医療機関で受診することが重要であることを理解できるようにする。さらに、医薬品には主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があり、正しく使用する必要があることについて理解できるようにする。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、日頃から心身の状態が不調である場合に保健室を利用して休養したり、養護教諭や担任などに健康相談をしたりするなど、健康的な生活行動として個人の取組を行うことができる生徒は多い。一方、コロナ禍において関わりが増えた保健所や、健康診断などで毎年関わりのある保健センターの各機関が持つ機能を知り、有効に利用しようとする生徒はほばいないように感じる。また、適切な医療機関の受診や医薬品を正しく使用する理由まで理解できている生徒は少ないと感じる。本単元を通して、健康の保持増進や疾病の予防には、個人の取組とともに社会の取組が有効であることを理解し、今後の生活に役立てるようにしたい。

(3) 指導観

沖縄県の「自立した学習者育成プロジェクト」や研究テーマを受け、二つの手立てを基に指導をしていく。

①個別最適な学びと協働的な学びの場面設定

これまで学んできた知識構成型ジグソー法を活かし、一人ひとりが主体的に学習に取り組むとともに、エキスパート活動やジグソー活動において生徒同士で情報を共有し、試行錯誤しながら思考・判断していく学びの場面を作っていく。その際、ICT 機器を活用しながら共有できるようにする。

②自学自習力に繋がるような探究活動の設定

授業の内容が活かされるテーマや生徒自身が興味がある内容を調べ提出する。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取組とともに社会の取組が有効であること、社会の取組には、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として各機関が持つ機能を有効に利用する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>② 心身の状態が不調である場合は、できるだけ早く医療機関で受診することが重要であること、医薬品には、主作用と副作用があること及び使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があり、正しく使用することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>① 健康の保持増進や疾病の予防における個人と社会の取組について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを書いたり、伝え合ったりしている。</p> <p>② 適切な医療機関の受診や医薬品の使用方法について、習得した知識を自他の生活と関連付けて思考し判断しているとともに、それらを書いたり、伝え合ったりしている。</p>	<p>① 健康な生活と疾病の予防についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

5 単元の指導計画・評価計画

時	学習内容・目標	知	思	態	評価方法
1 (本時)	1. 目標 ・人々の健康を守るために、地域でどんな活動が行われているかについて理解する。 ・保健機関の利用の仕方について考える。 2. 学習活動 (1)メインの問いに対して自分の考えを持つ。 (2)エキスパート活動を通して、情報収集を行う (3)ジグソー活動(クロストーク)を通して、情報の整理・分析を行い、改めて自身の考えを確認する。 (4)改めてメインの問いに対して自身の考えを持つ。 (5)本時の学習のまとめ	①		①	発言の観察 ワークシート
2	1. 目標 ・医療機関の役割と利用の仕方、医薬品の作用と正しい使い方を理解する。 ・医療機関の利用の仕方や医薬品の正しい使い方について考える。 2. 学習活動 (1)メインの問いに対して自分の考えを持つ。 (2)エキスパート活動を通して、情報収集 (3)ジグソー活動(クロストーク)を通して、情報の整理・分析を行い、改めて自身の考えを確認する。 (4)改めてメインの問いに対して自身の考えを持つ。 (5)本時の学習のまとめ		②	①	発言の観察 ワークシート

6 本時の指導「健康を守る社会の取り組み」(1 / 2 時間)

(1) ねらい

- ・人々の健康を守るために、地域でどんな活動が行われているかについて理解する。
- ・保健機関の利用の仕方について考える。

(2) 本時の評価規準

評価の観点	知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<知識・技能> 健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取組とともに社会の取組が有効であること、社会の取組には、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として各機関が持つ機能を有効に利用する必要があるこ

	<p>とについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>〈思考力・判断力・表現力等〉</p> <p>健康の保持増進や疾病の予防における個人と社会の取組について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを書いたり、伝え合ったりしている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度〉</p> <p>健康な生活と疾病の予防についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>
評価方法	<p>授業内：発言の観察、ワークシート</p> <p>授業後：ワークシート</p>

(3) 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善(教材・発問・問い返し・過程工夫等)

場 面	工夫点	めざす子どもの姿
情報の収集	<p>課題に対して教具を選べるようにし、エキスパート活動で活用する。</p> <p>ICT 機器、教科書 など</p>	自身に合った教具の選択 (個別最適な学び)
情報の整理・分析	<p>エキスパート活動やジグソー活動で他者の考えを聞きながら自己の考えを整理する。</p>	他者と相談しながら課題解決を図る (協働的な学び)
自分に+α	<p>新たな問いを探究したり、本日学んだりを深める機会を作る。</p>	連続した学習のサイクルだと考える習慣の定着 (探究活動)

(4) 展開

過程	学習活動	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点、評価等
導入 (十分 つかむ・見通す)	1. 前時までの確認、健康について確認する。	<p>「早寝早起き」</p> <p>「病気じゃない」</p> <p>「環境も健康であることに必要なんだな」</p>	○個人の取組が大切なこと、肉体的・精神的・社会的に満たされた状態であることを押さえる。
	2. メインの問いの提示と確認 【情報の提示】		
	3. はじめの解を考える。 メインの問いに対する最初の考えを個人で記入する。	<p>○現時点での自分の考えを確認させる。</p> <p>「予防接種を受ける」</p> <p>「食事をきちんととる」</p>	ワークシートに記入

展開 (二十五分) (考える・深める)	<p>4. エキスパート活動</p> <p>【情報の収集】</p> <p>A～C グループで情報を集め、考えをまとめる。</p>		<p>○A～Cそれぞれのグループで協力して情報を集めたり、教え合ったりすることを指示する。</p>
	<p>A: 国民の健康を守るための活動とは？</p> <p>B: まちの健康を守るための活動をしている機関について知ろう。</p> <p>C: 地域の健康を守るための活動をしている機関について知ろう。</p>		<p>ワークシートに記入</p>
	<p>5. ジグソー活動</p> <p>【情報の整理・分析】</p> <p>ジグソーグループで共有</p> <p>エキスパート活動での情報をグループで共有する</p>		<p>○分かったことを中心に自分の言葉で班員に伝えるよう指示する。</p>
	<p>6. クロストーク</p>	<p>次のようなときは、どこに相談すればよいでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家の人、がん検診を受けたい。 2. 家の人みんなで体力測定を受けたい。 3. 近所で発生した害虫を駆除してほしい。 4. 生活習慣病の予防のための食事について知りたい。 	
	<p>自分達のグループの考えと比較しながら他のグループの発表を聞き、メインの問いについての考えを深める。</p>	<p>健康の保持増進や疾病の予防における個人と社会の取組について、話し合ったり、記述したりして伝え会おうとしている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p>	
終末 (十五分) (まとめる・振り返る)	<p>7. 終わりの解</p> <p>メインの問いに対する最終的な自分の考えを記入する。</p>		<p>健康の保持増進や疾病の予防には、個人の取組と社会の取組が有効であることについて書いている。【知識・理解】</p>
	<p>8. まとめ</p> <p>電子黒板に提示されているグループの考えからキーワードを繋げてまとめる。</p>		<p>ワークシート</p>
	<p>10. 自分に＋α</p> <p>石垣市と全国の平均寿命に開きがあるのはなぜだろう</p>		<p>石垣市と日本の平均寿命を表すグラフを提示</p>

(5) 板書計画

11/21(金) 健康を守る社会の取り組み

○世界保健機関(WHO)の健康の定義

「健康とは、肉体的・精神的・社会的にも、全てが満たされている状態にあること。単に疾病のない状態や病弱でないことではない。」

情報の提示 健康でいるために、あなたが大切だと思う社会的取組はなんですか。

情報の収集 A:国民の健康

まとめ

B:町の健康

健康な生活を送るためには、個人と社会

C:地域の健康

の取組が必要

情報の整理・分析

参考文献

○文部科学省 2018 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 保健体育編』 東山書房

○国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 東洋館出版社

○「ジグソー法ってなに？」 丸善出版

○沖縄県中学校体育研究会 創立五十周年記念誌 令和 3 年 5 月発刊

高等学校《公開授業》

所属	授業者	学年	領域名・単元名
沖縄県立 八重山高等学校	吉永安二	3年 (1年)	スポーツⅡ ターゲット型「もルック」

保健体育科学習指導案

日 時：令和 7 年 11 月 21 日（金）

場 所：八重山高等学校 体育館

対 象： 3 年 4.5.6 組 19 名（男子 13 名／女子 6 名）
（協力クラス 1 年）

指導者：教諭 吉永安二

1 単元名

レクリエーション「モルック」

2 単元の見どころ

○自己やチームの活動を通して、個人技能を高めるとともにゲームの仕方を理解し、課題を解決する方法や周りとの協力しながらゲームを展開することができるようにする。また、指導者の観点から 1 年生にモルックの楽しさやルール・投てき技術等を伝えることができるようにする。

【知識及び技能】

○個人やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、取り組み方を工夫するとともに、自分の考えを他者に伝えることができるようにする。また、指導者の立場から効率的な得点の仕方や戦略を考え伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

○一人一人の違い（個性）に応じたプレイを大切にしようとするとともに、互いに助け合い高め合おうとすることができるようにする。また、指導者の立場から 1 年生にチームプレイの大切さや積極的にゲームに参加する促しを行う。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

(1) 教材観

モルックとは、フィンランドのカレリア地方に伝わる昔ながらの遊び kyykka（クウッカ）を元に作られたスポーツです。

1996 年に Tuoterengas 社（トゥオテレンガス福祉会社）によって開発され、現在の世界の競技人口は約 100,000 人、日本では約 10,000 人だと推測されています。

ルールは基本的に団体戦ですが、最低 2 人いれば対戦できます。フィンランドで開催される世界大会では 4 人 1 チームでプレイされるそうです。モルック（木の棒）をスキットル（番号の棒）に向けて投げ、倒れたスキットルの内容によって得点を加算していき、先にピッタリ 50 点になるまで得点した方の勝ちとなります。

特徴は、ルールがシンプルなので、子供からお年寄りまで運動の得意不得意に関係なく、みんながプレイできるのがモルックの特徴です。1 本でも倒せば点数になりまし、先に 50 点ピッタリになったチームの勝ちです。50 点を超えた場合は 25 点へと減点され、ゲームは継続となります。厳しいようですが、だからこそ戦略的にどのようにして 50 点まで刻んでいくか。チームで協力して技術と作戦を練り上げ、試行錯誤して取り組む事がモルックで勝つポイントになります。

(2) 生徒観

選択制授業であるため、運動が得意、運動が好きな生徒の集まりである。また、部活動に加入している生徒がほとんどであるため、自主的に活動することは勿論のこと、協調性が備わっている生徒が多く、主体的に活動が行われている。また、得意な種目ごとにリーダー性を発揮する状況もある為、将来の指導者を目指す、或いは自分の事だけでなく周りの状況を把握して行動に移すことができるレベルの高い取り組みが可能である。

(3)指導観

日々の授業に於いて、主体的に自主性をもって活発に活動することは勿論のこと、協調性に富み自分の役割や他者へ協力することを惜しまない取り組みが行われている。そのような内容から、将来の指導者を志す、或いはスポーツに関わる仕事に就きたいなど、スポーツを通して人と関わる事を目指す状況から、自分で行うスポーツから他者に楽しんで活動してもらうリーダー（指導者）の立場にレベルアップできるように取り組む。

4単元目標、単元計画、単元の評価規準、評価計画

知識及び技能	自己やチームの活動を通して、個人技能を高めるとともにゲームの仕方を理解し、課題を解決する方法や周りと協力しながらゲームを展開することができるようにする。また、指導者の観点から1年生にモルックの楽しさやルール・投てき技術等を伝えることができるようにする。					
思考・判断・表現	個人やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、取り組み方を工夫するとともに、自分の考えを他者に伝えることができるようにする。また、指導者の立場から効率的な得点の仕方や戦略を考え伝えることができるようにする。					
学びに向かう力	一人一人の違い（個性）に応じたプレイを大切にしようとするとともに、互いに助け合い高め合おうとすることができるようにする。また、指導者の立場から1年生にチームプレイの大切さや積極的にゲームに参加する促しを行う。					
学 習 の 流 れ	時	1～2	3～9	10～15	16～17	授業づくりのポイント
	0	健康観察・本字のねらいと内容確認				資質能力をバランス良く配置する。 自主的・主体的な学習に取り組む。 自分で行う立場から指導する立場へ意識を高める。
	10	オリエンテーション 授業の流れ 基本ルールの理解 安全管理	準備運動（集団行動）		リーダーシップ 基本ルールと基本技術の指導及びゲームの楽しさの伝達	
	20		基本技術の習得 ゲームを楽しむ	技術の向上 戦略の工夫 チーム力の向上		
	30					
	40					
	50	学習の振り返り・次時の確認			単元まとめ	
	評 価 機 会		1	2	3	4
知		①			②	記述テスト・観察
技			①			観察・カード
思判表					①	観察・カード
態度				①		観察・カード
単 元 の 評 価 基 準	知	①技術と得点獲得に向けた戦略及び工夫の構築				
	技	①様々な状況に応じた点数獲得を可能にする技術。				
	思判表	①チームで協力し、戦略に応じた投てきの発揮。 ②指導する立場として全体の状況を把握して、スムーズな進行を意識する。				
	態度	①自主的・主体的に授業に取り組む姿勢。 ②健康安全に留意して取り組む。				

5 本時の学習 15/22時間目（指導授業1回目／2時間）

（1）本時のねらい

- ・これまで学習した内容をふまえ、指導する立場からモルックの楽しさや面白さを伝えることができるようにする。また、チームで協力する大切さやコミュニケーションの重要性を実感させる。

（2）本時の評価

- ①基本技術や基本ルールをしっかりと伝えることができる。
- ②得点するための技術やゲームにおける戦略を分かりやすくアドバイスできている。
- ③全体の状況を把握して、ゲームの進行ができている。
- ④健康や安全に留意して適切に取り組みができている。

（3）準備するもの

モルック、得点板、マット、プロジェクター、マイク、出席簿、その他

（4）本時の展開

	生徒の学習内容と活動	教師の指導及び支援	評価機会
導入 5分	<u>0. 準備</u> ○モルック、得点板、プロジェクター、マイク <u>1. 出欠確認と健康観察、役割確認、準備運動</u> <u>2. 本時のめあての確認</u>	○授業開始前に準備を終えるようにする。 ○開始ベル前に整列して待つ。 ○リーダーの指示のもと生徒で確信し、教科担当に欠席者を報告する。 ○健康観察 ・健康上問題がある生徒については適切に対応する。	自主的・主体的に活動できているか （学びに向かう力）
	めあて：①これまでの学習内容を活用し、指導する立場として1年生にモルックの楽しさを伝える。 ②チームで協力し、作戦を立てて得点を重ねることができるようにする。		

<p>展開 35分</p>	<p><u>3. 集団行動（5分）</u> ○号令をもとに全体で協力する態勢を作る</p> <p><u>4. 基本ルール説明</u> ○パワーポイントで説明 ○基本ルールを理解して、試合に取り組む。</p> <p><u>5. モルック競技開始（30分）</u> ○グループごとに別れて、3年生の指導の下ゲームを行う。 ○勝敗がついたチームは、別の班との交流戦を行う。</p> <p><u>6. 最終戦を終えたチーム</u> ○用具の片付けを行う。</p>	<p>○集団行動でチームワークを高める。</p> <p>○ICTを活用し、理解しやすい環境を整える。 ○基本ルールを理解し、ゲームにのぞむ。</p> <p>○3年生指導のもと、試合に取り組む。</p> <p>○指導する立場として楽しさを体験させる事ができるようにする。</p> <p>○指導する立場として分かりやすいアドバイスを心がける。</p> <p>○3年生は、試合の状況を確認しながら、ルールに従ってゲームが進行させる。</p> <p>○試合の状況に応じて必要な点数や戦略のアドバイスを行う。 ○</p> <p>○体調に変化はないか生徒の様子を観察する。</p>	<p>自分の考えに応じて得点することができるか。 （知・技）</p> <p>1年生の状況に応じてアドバイスできているか。 （思・判・表）</p> <p>積極的に1年生にアドバイスして、指導スキルを構築しているか。 （学びに向かう力）</p> <p>体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 （思・判・表）</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p><u>7. まとめ、次回の確認</u> ○めあての振り返り。 ○次回の授業の確認。</p> <p><u>8. 健康観察、終わりの挨拶</u></p>	<p>○モルックの楽しさや面白さを伝えることができたか。</p> <p>○次回に向けて課題を設定する。</p>	<p>次回の課題を設定できたか。 （思・判・表）</p>

子ども達に無限の可能性を



鳶職 小禄組

沖縄県知事許可(般-1)第13691号

(有) ガリバー旅行企画

沖縄県知事登録旅行業第2-174号(社) 全国旅行業協会会員

[本社] 〒901-1111 南風原町兼城 603-2F
TEL098-889-4545 FAX098-889-4175

[名護支店] 〒905-0011 名護市宮里 446-3 101
TEL0980-43-8895 FAX0980-43-8627



<https://www.gariver-t.co.jp>



小学校《研究発表》

〔口 頭 発 表〕

所属	授業者	テーマ
国頭村立 辺士名小学校	屋良昇洋	対話と協調で育むソフトバレーボール授業 —子どもの安心・挑戦・成長を支える授業展開—

〔誌 上 発 表〕

所属	授業者	テーマ
那覇市立 天妃小学校	宮平一希	仲間と共に学び合い、主体的に活動する児童の育成 —マット運動における関わり合う場の設定の 工夫を通して（第5学年）—
多良間村立 多良間小学校	名嘉真静香	健康課題の解決に向けて主体的に取り組む多良間っ子の育成 —実生活に生かすための指導の工夫を通して—

対話と協同で育むソフトバレーボール授業 ～子どもの安心・挑戦・成長を支える授業展開～

国頭村立辺士名小学校 屋良 昇洋

I 研究目的

本研究の目的は、児童がソフトバレーボールを教材として活用し、基本的な技術やルールを理解するとともに、チームで協力し合いながらゲームを楽しむ姿勢や技能を育成することである。また、ルールの工夫やチーム戦略づくりを通して、子ども同士が意見を交換し合い、思考力・判断力・表現力を育むことを目指す。その中で、勝敗にとらわれないフェアプレーの精神や仲間を認め合う態度、安全面への配慮を重視し、体力・社会性・協調性の向上を図る。

さらに、国頭地区小学校体育研究会では、児童の現状や教師の指導環境を踏まえ、教師自身が「楽しい！学びたい！」と感じられる授業づくりを推進している。そのために「よりそう・まかせる・引き出す」をキーワードとし、運動やスポーツへの多様な関わり方である「する・知る・見る・支える」のいずれかの視点から仲間と関わり合い、自ら学びを深める子どもの育成を重視している。本研究のテーマ設定も、この理念に基づいている。

この視点を踏まえ、児童の運動能力や心理的状況に応じた段階的な支援や環境調整を行うことで、誰もが達成感や協力の喜びを味わいながら授業に参加できるよう努める。温かな学習環境を整え、子どもが安心して挑戦し、自己の成長を実感できるよう支援する。授業の展開は、基本技術の習得、対話を通じた学び、試合形式での実践へと系統的に進め、子どもの深い理解と主体的な学びを促進する。

最終的に、子どもが「する・見る・知る・支える」という多様な視点を通じて仲間と関わりながらソフトバレーボールに取り組み、運動やスポーツへの関心を高めることを目指す。それにより、生涯を通じた健康の維持や豊かな人間関係の形成に資する基盤を築くことを本研究の目的としている。

II 研究仮説

ソフトバレーボールの授業において、基礎技能の習得と協同的な作戦づくりを重視することで、児童は技能向上に加え、思考力や表現力を育み、主体的に学ぶ態度を身につけられるであろう。また、ルールの工夫により運動が苦手な子も安心して参加でき、協力の喜びを味わいながら、多様な視点（する・見る・知る・支える）からスポーツへの関心を深め、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基盤を築くであろう。

III 研究内容

児童が仲間と関わりながら自ら学びとる姿を育てるために、学校全体で体育の指導計画をどのように構想し、運動領域を有機的につなげ、授業を組み立てていくかを検討する。

1 学びとっていく授業づくりのイメージ化

児童が主体的に活動に関わり、教師がその学びを方向づけるイメージを持って授業を設計する。ここでは次のような教師の姿を想定する。

(1) 構想し、構成する教師の姿

①「よりそう」

児童の気づきや意欲に耳を傾け、一人ひとりの発達段階や特性を尊重しながら、その成長に必要な環境を調整する。個別の可能性を支援するために、挑戦しやすい課題や協力の場を丁寧に準備する。

②「まかせる」

授業の主導権を徐々に児童へと移し、子ども同士の試行錯誤や自発的なアイデアを尊重する。予期せぬ展開をあえて受け入れることで、学びの幅を広げる経験を児童に提供する。

③「ひき出す」

児童が潜在的に持っている力を引き出すために、問いかけや観察の機会を工夫する。仲間前で意見や工夫を表現する場を設け、児童自身が「学ぶことの楽しさ」に自覚的になれるよう導く。

2 児童一人一人が学びとる姿

ソフトバレーボールの学習において、児童が「する・見る・知る・支える」という多面的な関わりを通じて、自分なりの学びを深める姿を描く。

(1)「する」

パス・サーブ・レシーブといった基本技能を練習しながら、ラリーをつなぐ達成感や得点を取る喜びを味わう。運動の楽しさが体力の向上や心身の健康にも結びついていく。

(2)「見る」

仲間のプレーを観察したり、活動の様子を映像で振り返ったりすることで、自らの動きと比較し、改善点を発見する。仲間の良さを認める視点も養う。

(3)「知る」

ソフトバレーボールの特性やルールを理解し、スポーツのもつ価値や意義に気づく。また、小学校段階から意識させることで、スポーツの多様性や多角的な視点をもてるようになることも期待できる。

(4)「支える」

仲間への声援やアドバイス、用具の準備やコート整備などを通じて、活動を支える経験を積む。互いに支え合う過程で、協力することの大切さを実感する。

3 学びとっていくための系統性・つながりのある指導計画（ネット型ゲーム領域）

ネット型ゲーム領域における系統性を意識し、学年を追って段階的に指導を組み立てる。低学年ではボール操作に慣れ、仲間とラリーを続けることを楽しむ。中学年では簡易ルールの中で作戦や協力を試み、連携プレーの基礎を経験する。高学年ではより本格的な試合形式の中で戦術を考え、仲間との協同を深める。

このように、児童が学年ごとに自ら課題を設定し、解決方法を工夫しながら経験を積み重ねることで、次の学年での新たな挑戦につなげられるよう、組織的・計画的に指導を構成する。

4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組

体育学習において、児童が運動の楽しさやスポーツの価値に気づき、興味・関心を高めながら、自ら課題の解決に向けて挑戦し続けることを重視する。特に、課題に取り組む過程で自分の動きを見直し、新たな解決方法を考えるなど、主体的に学びに向かう姿勢を促す。

また、仲間や教師、ICT機器を通して得られる情報や助言をもとに、自らの考えを修正したり広げたりすることによって、対話的な学びを深める。その過程で、自分の運動や健康に関する課題を見出し、仲間との協同を通して解決を試みる中で、深い学びへとつなげていく。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1時間の授業の中だけで完結するものではない。単元を通じて、学習の見通しを立てる場面や学習成果を振り返る場면을意図的に設定することで、自らの学びや変容を自覚できる機会を保障する。さらに、児童同士の対話を重視し、考えを広げたり深めたりする時間を設けるとともに、教師が適切に介入し、児童の思考をよりよく発展させる場面を組み立てていく。

5 指導の実際

(1) 単元名

「ソフトバレーボール」

題材名 「全員が主役！決める喜び チャレンジ・ザ・アタック」

(2) 単元について

① 教材観

本単元で扱うソフトバレーボールは、ネットを挟んで相手と対戦する運動であり、チームで協力して得点を競い合うことを楽しむことができる教材である。柔らかいボールを使用することにより、初心者や運動に苦手意識をもつ児童でも安全に取り組むことが可能であり、誰もが参加しやすい環境を実現できる点に特徴がある。

ソフトバレーボールでは、ボールの方向に素早く体に向ける動きや、アタック・トス・サーブといった基本的な技術を学ぶ過程で、ラリーを続ける楽しさや得点する達成感を味わうことができる。また、ルールを工夫したり、作戦を立案したりする活動を通して、児童が自己の考えを仲間に伝え合い、相互に受け止め合う場をつくることができる。これにより、技能の習得にとどまらず、思考力・判断力・表現力を総合的に育成することが可能となる。

さらに、勝敗だけを目的とするのではなく、フェアプレーの精神や仲間を尊重する態度を培うことを重視する点に本教材の価値がある。用具や場の安全に配慮しながら活動することを通して、体力の向上のみならず、社会性や協調性を養い、学級全体としての連帯感を高める効果が期待される。

以上より、ソフトバレーボールは、基礎的な運動技能の向上とともに、主体的・対話的で深い学びを実現できる教材であり、体育学習を通じた児童の総合的な成長を支えるにふさわしい教材であると捉える。

② 児童観

本学級の児童は、概して体を動かすことに肯定的であり、体育学習に対して意欲的に取り組む姿が多く見られる。特に、仲間と協力して活動する場面においては積極性が高まり、ゲームを通して仲間とのつながりを実感できる傾向がある。一方で、個人差も大きく、運動技能の習熟度や体力面にばらつきがみられることから、学習場面における自己肯定感や達成感の獲得には差異が生じやすい。

ソフトバレーボールの学習においては、ラリーが続くことや得点につながるプレーができることが児童の学習意欲を高める大きな要因となる。しかし、ボール操作に苦手意識をもつ児童は、ラリーに参加できずに疎外感を感じる場面も予想される。このため、ルールや用具の工夫、基礎的技能の段階的な習得を保障していきたい。

また、仲間との対話や作戦会議を通して学ぶことに高い関心を示す児童が多く、協同的に学ぶ場を設けることで学習への集中力や主体性が高まることが期待される。その一方で、自己の意見を十分に表現できない児童や、仲間の意見を受け入れることに不慣れた児童も存在するため、互いに認め合い支え合う学習環境づくりを目指したい。

さらに、勝敗へのこだわりが強い児童もいるが、その気持ちを単なる競争心に終わらせず、協調的な学びやフェアプレーの精神へとつなげていくことが課題である。教師の支援や集団での学びの場を通して、児童が互いに認め合いながら挑戦を重ね、運動への肯定感を一層高めていくことを期待したい。

③ 指導観

本単元における指導は、まず児童がソフトバレーボールに親しみをもち、円陣パスやラリーゲームを通して、基本的なボール操作を楽しく習得することから始まる。その後、試合形式のゲームや作戦タイムを取り入れることで、児童同士が対話しながら実践的な連携プレーや戦術を考える時間を確保する。ルールについては、学級の実態に応じて柔軟に工夫し、キャッチの導入などを行うことで、技能差に関わらず全員が安心して参加できる環境を保障する。

本授業は、児童が互いに聴き合い、学び合う対話的なコミュニティの形成を目指すものである。その中で、児童一人ひとりの学ぶ権利を尊重し、主体的に運動へ取り組む態度の育成を図るとともに、仲間と協力し合う喜びを味わうことを重視する。教師は児童の発言やプレーを積極的に認め、励まし合う温かな雰囲気をつくり出すことで、児童が安心して挑戦でき、自己の成長を実感できるよう支援する。

さらに、児童が自らの考えを出発点として、ゲームの中で戦術や連携を探究する過程を大切にす。特に、作戦タイムでは意見交換を通じて「人がいないところにボールをねらう」といった課題意識を引き出し、学習の質を高める工夫を行う。このような協同的な学びは、学級全体に「聴き合う関係」を育み、児童の深い理解や主体的な学びの促進につながることを期待する。

以上のように、本授業は単なる技能習得にとどまらず、対話と協同を通して全員が楽しみながら成長できる学習環境を実現することを指導観の中心とする。

④ 指導の工夫

●授業の構成

1時間を「ウォーミングアップ」→「コツをつかむ場」→「挑戦の場」に分ける。

- ウォーミングアップ … 基本動作や遊び的要素を取り入れ、全員が楽しんで活動できる雰囲気をつくる。
- コツをつかむ場 … 少人数グループで観察・助言し合いながら、パスやサーブの基本を練習する。ICTで模範映像を確認し、自分の課題に気づく場を保障する。
- 挑戦の場 … 個々の習熟度に応じたチーム編成で、ラリーの継続や得点を目指した試合を行う。

●アタックを中心に据えた学習を組み、児童の主体性を高めるための仕掛け

- 自分で発見した「コツ」をホワイトボードや端末に書き出し、仲間と共有する。
- 技術面だけでなく「支える役割」（応援・アドバイス・作戦提案）を位置づけることで、多様な学びの機会を保障する。



- 学習カードやアンケートを活用し、単元を通して自らの成長や変容を自覚できるようにする。

●期待される効果

- 個々の技能差に応じた挑戦が可能になり、充実感や達成感を味わう児童が増える。
- 仲間と協力し、支え合う経験を通じて、体育授業への肯定感が高まる。
- 登校に不安を抱える児童や体育に苦手意識を持つ児童にとっても、集団に参加する意欲を高める契機となる。

IV 研究結果と考察

1 研究結果

本単元を通して、児童はソフトバレーボールの基本的な技能を習得する中で、特にアタックによる得点の達成感を強く味わう姿が見られた。作戦タイムでは、「どの位置から攻めるか」「誰にトスを上げるか」などを仲間と話し合い、アタックで得点することを目標に協力する様子が多く見られた。

試合中には、トスをつなげてアタックにつなげる流れを意識し、仲間の動きを考えながらプレーする姿が増えた。その結果、単なるラリーの継続よりも「仲間と連携して決める一打」に大きな喜びを見出す児童が多かった。

一方で、アタックを苦手とする児童は得点機会に直接関わりにくく、消極的になる場面もあった。しかし、役割を工夫して「トスで仲間を支える」「サーブで流れをつくる」といった関わりを認めることで、全員が作戦に参加できる雰囲気広がった。

2 考察

本研究を通して、アタックを中心に据えた学習は、児童にとって「仲間と協力して点を取る楽しさ」を実感できる有効な手立てであることが明らかとなった。特に、作戦会議を取り入れることで、児童は「誰にトスを上げるか」「どの位置をねらうか」といった戦術的な視点を持ち、主体的・対話的に学ぶ姿が見られた。



また、アタックの成功は仲間のトスやレシーブに支えられて成り立つものであり、その過程で「仲間を信頼する」「役割を果たす」という協同的な学びが自然に促された点は大きな成果である。さらに、ラリーを通してボールをつなぎ続ける楽しさも児童にとって重要な要素であり、「つながった先にアタックで得点する」という一連の流れが、より大きな喜びと連帯感・達成感を生み出すことにつながった。

一方で、アタックを苦手とする児童が成功体験を得にくい課題も見られた。今後は多様な攻撃方法（フェイント・軽打など）や役割を設定し、誰もが作戦に貢献できる場を工夫することが必要である。

したがって、今後の授業づくりにおいては、アタックを核に据えつつ、ラリーをつなぐ過程そのものの楽しさや意味を位置付けることで、全員が協同の中で達成感を味わえる学習環境を実現していくことが重要であると考えます。

仲間と共に学び合い、主体的に活動する児童の育成

——マット運動における関わり合う場の設定の工夫を通して(第5学年)——

那覇地区小学校体育研究会

那覇市立天妃小学校 教諭 宮平 一希

I テーマ設定の理由

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編』(以下、『解説体育編』)では、「学びに向かう力、人間性等」を育成する目標として「運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。」としていて、「運動に親しむとは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わうとともに、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、仲間の考えや取組を認める、安全に留意するなどの態度を育むこと」と示した。このことから仲間と共に学び合い、主体的に活動する児童の育成が重要であると考えた。

本研究会では目指す児童像を「仲間と運動に親しみ、自分の課題に気付いて進んで運動する児童」として研究を進めてきた。私のこれまでの授業実践では、基本的な動きづくりの練習の場の工夫や、ICTを活用して技のポイントやコツを共有することで知識及び技能を高め、思考力、判断力、表現力等を育めるように指導してきた。子ども達は「技ができるようになること」や「より高度な技に挑戦すること」を目標にして学習に取り組むことが多かった。そのため、体力や技能の差や男女差によって、うまくできない子やできる技が少ない子は授業の振り返り等において自己評価が低いことが多く、体育を楽しむことができない様子がみられた。このことから、子どもたちが運動やスポーツには多様な楽しみ方があるということを知り、自分のよさを生かして役割を果たし、互いに協力したり仲間の考えや取組を認めたりして体育の授業に取り組むことが必要だと考えた。

そこで、本研究ではマット運動において、仲間とコースを設計・攻略する場を設定することによって、技能差がある児童同士でも楽しく主体的に活動することがきるであろうと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

マット運動で、仲間とコースを設計・攻略する場を設定することによって、技能差がある児童同士でも楽しく主体的に活動することがきるであろう。

II 研究内容

1 関わり合う場の設定の工夫について

『解説体育編』では改訂の要点の一つとして「運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ること。その際、共生の視点を重視して改善を図ること。」を示している。改善の具体的事項としては「全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する。」と示されている。

本研究においては、技ができるようになることや技のできばえをよくすることに加えて仲間と共に学び合って楽しむことも重視して活動していきたい。

仲間と共に学び合うために、3つの関わり合う場の設定を工夫した。

(1) 仲間と関わり合ってコースを設計する場

仲間と関わり合ってコースを考えることで攻略のための知識及び技能を高める楽しさ、どんなコースにしたら楽しいか思考・判断・表現する楽しさ、作ったコースを自分で攻略したい、友だちにやってほしいと思う学びに向かう楽しさを味わわせる。



(2) 仲間と関わり合ってコースを攻略する場

自分たちが作ったコースを、自分ができる技を選んで攻略する場である。その際、仲間に補助してもらったり、技のポイントを確かめ合い、コツを共有したりして関わり合う。また、他チームのコースを攻略する際はお手本動画を見て攻略方法を話し合うことで活動を楽しむ。



(3) 仲間と関わり合って活動を振り返る場

友だちの動きを見て「すごい」「どうやってできたの?」「こうやってみたら?」等、認め合ったりアドバ



イスし合ったりしてお互いの活動を振り返る場や、他チームのコースを攻略することでそのおもしろさを味わったり、自分たちの次のコース設計に取り入れようと考えたりする場を設定する。

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 マット運動 みんなで楽しもう5C マット

2 単元の目標

- (1) 回転系や技巧系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。(知識及び技能)
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編』(以下、『解説体育編』)において「器械運動系は、「回転」、「支持」、「懸垂」等の運動で構成され、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。」と述べられている。

また、「器械運動は、「できる」、「できない」がはっきりした運動であることから、全ての児童が技を身に付ける楽しさや喜びを味わうことができるよう、自己やグループの課題を見つけ、その課題の解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることができるようにすることが大切である。」と述べられており、器械運動が得意な子も苦手な子も自分ができる技を身に付け、一人一人が楽しみ方を見出していけるようにしていきたい。

技の分類としては回転系(接転技群:前転・後転グループ技、ほん転技群:倒立回転・はね起きグループ技)と巧技系(平均立ち技群:倒立グループ技)があるが、子ども達の実態に応じて「回転系」と「倒立系」の2つに分類して取り扱うことにする。

回転系	前転, 開脚前転, 跳び前転, 後転, 開脚後転, 伸膝後転
倒立系	壁倒立, 倒立, 倒立前転, 側方倒立回転, 倒立ブリッジ, ロンダート, 頭はね起き

本単元における技の分類

(2) 児童観

事前アンケートの結果より、マット運動を楽しむことができている子どもは25人、苦手意識があり楽しむことができていなかった子どもは5人であった。

「マット運動の学習で楽しいと感じるのはどんな時ですか。」という問いに対して、「新しい技ができるようになったとき」「今までできていた技を美しくできるようになった時」という答えが多く、子ども達は技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことができているといえる。

また「友達と練習しているとき」という答えも多く、子ども達はマット運動を友達と関わりながら楽しむことができていることがわかる。

本学級には体操教室に通い、競技大会に出場する子から、マット運動の経験が少ない子まで多様な子ども達がいる。技能や経験の差がある集団でそれぞれが関わり合いながら一つのコースを作り、攻略することを通してさらにマット運動を楽しむことができるようにしたい。

(3) 指導観

『解説体育編』において高学年の器械運動は、技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動であると述べられており、運動を楽しく行うために、自己やグループの課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることなどをできるようにすることが大切であるとしている。そこで本単元の指導において子ども達が以下の様々な視点からマット運動を楽しむことができるように指導していきたい。

① 技ができる楽しさ

回転系、倒立系の技の習得のために感覚づくり運動(サーキット)を行い回転や倒立、支持、着地などの技の基本的な動きを練習させる。また、子ども達に技のポイントを意識した練習に取り組ませることで、今までできなかった技ができるようになったり、できる技がさらに美しくできるようになったりして技ができる楽しさを味わわせたい。

② 技についてわかる楽しさ

技のポイントについて掲示物や動画等で確認し、全体で共有していく。技のポイントがわかるから、できるようになったり、技はできなくても友だちにポイントについてアドバイスできるようになったりして楽しむことができるであろう。

③ 人と関わる楽しさ

練習やコース設計を通して友だちと話したり考えたりする楽しさや、友だちの動きを見て「すごい」「どうやってできたの?」「こうやってみたら?」等、お互いを認め合ったり、アドバイスし合ったりしてマット運動を通して人と関わる楽しさを味わわせたい。

④ コースを考える楽しさ

コースを考えることでコース攻略のための知識及び技能を高める楽しさ、どんなコースにしたら楽しいか思考・判断・表現する楽しさ、作ったコースを自分で攻略したい、友だちにやってほしいと思う学びに向かう楽しさを味わわせたい。

コース設計の場において、「どうやったら技ができるか」だけでなく「どうやったら楽しくなるか」を意識させて考えさせたい。もっと楽しくコースを攻略するために技ができるといい、技ができるためには技のポイントを意識するといいという思考で子どもたちが活動できるよう促していきたい。

なお、本単元名の「5C マット」とは、学年の合言葉5つの C から名付け、学習に臨む際の子ども達の姿勢を表している。

5つのC	Chance(チャンスを逃がすな) Choice(チョイス自己決定せよ) Chase(チェイス夢を追いかける) Change(チェンジ自分を切り拓け) Challenge(チャレンジまずはやってみよう)
------	---

5年生の合言葉「5C」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① マット運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方や技のポイントを理解している。 ② 回転系や技巧系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりしている。	① 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫してコースを考えて楽しんでいる。 ② 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	① 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしている。 ② 仲間の考えや取り組みを認めている。 ③ 場や器械・器具の安全に気を配っている。

5 単元の指導と評価の計画(8時間)

時	ねらい(◎)・学習活動(■)	評価規準 (評価方法)		
		指導に生かす評価(・)	記録に残す評価(○)	主体的に学習に取り組む態度
1	◎マット運動の進め方を知り、感覚づくり運動に取り組もう ■オリエンテーション ■感覚づくり運動(サーキット)をやってみる	・知①(行動観察)		
2	◎回転技とそのポイントを確認よう ■回転技のできる技や、できそうな技に取り組む	○知①②(行動観察、ワークシート)		
3	◎できそうな回転技に挑戦し、回転技コースを作ってみよう ■回転技のできそうな技に挑戦する ■回転技1つのコースを作ってみる			・態①②③(行動観察)
4	◎倒立技とそのポイントを確認よう ■倒立技のできる技や、できそうな技に取り組む	・知①②(行動観察、ワークシート)		
5	◎できそうな倒立技に挑戦し、倒立技コースを作ってみよう ■倒立技のできそうな技に挑戦する ■倒立技1つのコースを作ってみる		○思①②(行動観察、ワークシート)	
6 本時	◎自分の力に合った技でコース攻略を工夫しよう ■グループでコースを考える ■他のグループのコースを攻略する		○思①②(行動観察、ワークシート)	
7	◎チャレンジして、コース攻略を楽しもう ■グループでコースを考える ■他のグループのコースを攻略する		・思①②(行動観察、ワークシート)	
8				○態①②(行動観察、ワークシート)

6 本時の学習【6/8時間】

(1) 目標

仲間とコースを設計・攻略することで、自分に適した課題解決の仕方や、技の組み合わせ方を工夫することができる。

(2) 授業の工夫・手立て

仲間とコースを設計・攻略する場において、自分ができる技やチャレンジしたい技を組み合わせるこ

とにより、技能差がある児童同士でも同じ場で楽しくマット運動に取り組むことができるであろう。

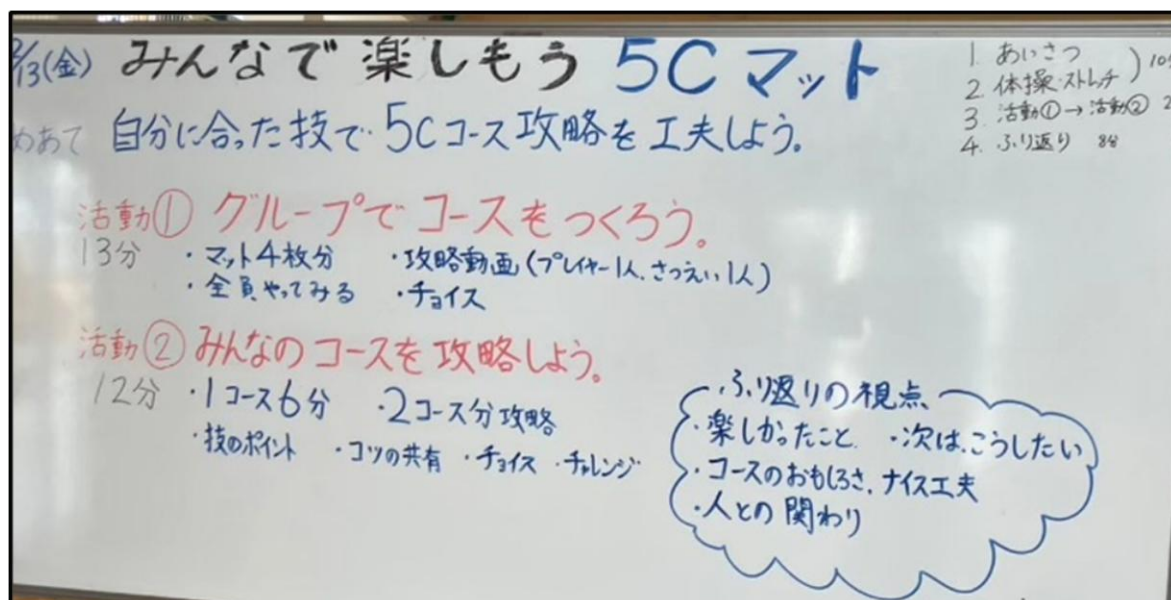
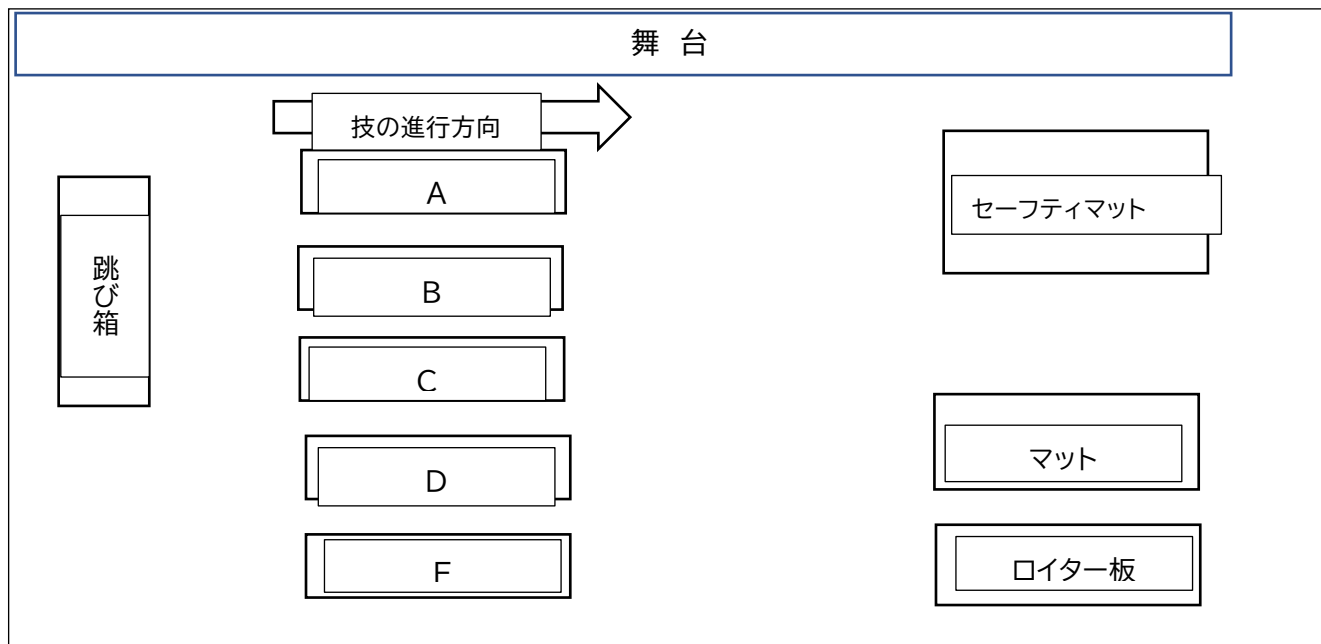
(3) 展開

過程	学習活動	・指導上の留意点　○発問	評価規準
導入 (10) 分	1　導入 ・整列、あいさつ ・準備運動	・手首、肩、首を中心にストレッチする。	
	2　めあて・見通し		
	自分の力に合った技で、5C コース攻略を工夫しよう。		
展開 (30) 分	3　グループでコースを考えよう ・1つのコースにつき、3つの技を使うようにする ・コースができたら攻略のお手本動画を撮影する	・掲示物やロイロノートを活用してコースを設計する ・自分ができる技を選んでよいこととする。 （例：側方倒立回転 or かえる足うち） ○「スピード勝負ではなく、コースを楽しむためにマット運動の技を使うんだよ。」 ・サーキットの道具を使ってもよい 【「努力を要する」状況と判断される児童（生徒）への支援】 ・掲示物やロイロノート、サーキット等から自分ができそうな技を選ぶよう促す。	仲間とコースを設計・攻略する場において自分に適した課題解決の仕方や、技の組み合わせ方を工夫して活動を楽しんでいる。（思考・判断・表現）
	4　みんなのグループのコースを楽しもう ・他のチームのコースのお手本動画を参考に攻略する		
終末 (5) 分	5　振り返り ・振り返りの視点	楽しかったこと、次はこうしたい、コースのナイスな工夫、意識したポイント等	

(4) 「概ね満足できる」状況の具体例

概ね満足できる状況 (B)	児童の学習状況	具体的な姿や記述例
仲間とコースを設計・攻略する場において自分に適した課題解決の仕方や、技の組み合わせ方を工夫して活動している。	仲間とコースを設計・攻略する場において自分に適した課題解決の仕方や、技の組み合わせ方を工夫して活動している。	仲間とコースを設計する場において、進んで発言したり、コースの場の設定を行ったりしている。 コースを攻略する場において、自分に適した技を使って攻略しようとしている。

(5) 場の設定



IV 研究の成果と課題

1 成果

- 自分のできる技や挑戦したい技を用いたコース作りに取り組んだことですべての子どもたちが主体的活動に取り組むことができた。
- 子どもたちは、掲示物や ICT を活用したりチーム内でコース攻略方法を見せ合ったりしたことで、自分に適した課題解決の仕方や技の組み合わせ方を考えることができた。
- 他チームのコースを攻略する場面で、仲間と関わりながら攻略方法を考えたり、他チームのコースのおもしろさを味わったりして仲間の取り組みや考えを認め合うことができた。

2 課題

- グループで活動したことで仲間と関わりながら活動できていたが、児童一人一人の活動量の差が見られた。一単位時間の中でマット運動を行う時間や機会の確保があるとよい。
- 一つのコースにつき3つの技を使うことにはなっているが、同じ技を3回繰り返すしかない児童もいた。楽しむことを大切にしているが、技能面が向上するともっと楽しめるのではないかな。
- 評価において、どの児童の姿が A 評価でどの児童の姿が B 評価なのか、より具体的に示すとよい。

<引用・参考文献>

- 小溝拓 2024『動画でわかる！運動嫌いがゼロになる！子供が考えて楽しむ体育ゲーム』学陽書房
- 梅澤秋久・苫野一徳 2020『真正の「共生体育」を作る』大修館書店
- 森田啓 2020「「ありのまま」を肯定できる体育への転換」『体育科学研究 2020 年 4 月号』大修館書店
- 文部科学省 2018『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説体育編』東洋館出版
- 松本格之祐・齋藤直人 2017『〈小学校体育〉写真でわかる運動と指導のポイント マット』大修館書店

健康課題の解決に向けて主体的に取り組む多良間っ子の育成 ～実生活に生かすための指導の工夫を通して～

多良間村立多良間小学校 名嘉真 静香
共同研究 宮古地区小学校体育研究会

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説体育編において、「健康に関する指導については、児童が身近な生活における健康に関する知識を身につけることや、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが大切である。」と示されている。

しかし近年、情報化の進展により、様々な健康情報や性・薬物等に関する情報入手が容易になるなど、子供たちを取り巻く環境が大きく変化している中、子供たちが、健康情報や性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにすることが喫緊の課題となっている。

本校の児童の様子を見てみると、健康の大切さへの認識や健康・安全に関する知識の習得の成果が見られる一方で、学んだことを実生活に生かすことに課題が見られる児童もいる。

このような実態から子供たちが、様々な健康課題において、主体的に必要な情報を発見・収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、実生活に生かすことができる資質・能力を育成したいと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

様々な生活場面において、学んだことを実生活に生かすことができるようにするために、単元を通した問いの設定やアンケートの活用などの指導の工夫を行うことによって、健康課題解決に向けて主体的に取り組む児童を育成することができるであろう。

III 研究内容と指導の実際

1 単元名 「けんこうな生活でかっこいい3年生に！」(G:保健 ア:健康な生活)

単元を通した問い 「けんこうに過ごすために大切な事は何かな？」

2 単元の目標 (保健体育科において育成を目指す資質・能力)

- (1) 健康な状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること、健康の保持増進には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることや体の清潔を保つようにすること、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることについて理解することができるようにする。(知識)
- (2) 健康な生活に関わる事象から課題を見付け、解決の方法を考え、それを伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 健康な生活について、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

本単元は、学習指導要領の「G保健(1)健康な生活」に基づいて設定したものである。子どもが自ら主体的に健康によい生活を送るための基盤として、健康の大切さを認識し、健康によい生活の仕方を理解できるようにするとともに、健康な生活に関する課題を見付け、よりよい解決に

向けて考え、それを表現できるようにすることを目的としている。

本単元では、全4時間の中で、「健康についての主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていることを理解すること」、また「運動や食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の重要性」、
「体や衣服を清潔に保つこと」「照明や換気など生活環境を整えること」等の学習を行う。3年生にとって初めての保健学習となることから、健康に関する知識を学ぶだけでなく、習得した知識を活用して、自分の生活を見直す学習を行うことにより、主体的に健康によい生活を送ろうとする態度を育てたい。

4 児童の実態

本学級の児童は、とても活発で昼休みは男女一緒に体育館や運動場で元気いっぱい遊ぶ姿が見られる。体を動かすことが健康だと思っている子もいるが、実際には夜更かしをしたり手洗いを怠ってしまったりしている現状がある。早起きが苦手な児童が多く、朝の登校がとてもゆっくりであることも課題として挙げられる。そこで児童の生活習慣が、健康につながっていることを理解しているのか調べるために、本単元の内容に関するアンケートを行った。

〈アンケートの集計結果〉(10名)

◎. 当てはまる ○. どちらかといえば当てはまる △. どちらかといえば当てはまらない
×. 当てはまらない

アンケートⅠ(健康について)

1	「健康な生活」って どういうことかな？	・ご飯をいっぱい食べること ・よく遊んで走る ・早寝、早起きをしている ・体を動かす ・好き嫌いをしない ・栄養のあるご飯を食べる ・歯みがきや手洗いをする
---	------------------------	--

アンケートⅡ(運動、食事、睡眠・休養について)

	質問項目	◎	○	△	×
1	朝は6時半までに起きられる。	1	4	3	2
	1の理由 ○早起きをしたら元気いっぱい動ける ●寝るのが遅い ●起こされることが多い ●遅くまでテレビを見たりゲームをしたりしている ●夜中まで起きていることが多い				
2	朝ご飯を毎日きちんと食べている。	7	3	0	0
	2の理由 ○お腹がすくから必ず食べる ○元気を出すために食べる ○ご飯がおいしい ●食欲がない ●そのまま学校に行くこともある				
3	好き嫌いをせずに食事をすることができる。	5	1	3	1
4	集中して学習に取り組むことができる。	4	6	0	0
5	体育の授業以外で運動をしている。	4	3	2	1
6	夜は9時半までに寝ている。	3	2	2	3
	6の理由 ○夜更かししたら朝起きられなくなる ○授業中に眠くなる ●ゲームやテレビの時間が長い ●中々眠くならない ●ゲームに夢中になっている				

アンケートⅢ(体や衣服の清潔について)

	質問項目	◎	○	△	×
1	外から戻ったら、必ず手を洗っている。	7	2	1	0
2	洗った手をハンカチやタオルでふいている。	3	5	2	0
3	外から戻ったらうがいをしている。	3	2	2	3
4	汗をかいたら着替えをしている。	1	4	2	2
5	毎日洋服や下着を取り替えている。	6	1	1	2
6	毎日お風呂に入って体をきれいに洗っている。	9	1	0	0
7	ご飯の後は歯を磨いている。	8	2	0	0
8	手や足の爪が伸びたらすぐ切っている。	5	3	2	0

アンケートⅣ(生活環境について)

	質問項目	◎	○	△	×
1	部屋の空気の入換えをしている。	3	5	1	1
	1の空気を入れ換えないとどうなりそう？ ・空気が汚れる ・体に悪い ・悪い菌がうつる ・家中がカビだらけになる ・くさい				
2	部屋の明るさを考えてゲームや読書をしている。	5	5	0	0
	2の暗い部屋でゲームや読書をしたらどうなりそう？ ・目が悪くなって眼鏡をかけることになる ・起きられなくなる ・夜更かしをしてしまう				

〈アンケート結果の分析〉

アンケートⅠ(健康について)

どんな行動が健康な生活と言えるのか、ほとんどの児童がイメージできていることが分かった。しかし、分かっているでも全てを行動に移している児童は少ないのが現状である。本単元を通して、少しでも自分の生活に生かせるような事を見つけ、実践できるようにしていきたい。

アンケートⅡ(運動、食事、睡眠・休養について)

10名全員が朝ご飯をきちんと食べているが、朝は食欲があまりない、たまに食べずに登校することもあると答えている児童が2名いた。また、ゲームをしたりテレビを観たりしている時間が長く、夢中になって遅くまで起きていることが当たり前になっている児童がおり、5名が夜更かしをして寝る時間が遅く、4名が早起きが苦手だと答えている。他に体育の授業以外で運動をする機会がない児童もおり、中々眠くならずに遅くまで起きているなど、特に早寝・早起きに課題が見られる児童が多い。このことから、運動、食事、休養及び睡眠の生活リズムを整えることが大切であり、健康な生活につながることを実感させる必要があると考える。

アンケートⅢ(体や衣服の清潔について)

「外から戻ったら必ず手を洗っている」の項目に、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した児童が9名いた。しかし、朝の清掃後や体育の授業後、給食前には手洗いをするよう促している中で、中には声をかけなければ自ら進んで洗わない児童もいるのが現状である。また、体育の後に「汗をかいても着替えをしない」児童が4名いることから、細菌やウイルスの除去は手洗いだけではないことを理解させる必要がある。

アンケートⅣ(生活環境について)

生活の環境についての質問については、2項目ともに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童がほとんどであった。また、それぞれの質問に関連した記述では、「空気の入れ換えをしないと空気が汚れたり悪い菌がうつったりする」、「暗い部屋で過ごすと目が悪くなり眼鏡をかけることになる」、「暗いところでゲームをすると夢中になって夜更かしをすることにつながる」などと答えた児童もあり、身の周りの環境を整えることが大切であることを理解している児童が多いことが分かった。

しかし、登校後に窓を開けなかったり、移動教室から戻ってきた後は教室が暗いまま読書をしたり、電気をつけずに授業を始めたりしようとすることもあり、理解はしているが行動にうつさないことがあるのが現状として見られる。この結果から、空気の入れ換え、部屋の明るさも健康な生活に欠かせない大事な要素であることを改めて理解させるとともに、実生活と結び付けて考え、実践に繋げられるようにしたい。

5 指導にあたって

本単元は、「G保健(1)健康な生活」の目標は、学習指導要領において「ア 健康な生活について理解すること」「イ 健康な生活について課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること」と設定されている。

その目標をもとに作成したアンケートの結果から、望ましい生活習慣は理解しているものの、実生活との結びつきが弱いと感じた。そこで本単元では、自分自身について気付いた課題と、学習した知識を関連させ、実生活に生かせる学習となるよう、以下に示した手立てを行う。

(1) 「単元を通した問い」の設定

児童が健康課題をより自分事として捉え意欲的に学習に取り組んでいくために「けんこうにすごすために大切な事は何かな？」の問いを設定する。

(2) アンケートの活用

- ① 事前アンケート⇒自分自身の課題に気付かせる。
- ② 事後アンケート⇒自分の変容に気づき、今後の生活に生かせるようにする。

(3) 「単元のゴール」の設定

本単元で学んだり考えたりしたことをもとに、健康に過ごすことの大切さやすぐに実践できることがあることを多良間っ子全校児童に知ってもらおう機会を設ける。

以上の手立てを通して、「健康課題解決に向けて主体的に取り組む多良間っ子の育成」に迫っていくとともに、多良間っ子全校児童が意識して健康な生活を送り、元気いっぱいな学校生活が送れるように、本学級から発信していく。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 心身の健康な状態には、主体の要因や環境の要因が関わっていることを知っている。 ② 毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることを言ったり書いたりしている。 ③ 毎日を健康に過ごすには、体や衣服を清潔に保つことが必要であることを言ったり書いたりしている。 ④ 毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることが必要であることを言ったり書いたりしている。	① 自らの一日の生活の仕方や、体や衣服の清潔、生活環境から、健康に関する課題を見つけている。 ② 見つけた課題の解決に向けて、自分の考えをまとめ伝え合っている。	① 進んで学習に取り組もうとしている。 ② 友だちの考えを認めようとしている。

7 単元計画（指導と評価の計画）〔4時間〕

	○ねらい ・主な学習内容、学習活動	知	思	主	評価方法
1	○健康とは何かについて知る。 ○健康な状態であるためには、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていることを理解できるようにする。 ・健康だと感じるとき、健康にはどんなことが関係しているのか考える。 ・健康であるためにはどうしたらよいか、考えを伝え合う。	①	①		ワークシート 発表、観察
2	○毎日を健康で過ごすためには、運動、食事、休養・睡眠の調和のとれた生活を継続することが必要であることを理解できるようにする。 ○見つけた課題の解決に向けて、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを認めたりしている。 ・グッドモデル、バッドモデルを比べ、生活の仕方に違いがあることを見つける。 ・バッドモデルの生活が健康になるためのアドバイスを考え、伝え合う。	②	②	②	ワークシート 発表、観察
3	○毎日を健康で過ごすためには、体の清潔や衣服の清潔を保つことなどが必要であることを理解できるようにする。 ・手の汚れを調べ、手に付いた菌が体に入る仕組みを知る。 ・下着や靴下を毎日取り替える理由を考え、伝え合う。 ・正しい手の洗い方を知り、実践する。	③		①	ワークシート 発表、観察
4	○毎日を健康で過ごすためには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることが必要であることを理解できるようにする。 ・教科書のイラストの問題点を見つけ、改善すべきことを考え伝え合う。	④			ワークシート 発表、観察

8 本時の学習【2/4】

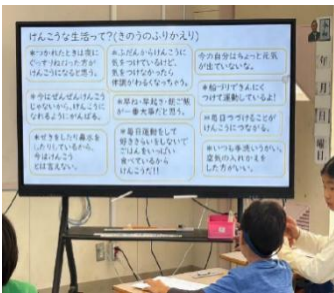


(1) 本時のねらい


- ① 毎日を健康で過ごすためには、運動、食事、休養・睡眠の調和のとれた生活を継続することが必要であることを理解できるようにする。
- ② 見つけた課題の解決に向けて、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを認めたりしている。

(2) 授業仮説

- ① 振り返りの活動（アンケートの活用）において、本時で学んだことをもとに理由を明確にして考える事で、毎日を健康に過ごせるように自分自身にアドバイスをすることができるであろう。
- ② 健康に生活するためのアドバイスをする活動において、教科書に出てくるグッドモデル（校長先生）とバッドモデル（担任）を理由付けて比較、検討させることで、課題解決に向けた考えをまとめ、伝え合うことができるであろう。

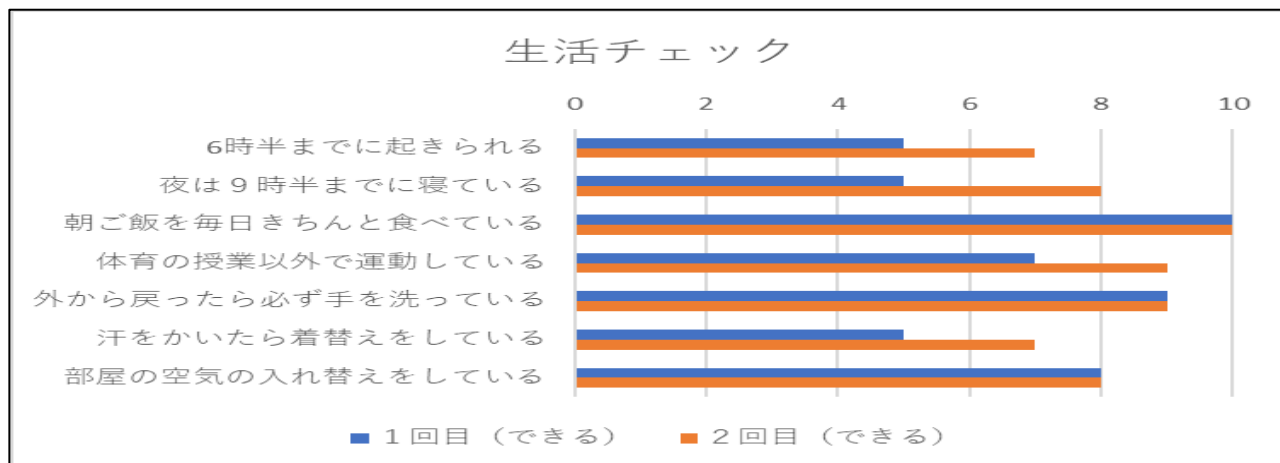
(3) 展開

	学習活動	◇発問 ☆児童の反応	・指導上の留意点 □評価
導入 5分	1 写真の様子を見て、前日の生活の仕方が影響していることを考える。	◇ どんな様子かな？ ☆眠そう ☆全然元気がない ☆朝の自分みたい ☆やる気が無い ◇ なぜそんな状態になっているのか？ ☆遅くまで起きていたかも ☆朝ご飯を食べていないはずだ	
	めあて：一日を元気に生活するためには、何が大切かな？		
展開 ① 7分	2 2人の生活の仕方を比べる。 (ペア交流) 	◇ 静香先生は何で元気がないんだろう？ ☆朝ご飯を食べていないな ☆ゲームで夜更かしをしている ☆だめなところがいっぱいあるよ ◇ 校長先生が元気なのはなぜだろう？ ☆朝は決まった時間に起きられているよ ☆ぐっすり眠れているな ☆勉強に集中できていてすごい	・ 黒板に2人の生活リズムのイラストを貼っておく。 
	3 自分の生活を振り返る。	◇ 自分の生活はどうか？ ☆全然運動していない ☆好き嫌が多い ☆遅くまで起きてゲームしているよ ☆遊んでから宿題をしているから、遅くまで起きているな ☆早起きが苦手で全然起きられないよ	・ 事前のアンケート結果を電子黒板で共有し、振り返らせる。

<p>展開②</p> <p>23分</p>	<p>4 静香先生が元気になる生活の仕方を考える。 (全体交流→全体共有)</p>	<p>◇ 静香先生はどこを直したら元気になるかな？アドバイスをしあおう！</p> <p>☆朝ご飯は食べないと元気が出ないよ</p> <p>☆運動した方が早く眠れるよ</p> <p>☆ゲームの時間を決めて早く寝た方が朝も起きられるよ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前のアンケート結果を電子黒板で共有し、振り返らせる。 ・ 得た知識をもとに理由を添えてアドバイスできるようにウェビングマップにまとめさせる。 <p>□ 見つけた課題の解決に向けて、考えをまとめ伝え合うことができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】 (ワークシート、発表、観察)</p> <p>□ 毎日を健康で過ごすためには、運動、食事、休養・睡眠の調和のとれた生活を継続することが必要であることを理解できた</p> <p>【知】 (ワークシート、発表、観察)</p>
<p>まとめ</p> <p>10分</p>	<p>6 授業の振り返りをする。 (ペア→全体共有)</p>	<p>◇ 自分にアドバイスをしあおう！</p> <p>☆ゲームの時間が決まっていなから、ちゃんと決めて早く寝ようね！</p> <p>☆好き嫌いをしているから、3口は頑張って食べてみてね！</p> <p>☆少しは運動する時間も作ってみよう！</p>	<p>・ 生活リズムを整えることを意識させるために、アンケートの結果を見ながら自分自身にアドバイスをさせる。</p> <p>□ 友だちの考えを認めようとしている。</p> <p>【主】 (発表、ワークシート)</p>

IV 研究の成果と課題

1 アンケートの結果と児童の変容



- ・ 「早寝早起きができる」と答えた児童が増えた。
- ・ 着替えやタオルを準備し、汗をかいたら着替えたり手を洗ったらタオルで拭いたりするようになった。
- ・ 児童が授業で使ったワークシート等を活用して、2学期の終業式場で「冬休みの過ごし方」について伝えることができた。

2 成果

- 事前・事後のアンケートを実施したことで、自身の変容に気付き、継続して健康課題の改善に取り組む姿が見られた。
- 単元の問いを設定した授業を行うことで、様々な生活場面で関連づけた取り組みができ、主体的に活動する児童が多く見られた。
- 単元のゴール(全体への周知)を設定したことで、児童の学ぶ意欲や多良間っ子全体の健康意識の向上に繋がった。
- 学校生活だけでなく、家庭生活においても健康課題解決に向けて主体的に取り組む様子が見られた。

3 課題

- 本単元を通して、健康課題解決に向けて主体的に取り組む児童が増えたが、変容が見られない児童の手立てが必要である。
- 継続的に家庭と連携して健康への意識を高める取組が必要である。

4 今後の取組

- (1) 話し合い活動を生かした、自己の生活課題を振り返る時間の充実。
(学級活動と関連させ、話し合い活動の中で学級のルールを設定や合言葉を決めて実践する)
- (2) 家庭との連携。(保護者と取り組める生活チェックシートの活用や学年だより等での周知)
- (3) 今後も実生活に生かすための、保健学習の継続研究。

《参考文献》

- ・ 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省
- ・ 小学校保健教育参考資料「改訂『生きる力』を育む「小学校保健教育の手引き」 文部科学省
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省国立教育政策研究所

作りたてのパンをあなたへ



マキシパン

業務用・各種卸小売・移動販売

代表者 真喜志 康建

〒905-0021 沖縄県名護市東江二丁目8番47号
電話(0980)52-2658

一般社団法人全国旅行業協会
ALL NIPPON TRAVEL AGENTS ASSOCIATION



正会員

沖縄県知事登録旅行業第 3-227 号

誠心誠意、人と地域づくりに貢献します。



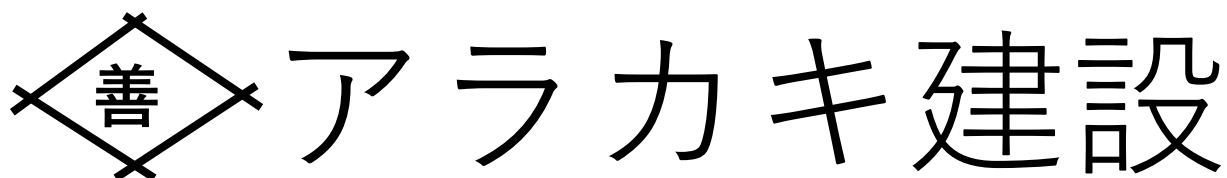
NAGO TOUR CENTER

有限会社 名護ツアーセンター

〒905-0011 沖縄県名護市宮里 453-6
TEL0980-53-7500/FAX0980-53-7509

祝第 46 回沖縄県学校体育研究発表大会（八重山大会）

総合建設業（般）第 5 3 0 6 号



二級建築士 一級建築施工管理技士
一級土木施工管理技士

代表者 新 垣 善 彦

事務所：〒901-1103 南風原町字与那覇 5 4 8 - 1

電 話：(098) 889-4427 FAX：(098)889-4438

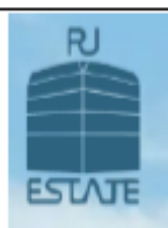
E-mail：arakakikensetsu@ybb.ne.jp



株式会社 アールジェイ

〒900-0016 沖縄県那覇市前島 3-27-22 アールジェイビル 2 F

TEL : 098-988-0844



株式会社 アールジェイエステート

〒900-0016 沖縄県那覇市前島 3-27-22 アールジェイビル 2 F

TEL : 098-988-0844

RJホテル那覇

株式会社 アールジェイワークス

ホテル事業 RJ ホテル那覇

〒900-0016 沖縄県那覇市前島 3-10-21 TEL:098-866-1011 FAX:098-866-1012



株式会社 セレブ

レンタカー事業 セレブレンタカー


〒900-0037 沖縄県那覇市山下町 1-11 TEL:098-859-3337 FAX:098-858-0456

スナック

語れ小～

お店の名前をタップすると、
「ゴリ★オキナワ」のお店の
動画が見られます

〒907-0023 沖縄県石垣市石垣264



魚 海鮮居酒屋 パヤオ 礁

■海鮮居酒屋 魚礁■
〒907-0014
沖縄県石垣市新栄町 10-5
〔TEL〕 0980-83-3744
〔FAX〕 0980-83-8434
通常営業時間
17:00-22:00
【定休日】月曜・火曜



初心者 歓迎 キックボクシング

お気軽にお問い合わせ下さい。080-6480-8958

南風原スポーツ店

代表者 仲里哲司

営業時間

平日 10:00 ～ 19:30

土曜 12:00 ～ 19:30

定休日 / 日曜日・祝日

南風原町字兼城134番地1F

TEL 098-889-0437



S P O R T S

～スポーツ、人との出会いを大切に～

ゼロスポーツ

大城 勝吾 oshiro shogo

TEL (098) 994-5085

FAX (098) 995-2572

TEL (090) 6863-0246 (大城)



KINGKONG

めんどくさいは、おもしろい

合同会社キングコング

代表社員 仲地 宗幸

〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目199-2F

TEL : 098-917-1221 FAX : 098-917-1222

MAIL : king.gorilla1221@gmail.com

本・雑誌・文具・印鑑・知育玩具

金武文化堂

〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武 533 番地

TEL・FAX 098-968-2130

SNS (Facebook・X・instagram)にて情報発信中

駄菓子屋のおきこや～

 **上間商事**

代表者 上間良光

〒905-0015 沖縄県名護市大南 2-1-36

TEL (0980) 52-2545 FAX (0980) 53-7303

学校教材用品・保育用品・文具事務用品


あかと

代表者 赤 嶺 俊 和

〒906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里1357-28

TEL (0980)73-4888

FAX (0980)73-4898

『旅』っていいね!! 

沖縄県知事登録旅行業 第2種418号



全国旅行業協会 正会員

トラベルコンシェルジュ
旅らぼ沖縄

株式会社 旅らぼ沖縄

〒904-0302

沖縄県読谷村字喜名2346-11

読谷村地域振興センター2階

TEL (098)958-4562

FAX (098)958-7570

E-mail tabilabookinawa@gmail.com

代表取締役

富山 勝則

Katsunori Toyama

総合旅行業務取扱管理者

携帯 090-9781-1158



 sanwa

株式会社 三和製作所

〒132-002 東京都江戸川区中央 4-11-8

tel.03-5607-7811(代) fax.03-5607-7812

<https://www.sanwa303.co.jp>

中学校《研究授業》

〔口 頭 発 表〕

所属	授業者	テーマ
那覇市立 小禄中学校	銘苺瑛子	自立した学習者の育成

高等学校《研究授業》

〔口 頭 発 表〕

所属	授業者	テーマ
県立八重山 商工高等学校	友利志朋子	「思考力・判断力・表現力」を育むための指導工夫 —ICT の活用を通して—

〈保健体育〉

「思考力・判断力・表現力」を育むための指導の工夫

— I C Tの活用を通して—

県立八重山商工高等学校教諭 教諭 友利 志朋子

I テーマ設定の理由

高等学校新学習指導要領(平成 30 年告示)解説にも謳われているように、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、進化した人口知能(AI)の活用やIoTの広がり、Society5.0と呼ばれる新たな時代の到来などにより、社会構造や雇用環境が急激に変化し、予測困難な時代となっている。

現代の子どもたちは、運動不足や生活習慣病のリスクが高まっている。そこで、運動習慣を形成するための効果的なプログラムを研究し、健康的な生活を送るための基礎を築くことが重要である。一昨年はオリンピックも開催され、チーム日本のメダルの数も過去最高となり、国内外で大いに賑わった記憶が新しい。スポーツが私たちに与える影響は、少なからずあると考える。私たちはスポーツを観戦することや、実際にスポーツに触れることを通じて、チームスポーツが、「他者と協力や協働すること」や「コミュニケーションの重要性」を学ぶことができる。このことにより、高等学校体育において、生徒たちは社会性を身に付け、他者との協力を通じ、目標を達成する力を養うことができるのではないかと考える。運動がメンタルヘルスに与える影響についての研究は、ストレス管理や精神的な健康維持に役立つことが示されている。特に、運動が如何にストレスを軽減し、ポジティブな精神状態を保つのに役立つかを探ることが重要である。特定のスポーツにおける技術向上のための効果的なトレーニング方法を研究することで、生徒たちがより高いパフォーマンスを発揮できるようになる。これにより、競技力の向上とともに、自己効力感も高まる。

高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)保健体育編体育編において教科の目標には、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とし、保健体育編体育編教科目標の(2)においては、「運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う」とされている。このことから、生徒たちに興味・関心を持たせ、学習に対する主体的な態度や学ぶに向かう力を養うことは、授業を行う際に心に留めておくべき大切な点である。体育の授業において、生徒一人一台端末が導入されて4年が経過するが、私自身前任校を含め、これまでICTを活用することができなかった。他の学習と同様に、体育の授業においてもICTを活用することで、生徒たちの学習意欲を効果的に高めることができると考えた。またICTの活用は、生徒同士が関わりあい、学び合うことで、自らをふり返り、目標達成に向けて自己調整していくことへの効果も大きい。昨年度本校に赴任し、昨年度は女子生徒の体育を担当する中、生徒たちの運動能力を新体力テストの結果を受けて、A段階と認定された生徒はわずか7名という結果であった。生徒たちの運動欲求は高いと感じる一方で、運動技能が十分に修得できていない生徒が多数を占めることから、体育の授業においてもICTを活用することで、運動技能・技純の向上に繋がるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

昨年度本校に赴任し、体育の授業において、女子生徒を担当している。多くの生徒は、身体を動かすことに対して意欲的である一方で、特に1・2年生の基礎的・基本的な運動技能を有している生徒は多くないと感じた。その背景には、コロナ禍で、多くの制限を受けてきた生徒が多く、体育の授業においては、種目など多くの制限を受けてきたのではと考える。また年度当初に実施した新体力テス

トの結果を受けA段階と認定された生徒は全女子のうち7名のみであった。また「本県の学校教育における指導の努力点」の中で、運動習慣の二極化傾向があることも要因の一つではないかと考える。生徒個々が体の動かし方を客観視するために、体育の授業でICTを活用し、生徒自身が自分の動作やフォームを「見える化」し、また他者に対しても道具の使い方、体の使い方において指摘できるようになり、その後の動きにおける変化が期待できるのではと考える。道具や体の使い方を生徒一人ひとりが可視化することにより、思考し、主体的に学習に取り組むことにより、運動技能の向上が期待でき、ゲームを楽しめるようになる。このことから運動・体育を苦手とする生徒においても、動きを「見える化」することにより、学習に対する思考力・判断力・表現力が向上し、主体的に体育の授業に取り組もうとする態度の育成に繋がると考えた。

Ⅲ 研究方法

- 1 研究対象は、2学年1・2組女子生徒 20名とする。
- 2 事前・事後アンケートを実施、分析を行う。
- 3 生徒の実態に合わせた、ICTを活用した授業、学習支援の方法を研究する。

Ⅳ 研究計画

期間	研究内容
5～7月	研究テーマの検討 生徒の実態把握のための生徒観察
9～12月	事前アンケートの実施及び分析 課題の検討、研究テーマの設定
12～1月	事後アンケートの実施及び分析、まとめと今後の課題の考察

Ⅴ 研究の実際

1 事前アンケートの実施

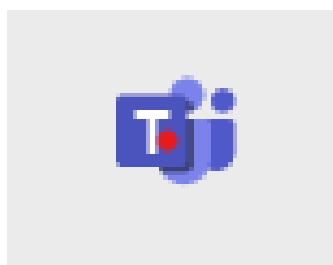
生徒に以下の事前アンケートを実施した。

- ① あなたの体育の授業への興味・関心はどれくらいあるか。
- ② あなたの運動欲求はどれくらいあるか。
- ③ これまでの体育の各種目で、必要な技能技術が身についているか。
- ④ 普段の授業の中で、ICTを活用しているか。
- ⑤ ICTを活用した際の満足度はどのくらいか。
- ⑥ 体育の授業の中で、考えて行動することができているか。
- ⑦ 体育の授業で、他者と協力して課題に取り組むことが多い。
- ⑧ これまで、体育の授業でこれまでICTを活用したことがある。
- ⑨ 体育の授業でICTを活用したいか。

上記のアンケートを行い、①の質問について、体育の授業への興味関心が非常に高い、やや高いと回答した人は、45%と半数に満たなかった。興味関心が低いと回答した生徒の中には、「運動能力がそこまでないので、興味が湧くことがない」や「身体能力が乏しいので、できた！って感覚が中々つかめなくてくじけがち」などがあげられた。③の質問の体育の授業において、必要な技能技術が身に付いているかについて、45%の生徒が、身に付いていない・どちらかというと身に付いてないと回答していた。④の質問のICTの活用状況については、週に数回の利用と

回答した生徒は17名（85％）とまだ学習の中の一部になっているとは言い切れないということが分かった。⑤のICTを活用した授業の満足度で、やや高いと回答した生徒は7名（35％）と全体から見ても、それほど高いという結果ではなかった。また、⑧のこれまで体育の授業でのICTの活用有無においては、3名（15％）の生徒のみが、「中学校の時に活用した」ととどまった。このことから体育の授業におけるICTの活用がほとんど浸透していないことが分かった。ICTを活用したという3名の生徒のうち、ICTを活用することによる効果について質問したところ、2名は「特になし」と回答している。⑨の体育の授業でICTを活用したいかという質問に対して、15名（75％）の生徒が「ICTを活用したくない」と回答した。その理由には「体育は体を動かすための授業だから」や「特に必要ない」、「あってもなくても変わらない」、「ボールなどが当たって、タブレットが壊れる危険性もある」、「インターネットの回線が遅くなって授業の進み具合が遅くなるから」、「荷物が増えるし、スマホが許可されるなら使用してもいい」など、かなり否定的な意見が散見された。

2 授業での取り組み



学習ツール（Microsoft Teams）でクラスを作成し、毎時間の授業において、ICT（タブレット等）を持参し、各種目における動作や動きの方法についてのQRコードを読み込み、動きを確認することや自分や他者の動きを動画で撮影し、動きを確認することで、自己分析したり、互いに学び合いながら進めていった。ゲーム中は、生徒で、審判等試合の進行を行うため、その際は、教師が生徒の動きを動画で撮影し、teamsに貼り付けておき、授業後など、いつでもどこでも見られるようにした。



ビデオ-20240913-003824-efc3c1a6.mp4

69 ...



ビデオ-20240913-003633-08684d8c.mp4

69 ...

3 仮説の検証

事後アンケートにおいて、体育の授業におけるICTの活用について、良かったと回答した生徒はわずか5名（25％）にとどまった。「いつでも自分の動きが確認できるのは良かった」や「今までなんとなくやっていたけど、見本があることで動かし方を意識するようになった」との回答が得られた一方で、あまり良くなかったと回答した生徒からは、「まだバドミントンだけだと効果が分からない」、「体を動かしたいから、動画を撮る時間がもったいない」、「必要性を感じない」という意見が多数あった。しかし、「特定の種目や苦手な種目の時には、動画で自分の動きを確認できるのはいいかもしれない」や「友達に教えるときに動画を見せて説明できるから、そういうのはいい」など今後に向けて前向きな意見もあった。

VI まとめと今後の課題

今回の研究を行う際に、小・中学校において、体育の授業にタブレットなどの端末を利用する機会はある、私自身もこの研究を進めるにあたって、インターネット等で色々な取り組みを探

しましたが、高等学校では、武道（空手道）や機械運動などに関してはあるが、球技の種目における体育での活用に関するデータ等はほとんどなく、不安なまま研究を進めてきたが、この程度となってしまった。私自身これまで、体育の授業での活用について、各授業のまとめや單元ごとのふり返しとなっていました。体育の授業においてもICTを活用していきたいと考えていたことから、少し取り組みができたという点は良かった。しかし今回の研究では、スタート時期が遅かったという一番の反省があげられる。今回の検証に至るまでに、一種目のみであったため、今後も継続し、生徒の学習効果が高められるよう継続し行っていきたい。

どの発達段階の生徒においても運動欲求には個人差や男女差があり、これはいつの時代も変わらないことと考えられる。体育の種目において、全ての授業でICTの活用は環境を含めて、まだ難しいと考えられる部分もあるが、これからの時代を生き抜く生徒たちにとって、授業でICTを活用するということは、プラスになる面が大きいと考える。生徒たちが「できる」「できた」「分かった」と実感することは、自ら学び、考え、主体的に行動できる人物を育てることに繋がると考える。私たちは、学習指導要領解説の各種目の目標を達成させることができるよう、今後もアンケートを実施し、工夫改善しながら、よりよい教育の実践のために、自己研鑽に努めたい。

〈参考文献〉

沖縄県教育委員会 2020 『令和2年度版 学校教育における指導の努力点』

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編体育』

〈参考WEBサイト〉

Copilot in Edg

学校体育研究連合会設立の趣旨及び経緯

研究発表大会開催状況及び役員一覧

沖縄県学校体育研究連合会会則

沖縄県学校体育研究連合会表彰規定

全国学校体育功労賞及び県内功労賞受賞者一覧

1. 沖縄県学校体育連合会設立の趣旨

次代を担う青少年の健康と体力を向上させ、心身共に健全な育成を図ることは各個人の幸福はもちろん国家社会の発展のうえから極めて重大な課題である。

近年、わが国は科学技術の進歩や経済の高度成長により生活構造が急変し、日常生活における身体活動を著しく減変させ国民各層の体力低下の傾向を強めています。また、公害の発生や環境破壊が国民の生活と健康に新たな問題を投げかけ健康体力に対する関心を急激に高めている。

このような現実の推移の認識に立ち、時代の欲求に対応する体育のスポーツの普及と振興を図ることは、今や国をあげての基本的課題といわなければならない。

この課題をふまえ、将来の展望を試みる場合、他教科の研究課題が全県的、全国的研究組織のもとで、活発に研究が進められておりますが、学校体育は研究領域や内容が非常に多くあるにもかかわらず、全県的な研究体制が確立されず、個人や小範囲の研究組織のみでは、その実績はまことに遅々たるものであるように考える。

よって、この際各研究団体が研究の交流と未解決の問題に対処し、また九州全国的研究組織との密接な連繋のもとに研究の推進をはかるには全県的研究連合組織を確立して学校教育の発展を期する必要がある。

2. 沖縄県学校体育研究連合会設立の基本方針

1. 新組織の名称は、沖縄県学校体育研究連合会とする。
2. 本会の目的は、学校教育研究の振興をはかるにあること。
3. 加盟団体は県を総括する学校体育研究団体とすること。
県を総括する団体とは、小学校体育研究会、中学校体育研究会、高等学校体育研究会、女子体育連盟の団体をいう。
4. 役員の構成は、加盟団体との連携及び協力者、学識経験者の協力を強化するよう配慮する。
5. 経費は、加盟団体よりの負担金をもって当てること。
6. 初年度の事業は、結成記念大会を計画し、その他の事業計画及び 51 年度の事業実施計画は、新役員の選出後に企画する。
7. 新組織の結成に至るまでの準備推進は設立準備委員会がその責に当たる。

3. 沖縄県学校体育研究連合会（仮称）設立についての経過

復帰3年目を迎え、内外の情勢に対処し、体育スポーツの充実発展をはかるため、全県的な学校体育研究連合組織を設立する目的で、

1. 第1回準備委員会 50年3月12日

県内各学校体育団体（小体研、中体研、高体研、女体連）の代表が県体協会館に集まり、県学校体育研究連合会設立について話し合う。

<主な内容>

- (1) 県学校体育研究連合会設立の可否について意見の交換
- (2) 準備委員会の発足

2. 第2回準備委員会 50年4月22日

<主な内容>

- (1) 各研究団体における意見にもとづいて、研究連合組織可否についての意見交換
- (2) 九州各県の学校体育研究組織の現状及び動向の把握の必要性から、各県の資料の収集と検討について
(資料の収集、分析については、小委員会に付託)

3. 第3回準備委員会 50年8月29日

準備小委員会の資料にもとづいて、意見交換、県学校体育研究連合会（仮称）設立の方向で準備を進めることを確認する。

<主な内容>

- (1) 県学体研連設立の基本的事項の審議、設立の確認
- (2) 県学体研連結成に向けての具体的計画についての審議
 - 1) 計画の立案及び準備内容
 - 2) 役割分担

4. 第4回準備委員会 50年10月3日

<主な内容>

- (1) 県学体研連設立推進計画の審議
 - 1) 新委員会の趣旨及び経過説明
 - 2) 県学体研連会則の審議
- (2) 県学体研連結成時期について
- (3) 分科会、予算及び研究課題について

5. 第6回準備委員会 50年10月31日

＜主な内容＞

- (1) 沖学体研連結成のための事務分担
- (2) 分科小委員会
 - 1) 50年度の事業計画及び予算審議
 - 2) 第15回九州地区研究発表会、研究課題について

6. 第7回準備委員会 50年11月7日

＜主な内容＞

- (1) 第15回九州地区学校体育研究発表会会場選定について
- (2) 大会小委員会
 - 第15回九州地区学校体育研究発表会研究主題について

沖縄県学校体育研究発表大会開催状況ならびに役員等一覧

年度	回	会場他	会長	副会長	理事長	特別講師
昭和 50 年度 51. 2. 2	1 回 (結成)	沖縄市	玉城幸男	屋部和則 知念 清 金城光子	金城唯勝	松田岩男 (筑波大学教授)
51 年度 11. 26	九州 大会	沖縄市	玉城幸男	屋部和則 知念 清 金城光子	金城唯勝	阿波連朝松 (沖縄県文化協会会長)
54 年度 11. 1	2 回	那覇市	屋部和則	知念 清 仲地 浩	山城幸儀	小野三嗣 (東京学芸大教授)
57 年度 12. 3	3 回	名護市	中村正徳	知念 清 仲地 浩 宮里滝子	山城幸儀	竹之下休蔵 (東京教育大名誉教授)
58 年度 10. 6	4 回	石垣市	中村正徳	伊波永晃 仲地 浩 真栄城竹子	山城幸儀	佐伯聰夫 (筑波大学教授)
59 年度 11. 15 ～ 16	全国 大会	那覇市	中村正徳	伊波永晃 仲地 浩 真栄城竹子	山城幸儀	岩間英太郎 (日本体育大学学長)
60 年度 12. 6	6 回	豊見城村	仲地 浩	伊波永晃 真栄城竹子	諸喜田弘	團 琢磨 (広島大学教授)
61 年度 12. 5	7 回	平良市	仲地 浩	伊波永晃 佐敷興勇 真栄城竹子	諸喜田弘	嘉戸 脩 (東京学芸大教授)
62 年度 12. 4	8 回	沖縄市	花城清英	仲地 浩 佐敷興勇	池城 彰	福永哲夫 (東京大学助教授)
63 年度 12. 2	9 回	名護市	花城清英	仲地 浩 富山安信	池城 彰	松田岩男 (中京大学学長)
平成元 年度 12. 1	10 回	石垣市	富山安信	石川元康 野島英秀	亀川 爵	杉山重利 (文部省体育局体育官)
2 年度 11. 30	11 回	浦添市 那覇市	玉城 論	石川元康 野島英秀	亀川 爵	山本貞美 (鳴門教育大学教授)
3 年度 11. 29	12 回	平良市	野島英秀	下地昌吉 金城忠信 金城光子	我謝 工	矢野久英 (文教大学教授)
4 年度 11, 12 ～ 13	13 回	豊見城村	諸喜田弘	大城盛助	我謝 工	佐伯聰夫 (筑波大学教授) 永島惇正 (東京学芸大教授) 青木 真

年度	回	会場他	会長	副会長	理事長	特別講師
5 年度 12. 10	14 回	読谷村	前城文彦	金城繁雄 諸喜田弘 宜野座嗣郎	我謝正和	細江文利 (東京学芸大教授)
6 年度 11. 25	15 回	名護市	前城文彦	金城繁雄 松本正男 石川 力	我謝正和	池田延行 (文部省・教科調査官)
7 年度 11. 28	16 回	石垣市	石川 力	金城繁雄 松本正男 新垣 範	宮城 進	團 琢磨 (岡山大学教授)
8 年度 11. 22	17 回	那覇市	島袋真栄	金城繁雄 大浜勝彦 新垣 範	宮城 進	本村清人 (文部省・教科調査官)
9 年度 11. 21	18 回	南風原町	大浜勝彦	末吉一雄 国吉真介 新垣 範	東恩納吉一	落合 優 (横浜国立大学教授)
10 年度 11. 24	19 回	平良市	大浜勝彦	上間一弘 国吉真介 新垣 範	東恩納吉一	池田延行 (文部省・教科調査官)
11 年度 11. 30	20 回	西原町	比嘉幸吉	大浜勝彦 亀川 爵 新垣 範	友利貞子	村田芳子 (岡山大学教授)
12 年度 11. 16	21 回	名護市	比嘉幸吉	大城昌周 亀川 爵 石川八代子	多和田稔	佐久本嗣男 (県立南風原高等学校教頭)
13 年度 11. 16	22 回	石垣市	阿波連恵子	仲松鈴子 仲西起實 石川八代子	座安純一	鈴木秀人 (東京学芸大学教授)
14 年度 11. 20	23 回	那覇市	松根正廣	宮城初男 新城和道 石川八代子	座安純一	本村清人 (東京女子体育大学教授)
15 年度 11. 21	24 回	東風平町	宮城初男	松根正廣 宮城鉄男 石川八代子	相澤敬二	池田延行 (東京学芸大学教授)
16 年度 12. 3	25 回	平良市	宮城初男	松根正廣 安里辰憲 仲松鈴子	相澤敬二	今関 豊一 (文部科学省スポーツ青少年 局企画・体育課教科調査 官)
17 年度 10. 20	26 回	うるま市	与那城厚	上江洲由秀 與那覇実 仲松鈴子	下園良次	小澤治夫 (北海道教育大学教授)
18 年度 11. 10	27 回	宜野座村	与那城厚	上江洲由秀 東恩納吉一 宮良香代子	下園良次	濱元盛正 (琉球大学教育学部教授)

年度	回	会場他	会長	副会長	理事長	特別講師
19 年度 11.9	28 回	石垣市	上江洲由秀	東恩納吉一 宮良香代子 眞喜志康晴	山城昌樹	草野健次 (財)日本バレーボール協会 公認講師
20 年度	29 回 九州 大会	那覇市	山入端恵子	眞喜志康春 東恩納吉一 島袋厚子	山城昌樹	今関豊一 (順天堂大学准教授)
21 年度	30 回	南風原町	東恩納吉一	新城和道 山入端恵子 島袋厚子	金城智子	本村清人 (東京女子体育大学教授)
22 年度	31 回	宮古市	与那覇実	新城和道 山入端恵子 島袋厚子	金城智子	鈴木秀人 (東京学芸大学准教授)
23 年度	32 回	沖縄市	比嘉辰雄	永山清勝 座安純一 知花英子	仲座 正	白旗和也 (文部科学省スポーツ・青少年局 体育参事官付課教科調査官)
24 年度	33 回	宜野座村	比嘉辰雄	永山清勝 座安純一 知花英子	仲座 正	佐藤 豊 (鹿屋体育大学教授)
25 年度	34 回	石垣市	座安純一	宮城調仁 長田 肇 平良智枝子	比嘉直樹	高田彬成 (国立教育政策研究所教育課程 研究センター 教育課程調査官)
26 年度	35 回	浦添市	棚原秀則	宮城調仁 長田 肇 平良智枝子	比嘉直樹	森 良一 (文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育教育課教科調査官)
27 年度	36 回	宮古島市	兼屋辰郎	高江洲実 知名朝次 平良智恵子	吉田順太	清水 将 (国立大学法人岩手大学准教授 教育学部 保健体育 専任担当)
28 年度	37 回 九州 大会	浦添市 糸満市 南風原町	兼屋辰郎	上間三秀 知名朝次 川満直美	吉田順太	平田 太一 (南島詩人・演出家・脚本家・詩作家 公益財団法人沖縄県文化振興会 理事長)
29 年度	38 回	読谷村	東健策	兼屋辰郎 知名朝次 川満直美	古堅洋平	佐藤 豊 (桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツ教育学科 教授)
30 年度	39 回	名護市	吉野淳	兼屋辰郎 知名朝次 高良郁子	古堅洋平	白旗和也 (日本体育大学 体育学部 健康学科 教授)

年度	回	会場他	会長	副会長	理事長	特別講師
令和 元年度 11. 29	40 回	石垣市	知名朝次	城間 勝 兼屋辰郎 高良郁子	比嘉直樹	高橋修一 (日本女子体育大学 体育学部教授)
2 年度 11. 27	41 回	那覇市	城間敏生	城間 勝 根路銘 敢 又吉美奈子	比嘉直樹	誌上開催のため 特別講演なし
3 年度 10. 29	42 回	南風原町	根路銘敢	島川直樹 安次富利恵子 又吉美奈子	上原立誠	清水 将 (国立大学法人岩手大学 教育学部 大学院教育学研究科 兼務 准教授)
3 年度 10. 29	42 回	南風原町	根路銘敢	島川直樹 安次富利恵子 又吉美奈子	上原立誠	清水 将 (国立大学法人岩手大学 教育学部 大学院教育学研究科 兼務 准教授)
3 年度 10. 29	42 回	南風原町	根路銘敢	島川直樹 安次富利恵子 又吉美奈子	上原立誠	清水 将 (国立大学法人岩手大学 教育学部 大学院教育学研究科 兼務 准教授)
4 年度 11. 25	43 回	宮古島市	宮城弘之	島川直樹 安次富利恵子 又吉美奈子	高里 樹	原 祐一 (国立大学法人岡山大学 学術研究院教育学域 純教授)
5 年度 12. 1	44 回	中城村	新垣剛志	金子雅仁 宮城弘之 宇地原光 又吉美奈子	宮平琢磨	木村 昌彦 (横浜国立大学 教育学部長 教育研究科長 教授)
6 年度 11. 22	45 回 九州 大会	国頭地区	新垣剛志	金子雅仁 島袋勝範 宇地原光 大城まち子	宮平琢磨	清水 将 国立大学法人岩手大学 教育学部大学院教育研究科 准教授

沖縄県学校体育研究連合会会則

(名 称)

第1条 本会は沖縄県学校体育研究連合会と称する。

(事務局)

第2条 本会の事務局は会長の定めるところにおく。

(目 的)

第3条 本会は学校体育研団体の連絡提携を密にし、学校体育に関する研究及び調査を行ない、あわせて会員の資質向上をはかり、もって学校体育の振興をはかることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は前条の目的を達成する、次の事業を行う。

- 1 研究会、講習会、後援会の開催
- 2 研究調査の実施
- 3 研究校、研究協力校などの指定及び委嘱
- 4 各研究団体との連絡調整
- 5 その他本会の目的達成に必要な事項

(組 織)

第5条 本会は県を総括代表する学校体育研究団体をもって組織する。

(役 員)

第6条 本会に次の役員をおく。

会長1名、副会長3名、理事16名、(理事長1名、常任理事4名、理事11名)、庶務計2名、
監事2名

(役員の選出)

第7条 本会の役員は次により定める。

- 1 会長、副会長は理事会で選出する。
- 2 理事は各加盟団体より4名選出し、うち1名を常任理事とする。理事長は理事の互選で定める。
- 3 庶務会計及び監事は理事会が推薦し、会長がこれを委嘱する。

(役員の任務)

第 8 条 本会の役員は次の任務を行う。

- 1 会長は本会の業務を総括し、本会を代表する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときは、会長の職務を代行する。
- 3 理事長は会長を補佐し、本会の業務を掌理する。
- 4 理事長は本会の会務を審議する。
- 5 常任理事は理事長を補佐し、本会の日常の業務に従事する。
- 6 庶務会計は会計及び事務に従事する。
- 7 監事は会計を監査する。

(顧問及び参与)

第 9 条 本会は顧問及び参与をおくことができる。

- 1 顧問及び参与は理事会の推薦によって会長が委嘱する。
- 2 顧問は、会長の必要と認める事項について諮問に応じ、参与は会長委嘱した特別事項を処理する。

(役員の任期)

第 10 条 本会の役員の任期は 2 年とする、ただし再任を妨げない。

補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

(理事会)

第 11 条 理事会は会長、副会長、理事をもって組織し、必要に応じて会長が収集する。

- 1 理事会で議決する事項は次のとおりである。
 - (1) 会則の改正
 - (2) 予算、決算の承認
 - (3) 事業計画
 - (4) その他必要な事項
- 2 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は会長が決める。

(経 費)

第 12 条 本会の経費は加盟団体の負担及びその他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第 13 条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

付則 本会則は昭和 50 年 11 月 10 日から施行する。

沖縄県学校体育研究連合会功労賞表彰規定

第1条 本県学校体育の振興に寄与した功績顕著な個人又は団体を表彰する。

第2条 被表彰者の範囲は次の通りとし、功労賞審査委員会（以下「審査委員会」という）の審議を経て選定し表彰する。

1. 県立及び公立学校等の教職員又は団体。
1. 沖縄県学校体育研究連合会の地区研究会の役員または団体。
1. 沖縄県学校体育研究連合会の役員。

第3条 審査委員会の構成は、沖縄県学校体育研究連合会会長の指名する同会の役員ならびに会長の委属する者をもって組織し、会長はこれを総括する。

第4条 被表彰者の推薦は、校種別研究会（県女子体育連盟を含む。以下同じ）においてこれを行う。

第5条 審査委員会で審査する基準は次の通りとする。（次のいずれかに該当するもの）

1. 県立及び公立学校等の教職員にあたっては概ね18年以上勤務し、学校体育の伸展に寄与した功績があるもの。ただし、功績が特に顕著なものにおいては、この限りではない。
1. 研究学校等を通して体育の指導実践に努め優秀な実績をおさめたもの。
1. 県研究連合会の役員として会活動に貢献したもの。
1. 校種別もしくは、地区研究会の役員として組織活動の伸展に寄与した功績顕著なもの。
1. 同会員として2年以上在任し、沖縄県学校体育研究連合会の伸展に寄与したもの。
1. 退職者を推薦対象に含めることができる。（退職年度以降3年以内とする）
1. 故人の推薦は、推薦年度内に逝去された場合に限る。

第6条 被表彰者の推薦にあつては、各校種6人以内とし、それぞれの校種別に従って所定の様式に必要な事項を記載し、指定の期日までに沖縄県学校体育研究連合会会長宛に送付する。

第7条 審査委員会においては、第5条の基準によって審査し被表彰者を決定する。

第8条 表彰は原則として沖縄県学校体育研究発表大会のときに会長等がこれを行う。

第9条 審査委員会は委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
但し、委員がやむなく出席できない場合は委任状をもって審査委員会の審議について委任するものとする。

附則 本規定の改正は本連合会理事会を以て行う。

- 1 この規定は、昭和60年10月14日から適用する。
- 2 この規定は、平成30年 6月21日一部改正 （第10条追加、附則の追加）
- 3 この規定は、令和3年 5月13日一部改正 （第5条訂正並びに追加）
- 4 この規定は、令和3年 10月14日一部改正 （第2・6・8条訂正、第9条削除）

沖縄県学校体育研究連合会奨励賞表彰規定

第1条 本県学校体育の振興に貢献したと認められる個人を表彰する。

第2条 被表彰者の範囲は次の通りとし、奨励賞審査委員会（以下「審査委員会」という）の審議を経て選定し表彰する。

1. 県立及び公立学校等の教職員。
1. 沖縄県学校体育研究連合会の地区研究会の役員。
1. 沖縄県学校体育研究連合会の役員。

第3条 審査委員会の構成は、沖縄県学校体育研究連合会会長の指名する同会の役員ならびに会長の委属する者をもて組織し、会長はこれを総括する。

第4条 被表彰者の推薦は、校種別研究会（県女子体育連盟を含む。以下同じ）においてこれを行う。

第5条 審査委員会で審査する基準は次の通りとする。（次のいずれかに該当するもの）

1. 県立及び公立学校等の教職員にあたっては概ね8年以上勤務し、学校体育の伸展に寄与した功績があるもの。ただし、功績が特に顕著なものにおいては、この限りではない。
1. 研究学校等を通して体育の指導実践に努め優秀な実績をおさめたもの。
1. 県研究連合会の役員として会活動に貢献したもの。
1. 校種別もしくは、地区研究会の役員として組織活動の伸展に寄与した功績顕著なもの。
1. 同会員として2年以上在任し、沖縄県学校体育研究連合会の伸展に寄与したもの。

第6条 被表彰者の推薦にあつては、各校種2人以内とし、それぞれの校種別に従って所定の様式に必要な事項を記載し、指定の期日までに沖縄県学校体育研究連合会会長宛に送付する。

第7条 審査委員会においては、第5条の基準によって審査し被表彰者を決定する。

第8条 表彰は原則として沖縄県学校体育研究発表大会のときに会長等がこれを行う。

第9条 審査委員会は委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
但し、委員がやむなく出席できない場合は委任状をもって審査委員会の審議について委任するものとする。

附則 本規定の改正は本連合会理事会を以て行う。

- 1 この規定は、令和3年10月14日から適用する。

全国体育功劳賞及び県内功劳賞受賞一覧

年度	全国功劳者	県内功劳者		
		小学校	中学校	高等学校
昭和51年	田 津 時 男 (小) 玉 城 幸 男 (中) 屋 部 和 則 (高)			
52年	前 田 真 一 (小) 渡嘉敷 兼保 (中) 翁 長 維 行 (高)			
53年	石 垣 清 一 (小) 玉那覇 正 孝 (中) 中 村 義 永 (高)			
54年	新 垣 淑 勇 (小) 安谷屋 玄 長 (中) 平 良 肇 (高)			
55年	知 念 清 (小) 新 崎 盛 繁 (中) 大 浜 裕 子 (高)			
56年	友 利 清 次 (中) 新 垣 久 子 (中)			
57年	津 波 昭 行 (小) 波 平 重 信 (指) 山 内 昌 雄 (教) 新 垣 達 明 (小)	知 念 清		
58年	中 村 金 三 (小) 當 真 哲 雄 (中)			
59年	米 田 精 仁 (小) 伊 波 永 晃 (中) 仲 地 浩 (小)			
60年	金 城 唯 勝 (小) 中 村 正 徳 (高) 玉 栄 徳 治 (中)	嶺 井 巖		中 村 正 徳 山 城 幸 儀
61年	花 城 清 栄 奥 平 玄 位 比 嘉 敏 雄	奥 平 玄 位 石 原 佑 哲		
62年	石 川 元 康 田 場 健 造 石 原 佑 哲	川 畑 良 子 伊 波 永 晃	仲 地 浩 諸喜田 弘	
63年	奥 間 偉 功 野 島 英 秀 山 城 幸 儀	奥 間 偉 功 石 川 元 康	米 田 精 仁 池 村 嘉 信 運 天 政 智	真栄城 竹 子

年度	全国功労者	県内功労者		
		小学校	中学校	高等学校
平成元年	大 城 博 松 田 正 紀 内 間 康 文	嘉 数 恵 子 山 城 和 弘 花 城 清 英 大 城 盛 助 友 利 栄 吉 諸友名 朝 富	大 浜 勝 彦 松 本 正 男 慶田城 實	宮 良 博 之
2 年	下 地 昌 吉 慶田城 實 吉 友 利 栄 吉	下 地 昌 吉 井 口 信 子 金 城 繁 雄 塩 川 寛 栄 大 盛 哲 雄 上 原 担	渡嘉敷 直 勝 大 湾 稔 功 金 城 盛 功	富 山 安 信
3 年	大 城 盛 助 諸喜田 弘 宇地原 徳 淳	嘉手刈 喜 郎 花 城 昌 子 宮 城 芳 枝 山 川 雅 貝	下 地 米 子 仲 田 繁 市 新 城 英 彦 當 真 嗣 周 宮 里 滝 子	玉 城 諭 亀 川 爵 阿波連 恵 子
4 年	嘉手刈 喜 郎 下 地 昭 夫 石 川 力	なし	なし	なし
5 年	塩 川 寛 栄 山 城 和 弘 池 村 嘉 信	平 良 誠 儀 真玉橋 宜 子 波照間 ミサ子 安 田 栄 一 沖 山 周 三 宮 城 松 生 山 内 ミサエ 末 吉 一 男	真 島 長 治 新 屋 信 子 奥 間 良 邦 宮 里 善 栄 大 城 清 功 佐渡山 初 子 大 濱 淑 子 新 垣 範	城 間 米 子 石 川 晴 祥 平 良 恵 辰 島 袋 善 厚 真 島 弘 子 (女子体育) 金 城 忠 信 (感謝状)
6 年	金 城 繁 雄 松 本 正 男 上 原 担	仲 田 正 則 伊志嶺 忠 一 池 城 彰 夫 仲宗根 武 淳 仲宗根 玄 正 宮 良 正	上 間 正 桃 原 佑 好 末 吉 久 友 吉 田 進 仲村渠 良 雄 我 謝 工	宜野座 嗣 郎 (感謝状) 宮 城 邦 子 富 田 弘 宮 城 伸 泰 比 嘉 美代子
7 年	平 良 亀 安 新 垣 範 小 浜 光次郎	前 城 文 彦 大 湾 達 一 山 川 宗 宏 上 間 一 弘 下 里 隆 安 平 良 亀	宮 平 明 大 舛 孝 子 山 城 興 治 小 禄 恒 栄 入 里 奈留代	仲 盛 広 伸 富 永 登 長 浜 和 子 与那覇 慶 子 前 田 順 子
8 年	末 吉 一 雄 宮 里 善 栄 亀 川 爵	島 元 実 子 糸 満 旦 男 玉 城 照 彦 花 城 正 美 照 屋 厚	野 里 千恵子 比 嘉 良 雄 比屋根 方 次 石 垣 毅 子 真栄城 京 一 与 座 健 光 山 内 政 光	神 谷 操 子 白 金 広 正 友 寄 隆 男 新 里 由 美 島 袋 光 子
9 年	仲 田 正 則 大 濱 淑 子 阿波連 恵 子	安 田 栄 蔵 辺土名 勝 祐 安次嶺 絹 枝 友 利 貞 子 嶺 井 憲 子 岸本光哉(物故)	羽 地 良 正 知 念 春 雄 照 屋 勝 男 末 吉 敏 子 佐久川 勲 宮 良 香代子	泉 川 寛 永 宮 城 進 渡久地 美代子 上江洲 益 夫

年度	全国功労者	県内功労者		
		小学校	中学校	高等学校
10年	玉城照彦 佐渡山初子 渡久地美代子	比嘉辰雄 宮城登 比嘉幸吉 与那城厚 入嵩西純	仲松鈴子 勝連盛豊 川満弘志 入稲福威 新里光子	国吉真介 島袋真栄
11年	池城彰 大濱勝彦 石川晴祥	傳道光枝 伊波正明	伊佐盛信 米須良成 宮城加代子 上地多恵子 謝花直子 大城嘉子	石川八代子 松根正廣 安富祖弘 今井俊彦
12年	上間一弘 當真嗣周進 宮城進	比嘉源勇 當山武志和 我謝正和	宮里良嗣 宮原信也	仲村春憲 伊波正和 田島香代子
13年	比嘉幸吉 友利貞子 知念春雄 島袋善厚		友寄史子 新城英彦 佐久本茂美 大江洋子 前森恵子	新垣忠男 佐久本嗣男 山入端恵子
14年	神谷嘉善 波照間ミサ子 糸満國男 山川雅則	仲西起實 多和田稔 吉濱剛 平良隆	仲本輝雄 入里幸子 本村みどり 平良勝也	田場茂安 比嘉元子 神山郁子
15年	傳道光枝 石川八代子 松根正廣	池原盛勝 亀川盛敏 漢那憲吉	前城清夫 新田健子 島袋厚繁 比嘉留美子	平識系子
16年	池原盛勝 宮城初男 上江洲益夫	小谷優 下地政昭 儀間真栄	上地幸市 上原廣子 野原敏之 古堅宗男 平田誠 我謝達美 知花英子	座安純一 多良間勉 本村邦彦 新城勝子 比嘉幸子
17年	仲松鈴子 糸満旦男 富田弘	平安山良康 宇都宮幸雄	比嘉宏一 東恩納吉隆 宜野座	西原利枝 町田米雄 翁長良成 比嘉律子
18年	伊波正明 本村みどり 今井敏彦	新城和道 大湾清彦	与那覇実子 山城恵武 上原	上江洲由秀 玉城学
19年	宮良香代子 花城正美 我謝工秀 上江洲由秀	玉城義一 知念智行 大川実弘 佐事安弘	大浦武芳 東迎和直 川満美	与那嶺英子 伊志嶺秀幸 川畑三矢
20年	我謝正和 古堅宗男 長浜和子	東健策 濱元朝純	与那覇正博 宮良信浩	國場馨 比嘉正央
21年	与那城厚一 東恩納吉由美 新里由美	横田恵次 下園良正 盛正弥実 早田実	比嘉惟善 宮城調仁 亀浜敏郎	上里弘美 山城昌樹 比嘉直樹

年度	全国功労者	県内功労者		
		小学校	中学校	高等学校
22年	与那覇実 山入端恵子 島袋厚子	宮良勝也 永松才易 眞喜志康春	砂川弘康 大城ひろみ 山城淳二 崎原盛幸 相澤敬二 島袋秀雄	又吉美奈子 大城まち子 平良智枝子
23年	眞喜志康春 大江洋子 上地幸市	本仲範男 幸地政行 田端一正 高江洲実	伊志嶺哲男 永山清勝 仲座千鶴子 伊志嶺吉作 知念専子	安次富利恵子
24年	仲西起實 永山清勝 比嘉律子	伊禮健 佐久本広志 新垣剛志 新垣朝洋	上間一紀 山田宏	
25年	新城和道 新宮城調仁 座安純一	城間勝	岸本敏孝 金城智子	具志堅侃 和宇慶朝一
26年	大湾清彦 知花英子 白金広正	宇江城詮 田場盛博 與儀毅	兼屋辰郎 新城敦 石川正信 島袋賢雄 長嶺文男 平敷艶子	
27年	吉濱剛 平田誠	本村晃則 砂川博明 前三盛敦 仲座正 吉野淳 砂川武彦	山内昌 當眞準	
28年	田場茂安	島袋盛章	具志堅弘 具志修 高良郁子	知名朝次 儀間昌子
29年	玉城義一 石川正信	長田肇 又吉元晃 仲間一史 赤嶺智郎 玉城和機 金子雅仁 赤嶺えりか	宮城靖 與儀幸朝 吉田順太 比嘉昌裕 澤村弘美	棚原秀則 前村幸芳
30年	東健策 佐事安弘 早田実	眞喜志達哉 城田聡 根保輝	金城正武 仲宗根賢 神谷加代子 上江田和人 新垣優	新垣智也
令和 元年	大川実 兼屋辰郎 砂川弘康	上間三秀 高島友幸 金城一石	比嘉康博 佐久川譲治 仲盛康治 慶留間清和 宜野座淳司 前底さゆり	北岡哲治

令和 2年	澤村弘美 金城智子 知名朝次	安座間直樹 大嶺悟 玉城健 高良一貴	宮城研治 根路銘敢 山口大輔 城間美奈子 宮城弘之 照屋謙二 下地秀隆 伊敷尚也 新崎峰子	樋口稔浩 當眞幸代
年度	全国功労者	県内功労者		
		小学校	中学校	高等学校
令和 3年	川満直美 根路銘敢 平良智枝子	佐渡山園美 知念香織 木村洋一 新垣三貴子 高木健一郎	東江功子 松島良規 許田新子 真島円子	親田篤子
令和 4年	横田恵 東江功子 安次富利恵子	功労者 比嘉豊樹 下地忠夫 福原保成 大嶺成一志 玉城太郎 上原太郎 奨励者 長嶺文士郎	功労者 濱川泰成 砂川文子 与那覇周作 奨励者 與那覇慎也 古堅秀樹	功労者 町田藤乃 奨励者 該当者なし
令和 5年	吉野淳 宮城弘之 又吉美奈子	功労者 屋田巧 大城勝則 山城昌義 小林弘樹 宮良善起 奨励者 該当者なし	功労者 前泊一郎 友利和広 松堂弘政 柳井倉人 平良真也 根間光代 奨励者 該当者なし	功労者 喜屋武三奈 奨励者 該当者なし
令和 6年	田場盛博 新垣剛志 神谷加代子 全国学校体育優良校 南城市立船越小学校	功労者 大城和之 瀬名波淳 砂川達也 花城昌義 奨励者 該当者なし	功労者 兼城雅也 池原幹 砂川龍馬 奨励者 該当者なし	功労者 該当者なし 奨励者 該当者なし